

令和5年度

(2023)

新発田市の教育



新発田市教育委員会



表紙 / 猿橋中学校（「しばたの大人と未来を語る会」）

昨年度、猿橋中学校は、「しばたの心継承プロジェクト」の推進モデル校として、地域連携教育の地域学習のテーマである「地域を愛し地域に貢献しようとする生徒の育成」を柱に、これまで学年ごとに実践してきた「自然、歴史・文化、人」とふれあい活動を発展させた活動を設定しました。2年生では、働くことや生きていくことへの認識を深め、地域や社会と関わりながら自立する力を育む「しばたの大人と未来を語る会」を実施しました。27名のゲストの中から3名を選択し、35分のローテーションで行った「仕事・生き方トーク」では、講師が、成功体験よりも失敗や挫折、悩みながらも今を精一杯生きていることを自分の言葉で語り、生徒にとっての生き方のヒントや励ましになっていました。生徒自身が、将来、「明るい未来」「なりたい自分」になっていくために必要な自分自身の「生き方」を考える機会となりました。

葉で語り、生徒にとっての生き方のヒントや励ましになっていました。生徒自身が、将来、「明るい未来」「なりたい自分」になっていくために必要な自分自身の「生き方」を考える機会となりました。

目 次

	目 次	《 資 料 》
教育大綱・・・・・・・・・・・・・・・・	1	1 歴代教育委員等一覧・・・・・・・・ 60
教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・	3	2 各種委員・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
教育委員会の組織・・・・・・・・・・	4	3 学校教育関係団体一覧・・・・・・・・ 67
令和5年度一般会計予算(当初)・・	5	4 市立教育施設一覧・・・・・・・・・・ 68
一般会計予算と教育費の推移(当初)・・	5	5 幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
教育関係予算・・・・・・・・・・・・・	6	6 小学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
教育費(10款)以外の教育関係予算・・	7	7 中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
教育総務・・・・・・・・・・・・・・・・	8	8 市立学校の統廃合、新設、分離の状況・ 96
学校教育・・・・・・・・・・・・・・・・	10	9 市立教育施設の状況・・・・・・・・ 98
学校教育の指針・・・・・・・・・・・・・	12	10 年度別義務教育施設等の整備状況・・ 99
学力向上・・・・・・・・・・・・・・・・	19	11 学校給食の状況・・・・・・・・・・ 100
豊かな心の育成・・・・・・・・・・・・・	20	12 園児・児童・生徒・学級数等一覧・・ 102
体力の向上・・・・・・・・・・・・・・・・	21	13 教員・児童・生徒数の推移・・・・・ 105
人権教育、同和教育・・・・・・・・・・	22	14 特別支援学級設置状況の推移・・・・・ 105
特別支援教育・・・・・・・・・・・・・	23	15 いじめ・不登校の推移・・・・・・・・ 106
研究委託校等・・・・・・・・・・・・・	24	16 社会教育関係施設一覧・・・・・・・・ 107
学校保健・・・・・・・・・・・・・・・・	25	17 指定文化財一覧・・・・・・・・・・ 108
しばたの心継承プロジェクト・・・・・	26	18 国登録文化財一覧・・・・・・・・・・ 110
文化行政・・・・・・・・・・・・・・・・	29	19 社会教育施設利用状況・・・・・・・・ 111
埋蔵文化財・・・・・・・・・・・・・・・・	30	20 文化財公開状況・・・・・・・・・・ 111
文化芸術振興室・・・・・・・・・・・・・	31	21 図書館運営実績・・・・・・・・・・ 112
図書館・・・・・・・・・・・・・・・・	35	22 歴史図書館運営実績・・・・・・・・ 115
中央図書館・・・・・・・・・・・・・	36	23 公民館施設等利用状況・・・・・・・・ 117
歴史図書館・・・・・・・・・・・・・	38	24 地区公民館受託管理施設利用状況・・ 118
生涯学習課・・・・・・・・・・・・・	40	25 市民文化会館事業実績・・・・・・・・ 120
新発田地区公民館・・・・・・・・・・	43	26 青少年健全育成センター等施設一覧・・ 121
豊浦地区公民館・・・・・・・・・・	47	27 青少年健全育成センター等利用状況・・ 122
紫雲寺地区公民館・・・・・・・・・・	50	28 補導活動の状況・・・・・・・・・・ 122
加治川地区公民館・・・・・・・・・・	54	
生涯学習センター・・・・・・・・・・	57	
青少年健全育成センター・児童センター・	58	

新 発 田 市 教 育 大 綱

令和2年3月
新 発 田 市

I 教育大綱について

1 趣旨

平成27年4月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、地方公共団体は、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとなりました。

教育大綱は、新発田市のまちづくりの基本方針を定める「新発田市まちづくり総合計画（以下、「まちづくり総合計画」という。）」を基本とし、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき定めるものです。

2 期間

教育大綱の期間は、令和2年度から令和9年度までの8年間とします。なお、今後の社会情勢等の変化やまちづくり総合計画の改訂などに合わせ、必要に応じ見直すこととします。

3 教育大綱の考え方

新発田市は、まちづくり総合計画において、「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」という将来都市像の実現に向け、5つの基本目標を掲げ、その中で「教育・文化」の基本目標については、「学校教育」「学校環境」「生涯学習」「青少年育成」「文化芸術・文化財」の5つを主要な施策として位置づけ、教育に関する施策を展開します。

教育大綱は、上位計画であるまちづくり総合計画の教育に関する基本目標及び施策の内容を踏まえ、「基本目標」及び「基本方針」で構成します。

II 新発田市がめざす教育について

1 基本目標

- ◎ 学校教育と社会教育の両面から、新発田の歴史や文化を理解し、自然に親しみ、地域への愛着や誇りを持った子どもを育成します。
- ◎ 子どもが安心して学び育つ環境のもと、学ぶ意欲と確かな学力を育て、人権教育、同和教育及び食育を推進し、命を大切に作る心を育成します。
- ◎ 家庭や地域、学校間の連携により社会に開かれ、地域とともに歩む学校づくりを進めます。
- ◎ 家庭教育の充実と青少年の健全育成に努め、豊かな社会性や主体的な行動力を持った子どもを育成します。
- ◎ 生涯にわたる市民の学びの意欲に応えるとともに、歴史資料や文化財等の適切な保存・活用や芸術に触れる機会の充実に努め、文化芸術の振興を図ります。

2 基本方針

(1) 学校教育

- 人に対して敬意を払い、人を第一に思い、人を大事にする「しばたの心」をもった子どもを育成する教育を推進します。
- 課題をよりよく解決しようと主体的に学ぶ態度と、知識及び技能の確実な習得及び思考力、判断力、表現力の育成に取り組み、学力の向上を図ります。
- いじめや差別をしない、許さない、自他の命を大切にする心やよりよく生きるための主体的な判断力、態度を育成します。
- 健康や安全、自然災害等に対する正しい知識や技能を基に、健康の保持増進や命を守るための実践的な態度を育成します。

(2) 学校環境

- 子どもたちが快適に学ぶことができるよう、教育環境の充実や学校施設等の改修や整備を進めます。
- Society5.0（※）時代をたくましく生きる子どもの育成に向け、分かりやすい授業、学習の効率化、学ぶ意欲の向上のため、ICTを活用した学習環境の充実を図ります。
- 学校、家庭、地域、行政が協働し、子どもたちにとって安全・安心な学校環境の整備を推進します。

(3) 生涯学習

- 市民の生涯学習活動を充実させるため、多様化するニーズに応えた事業展開を推進します。
- 学習活動を幅広く支援し、市民の健康増進に寄与します。
- 中学生、高校生、青年層を中心とした社会教育施設の利用の拡大を目指します。

(4) 青少年育成

- 「豊かな心と広い視野をもち、自主性・社会性・創造性に富んだ子ども」の育成を目指した施策を推進します。
- 学校や家庭、地域社会が一体となった育成活動を行うとともに、社会参加活動や体験活動により「生きる力」を持つ青少年の育成に努めます。

(5) 文化芸術・文化財

- 市内の文化財等の適正な保存と活用を図ります。
- 歴史や文化の魅力を発信し、郷土への理解と関心を深めてもらうとともに、文化芸術を身近に感じられるまちを目指します。
- 市民の文化芸術活動の発表の場と文化芸術に触れる機会の充実に努めます。

※ Society5.0

情報共有が不十分であったこれまでの情報社会（Society4.0）から、IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これからの課題や困難を解決していく社会

教育委員会



工藤教育長



関川教育長職務代理者



笠原委員



村川委員

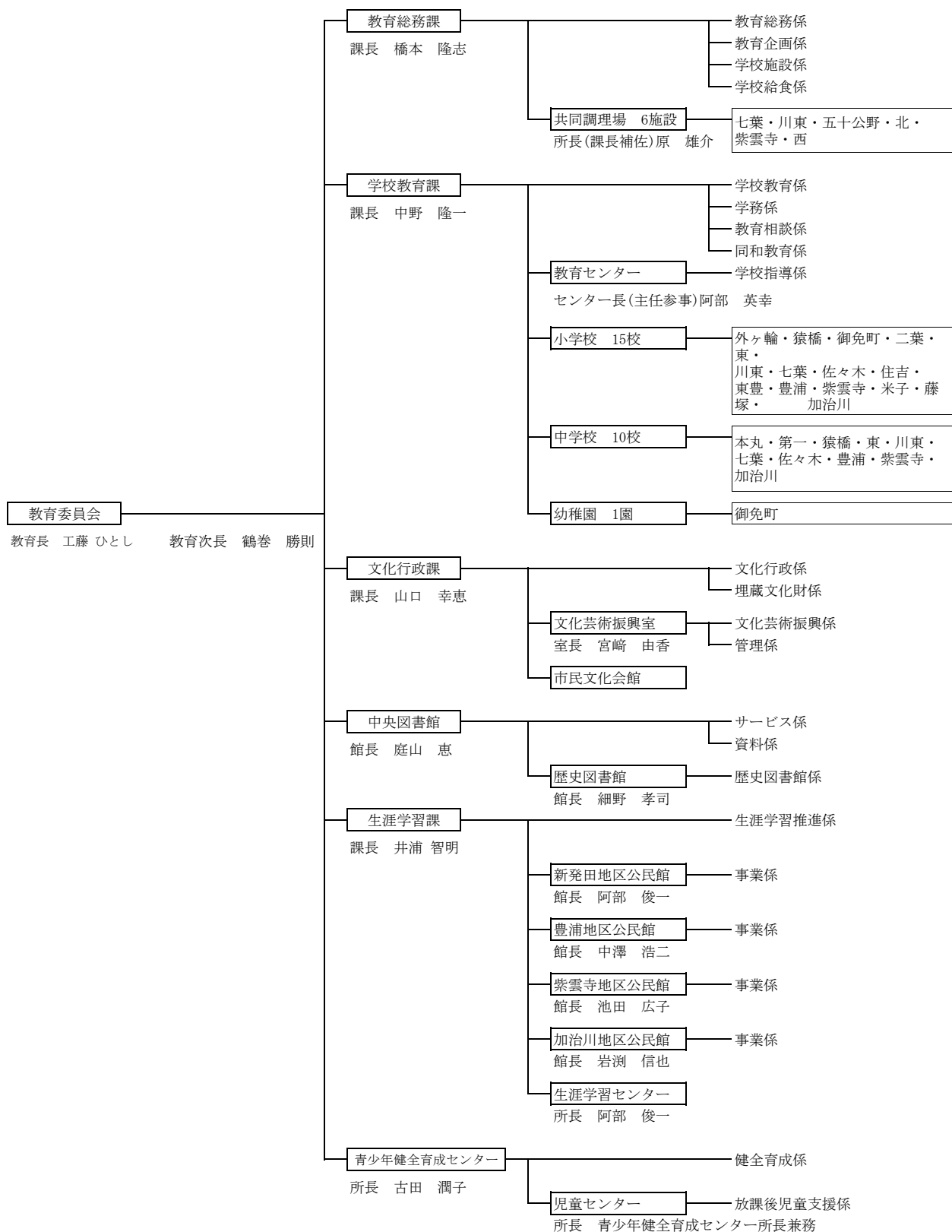


山崎委員

1 教育委員会

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	くどう 工藤 ひとし	令和3年4月1日～令和6年3月31日
教育長職務代理者	せきかわ 関川 なおし 直	令和2年4月1日～令和6年3月31日
委 員	かさほら 笠原 きょうこ 恭子	令和5年4月1日～令和9年3月31日
委 員	むらかわ 村川 たかこ 孝子	令和3年4月1日～令和7年3月31日
委 員	やまざき 山崎 ゆき 由紀	令和4年4月1日～令和8年3月31日

教育委員会の組織（令和5年4月1日現在）



教育予算

1 令和5年度一般会計予算（当初）

（歳 入）

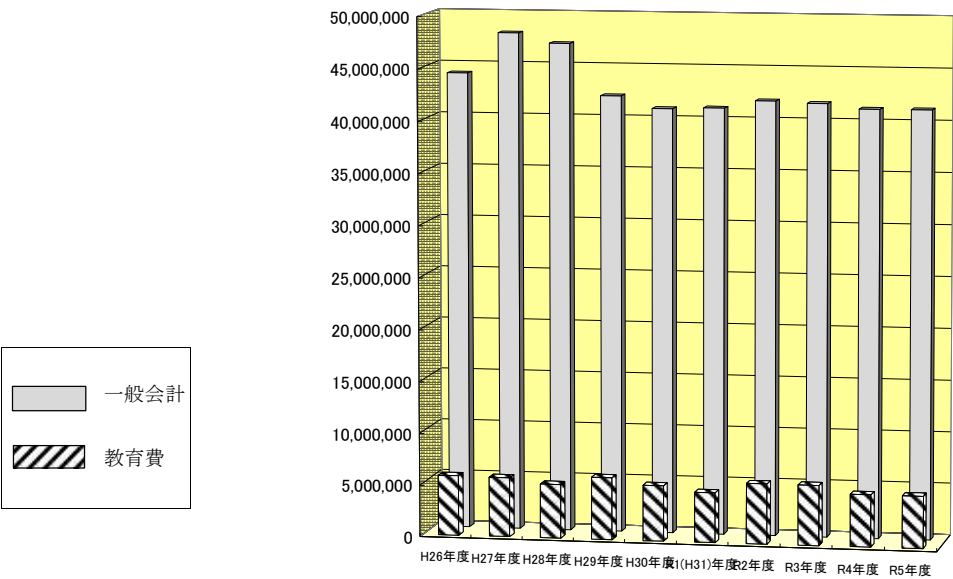
款	予算額（千円）	構成比
1 市 税	11,759,568	27.05%
2 地方譲与税	414,800	0.95%
3 利子割交付金	5,000	0.01%
4 配当割交付金	64,000	0.15%
5 株式等譲渡所得割交付金	44,000	0.10%
6 法人事業税交付金	150,000	0.34%
7 地方消費税交付金	2,443,000	5.62%
8 ゴルフ場利用税交付金	64,000	0.15%
9 環境性能割交付税	27,000	0.06%
10 国有提供施設等所在市町村助成交付金	5,700	0.01%
11 地方特例交付金	107,000	0.25%
12 地方交付税	12,460,000	28.66%
13 交通安全対策特別交付金	12,273	0.03%
14 電源立地促進対策交付金	6,292	0.01%
15 石油貯蔵施設立地対策交付金	7,174	0.02%
16 分担金及び負担金	89,539	0.21%
17 使用料及び手数料	598,497	1.38%
18 国庫支出金	5,649,022	12.99%
19 県支出金	3,445,634	7.92%
20 財産収入	52,777	0.12%
21 寄 附 金	570,000	1.31%
22 繰 入 金	1,359,377	3.13%
23 繰 越 金	300,000	0.69%
24 諸 収 入	997,085	2.29%
25 市 債	2,848,262	6.55%
合 計	43,480,000	100.00%

（歳 出）

款	予算額（千円）
1 議会費	281,414
2 総務費	4,414,233
3 民生費	13,427,805
4 衛生費	3,144,150
5 労働費	59,145
6 農林水産業費	2,352,826
7 商工費	1,117,869
8 土木費	5,627,431
9 消防費	1,364,529
10 教育費	6,769,444
11 公債費	4,871,154
12 予備費	50,000
合 計	43,480,000

2 一般会計予算と教育費の推移（当初）

（単位:千円）



年 度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1(H31)年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
一般会計予算（千円）	44,110,000	48,040,000	47,100,000	42,150,000	41,000,000	41,130,000	41,890,000	41,730,000	41,270,000	41,270,000
教 育 費（千円）	5,764,542	5,698,315	5,193,108	5,972,351	5,332,945	4,799,053	5,784,757	5,778,788	5,020,627	5,020,627
一般会計予算に対する教育費の比率（%）	13.07	11.86	11.03	14.17	13.01	11.67	13.81	13.85	12.17	12.17

3 教育関係予算

(単位：千円)

款・項・目	年 度 比 較		
	令和5年度 当初予算額	令和4年度 当初予算額	前年度比率 (%)
10 教育費	6,769,444	5,020,627	134.8%
1 教育総務費	388,605	379,393	102.4%
1 教育委員会費	3,574	3,674	97.3%
2 事務局費	362,943	349,301	103.9%
3 人材育成費	2,084	6,414	32.5%
4 教育振興基金費	20,004	20,004	100.0%
2 小学校費	886,508	800,911	110.7%
1 学校管理費	539,224	488,302	110.4%
2 教育振興費	293,884	276,051	106.5%
3 学校建設費	53,400	36,558	146.1%
3 中学校費	1,240,484	463,320	267.7%
1 学校管理費	288,830	244,270	118.2%
2 教育振興費	183,216	177,569	103.2%
3 学校建設費	768,438	41,481	1852.5%
4 幼稚園費	2,419,640	1,715,067	141.1%
1 幼稚園管理費	53,534	59,485	90.0%
2 こども園費	2,366,106	1,655,582	142.9%
5 社会教育費	957,126	835,905	114.5%
1 社会教育総務費	321,785	277,531	115.9%
2 公民館及び市民文化会館費	366,110	309,578	118.3%
3 生涯学習費	45,624	39,744	114.8%
4 図書館費	223,607	209,052	107.0%
6 保健体育費	303,965	299,918	101.3%
1 保健体育総務費	86,572	95,877	90.3%
2 体育施設費	217,393	204,041	106.5%
7 学校給食費	573,116	526,113	108.9%
1 学校給食管理費	536,496	484,532	110.7%
2 学校給食調理場建設費	36,620	41,581	88.1%

4 教育費（10款）以外の教育関係予算

（単位：千円）

款・項・目	年 度 比 較			
	令和5年度 当初予算額	左のうち、教育 関係予算額	昨年度の教育 関係予算額	前年度比率 (%)
3 民生費	13,427,805	226,513	13,838,621	1.6%
1 社会福祉費				
6 地方改善整備費	12,860	851	12,141	7.0%
2 児童福祉費				
1 児童福祉総務費	70,026	573	71,698	0.8%
6 青少年健全育成費	230,787	189,110	363,952	52.0%
7 子育て支援事業費	186,639	35,979	119,655	30.1%
8 土木費	5,627,431	5,344	5,073,187	0.1%
2 道路橋りょう費				
3 除雪費	729,029	500	710,803	0.1%
4 都市計画費				
5 真木山中央公園費	4,844	4,844	5,015	96.6%
9 消防費	1,364,529	308	1,436,353	0.0%
1 消防費				
4 防災費	43,752	308	35,549	0.9%

教 育 総 務

1 基本方針

人口減少と少子化が進行し、急速にデジタル化が進む社会状況にあって、学校を取り巻く環境も大きく変貌しつつある。

こうした中、当市においては、「新発田市立小・中学校の望ましい教育環境に関する基本方針」に基づき、学校統合を含め小学校の学校規模の適正化を推進するとともに、教室へのエアコン設置、洋式トイレへの改修、GIGAスクール構想の実現に向けたICT機器の導入など、時代に即した学校施設の整備を進めてきた。

今後も、子どもたちが快適に学ぶことができるよう、学校施設等の改修等を進め、ICTを活用した学習環境の整備も推進する。また、安全安心な学校給食の提供と通学路の点検等により、安心して通学できる環境を整備し、**子どもが安心して学ぶことができる学校の環境整備**を進めていく。

2 重点事業

(1) 小学校の学校規模の適正化の推進

保護者・地域との協議を行いながら、小学校の学校規模を概ね1学年2学級以上、1学級20人以上となるように適正化を推進する。

紫雲寺地域の小学校統合については、3小学校の教職員による各種調整や児童の事前交流を行うとともに、統合校となる現紫雲寺小学校校舎の部分改修等を行う。

また、学校統合により遠距離通学となる児童について、統合小学校区内の通学支援の均衡を保ちながらスクールバス等による通学支援を行う。

(2) 安心・快適な学校施設等の整備

学校施設等長寿命化計画に基づき、校舎、体育館、グラウンド、共同調理場の整備を計画的に進め施設の長寿命化を図るとともに、老朽化した調理場については再編整備を進める。長寿命化改良工事に併せ、バリアフリー化、防犯対策、ゼロカーボン等にも取り組む。

また、新発田市交通安全対策プログラムに基づき、継続して通学路の安全点検を地域、学校、関係機関と合同で実施し安全対策を進める。

(3) 学校ICT（情報通信技術）を活用した環境整備

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICTを活用し、子どもたちの学ぶ意欲を高める学習環境整備を進める。

学校現場のニーズやDX（デジタル変革）の進展に応じて、計画的に設備・備品等の整備を進め、GIGAスクール運営支援センター機能を充実し、小中学校ICT教育レベルの向上と指導力の均衡を図る。

3 主な事業

(1)小中学校遠距離通学支援事業

遠距離通学、学校統合などの状況に応じて、基準を定め、定期券支給やスクールバスによる通学支援を着実に行う。

また、さらなる支援を求める要望もあり、地域の実情に合った支援となるよう検証を進める。

(2)学校給食地産地消導入事業

学校給食に地場産のコシヒカリ及び野菜を積極的に使用し、新鮮で安全・安心な学校給食を提供することにより、子どもたち及び保護者の食生活や地域の郷土料理・食文化に対する意識、関心を高め、食育の推進を図る。

(3)第3子以降学校給食費支援事業

多子世帯の経済的負担軽減を図り、子育てしやすい環境の実現による出生率の増加を目的とし、「全世代が新発田の未来を拓く子どもたちの健やかな成長の一翼を担うことで、これからの新発田市の安定した発展のために参画する」という理念に基づき、平成30年度から「少子化対策」の一環として、小中学校に在学する児童生徒を3人以上養育している保護者に対して学校給食費の支援をしている。

また、令和5年度から、第3子の対象要件を拡充し、より幅広い多子世帯に対し支援を行う。

学 校 教 育

1 基本方針

社会の変化は加速度を増し、複雑で予想困難となっており、そうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。子どもたちには、これからの社会がどんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力が求められているのである。

新発田市は、令和2年度を初年度とし令和9年度を最終年度とする「新発田市まちづくり総合計画」で、将来都市像として「住みよいまち日本一 健康田園都市・しばた」を掲げている。それを実現する四つの視点の一つが「教育の充実」である。

新発田には「道学共創」を理念とし、風土、歴史、自然や文化の中で連綿と育まれてきた「しばたの心」が存在する。「しばたの心」とは人である。人に敬意を払い、人を大事にする心、言わば、「ひとを第一に考え、大事にする心」である。

そこで、「道学共創」を理念とした特色ある新発田の教育を中核に、子どもたちに「生きる力」を育み、新発田への愛着や誇りを醸成し、持続可能なまちづくりの根本とする。

以上のことから、市教育委員会では「**ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育**」を基本理念とし、「**新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども**」を目指し、「新発田市学校教育の指針」を策定する。

2 重点施策

(1) 全校体制で育む確かな学力

学級経営の充実・学ぶ意欲の向上・主体的・対話的で深い学びの実現

① 「知」の分野

学級経営の充実や学ぶ意欲の向上、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを通して、子どもたちの資質・能力の向上及び個に応じた学びの充実を図るために、教育センター指導主事が、授業参観と指導を行う。また、ICT機器の活用を促進すると共に、全国学力学習状況調査、標準学力検査NRT、Web配信集計システム等の結果を分析し活用する。

② 「徳」の分野

多面的・多角的に考え、議論する道徳科を要とした道徳教育の充実を図り、家庭、地域と連携した教育活動を展開する。

③ 「体」の分野

生活環境の大きな変化や想定を超える自然災害の発生などに対応し、自らの健康を保持増進し、「命を守る行動」をとれるようにするために、運動の楽しさを味わわせ、健康や安全に対する関心を高める体育の授業や環境の整備に取り組む。また、家庭、地域と連携した生活習慣改善の取組や防災教育を推進する。

(2) 特色ある新発田の教育を中核にした、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善

① ふるさとへの愛着と誇りを育む「しばたの心継承プロジェクト」

新発田の歴史、文化、自然、産業、福祉等に関する体験的な学習を通して、探究的な学習過程を編成する。

② 人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

人権教育の中核として同和教育の視点から課題解決を図るために、全ての小・中学校で「かかわる同和教育」を実践する。また、偏見や差別を許さない人権感覚を育てる同和教育の授業の充実のため、研究委託校を指定してその成果を各校の指導力向上に役立てる。

③ 生きる力を育む「食とみどりの新発田っ子プラン」

「育てる・作る・食べる・返す」という「食のサイクル」を学び、「生きる力」や豊かな情操を培い、健康で心豊かな人材を育成する。

(3) いじめ、問題行動への適切な対応、不登校解消

職員間の情報共有と全校体制による即時対応と継続的な指導を確実に行う。

さらに、いじめ防止対策事業として、子どもへの暴力防止を核とした人権教育「CAPプログラム」を市内の全ての小学5年生、全ての中学1年生に「子どもワークショップ」として実施する。また、子どもを支える大人の育成をねらった「大人ワークショップ」として、全小中学校の教職員に「教職員ワークショップ」、各校の保護者、地域の方に「保護者ワークショップ」を実施する。

(4) チームで取り組む特別支援教育

特別な教育課程の編成と支援が必要な児童生徒の増加、個々の教育的ニーズの多様化に対応するため、市教育センター指導主事が、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」に基づき、すべての小・中学校の特別支援学級を訪問し、一人一人の子どもの自己実現に向けた計画的な指導と支援の充実を図る。

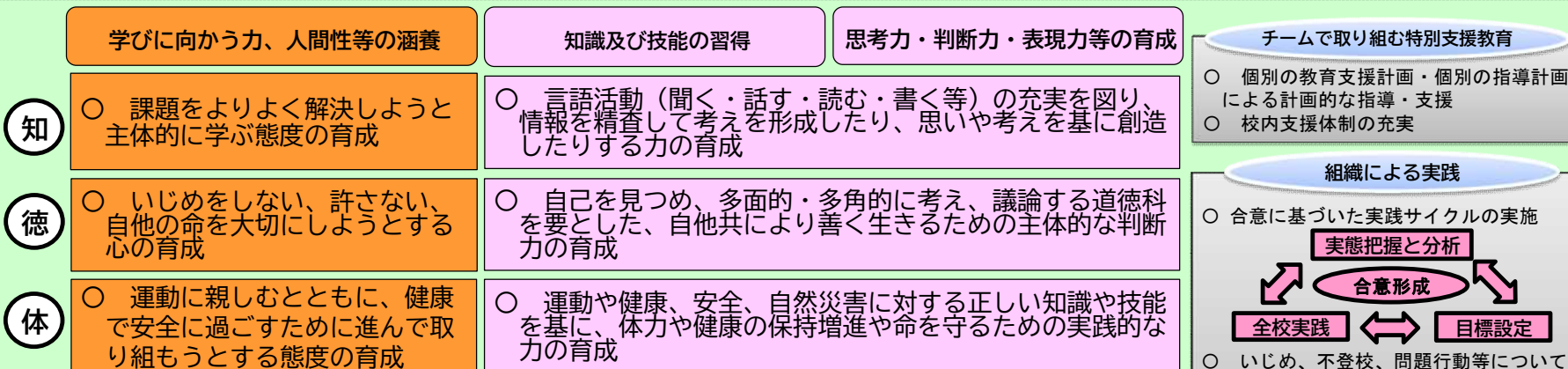
(5) 温かい心を育てる幼児教育

友だちとのかかわりを軸とした教育活動の推進による、身の回りのことに意欲的に取り組む子どもを育成するため、学びと生活の連続性のある教育課程を編成する。

ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育

【目指す子どもの姿】 新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども

全校体制で育む確かな学力 学級経営の充実 学ぶ意欲の向上 主体的・対話的で深い学びの実現



ふるさとへの愛着と誇りを育む「しばたの心継承プロジェクト」

- 新発田のよさやそこに携わる人の思いを知り、それらを大切に、かかわろうとする心や態度の育成
- 新発田の歴史、文化、自然、産業、福祉等に関する体験的な学びの工夫
- 文化行政課・青少年健全育成センター・中央図書館・歴史図書館・各地区公民館・あかたにの家等、市の社会教育機関との連携

道学共創 を理念とした特色ある新発田の教育

人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

- 同和教育の視点に立つ教育の推進（「かかわる同和教育」の実践）
- 人の心の痛みが分かり、差別や偏見を許さない態度を育成する授業づくりの推進

生きる力を育む「食とみどりの新発田っ子プラン」

- 体験的な教育活動を取り入れた食育の推進
- 地場産物を取り入れ、食への感謝や故郷を愛する心を育む学校給食の実施

組織による実践

- 合意に基づいた実践サイクルの実施



- いじめ、不登校、問題行動等について、職員間の情報共有と全校体制による即時対応、それぞれの背景や子どもの心情に目を向けた対応と、関係機関との連携による継続的な支援

幼・保・こども園から中学校までの円滑な連携

温かい心を育てる幼児教

- 学びと生活の連続性を図る教育課程の編成
- 友達とのかかわりを軸とした教育活動の推進

特色ある新発田の教育を中核にした、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善

3 学校教育の指針

(1) 全体図 前頁に掲載

(2) 指針の構成

国・県の学校教育の方針を受け「新発田市まちづくり総合計画」に示された「教育の充実」を踏まえ、「新発田市学校教育の指針」を策定した。教職員は、教育実践の工夫改善に努め、「新発田市学校教育の指針」の具現化を図る。

① 市民の願い「道学共創」※¹

「道学共創」は、新発田藩の学問所の講堂である「道学堂」に由来する「道学」※²と新発田市のまちづくりの理念である「共創」※³を結び付けた新発田市の造語である。その意味するところは、人としての学びを深め、互いに尊重し、協働して未来を創造することである。

② 「ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育」を具現化するために

目指す子どもの姿を「新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども」とし、実現に向けて、学校、家庭、地域が連携してその実現に取り組む。

それには、特色ある新発田の教育を中核にした、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善が必要となる。

各校、園が子どもや地域の実態を基に、育成を目指す資質・能力を家庭・地域と共有して、教科横断的な視点から教育課程を編成し、家庭、地域との連携と協働で実施する。さらに、評価、改善、カリキュラム・マネジメントの実施により、教育活動の質の向上を図り、目指す子どもの姿を具現化する。

<主な取組>

(ア) 学校関係者評価委員会の組織と実施

(イ) 「新発田の学校教育」発行事業

(ウ) 教育広報誌への記事掲載

(エ) 地域学校協働本部事業（2 中学校区で実施）（学校運営協議会制度の規則整備）

(オ) 教育相談事業

※1 新発田城三階櫓・辰巳櫓が復元された際、櫓の鯀5基、鬼瓦5枚に10の願文がそれぞれ刻まれた。その中の一つが「道学共創」。

※2 「道学」とは、人としての正しい生き方を学ぶということ。

※3 「共創」とは、一人一人異なる存在の人間が、協働的に活動していくところに価値を見いだすことが根本であるということ。

(3) 新発田市学校教育の重点内容と主な取組

重点内容は、「知・徳・体 ～育成を目指す資質・能力～」 「道学共創を理念とした特色ある新発田の教育」「チームで取り組む特別支援教育」「組織による実践」「温かい心を育てる幼児教育」で構成する。各学校や園においては、これらの趣旨を具体的に受け止めるとともに、教育活動、運営活動の精選、重点化を図り、当市及び自校の教育課題解決に努める。

1) 育成を目指す資質・能力

目指す子どもの姿の実現に向け、「知」「徳」「体」の面から育成を目指す資質・能力を明示した。資質・能力を子どもに身に付けさせる上で、「知」「徳」「体」の教育活動の全てで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりが不可欠である。学級経営の充実、学ぶ意欲の向上を大切にしながら、各校で進められてきた授業改善の成果を基盤に更なる授業改善を進める。

①育成を目指す「知」の資質・能力

○ 学びに向かう力、人間性等

課題をよりよく解決しようと主体的に学ぶ態度の育成

○ 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等

言語活動（聞く・話す・読む・書く等）の充実を図り、根拠や理由を明確にして共に考える力の育成

「知」の領域では、問題解決に必要な活用できる知識を獲得させ、根拠や理由を明確にして考えを伝え合いながら、思考し、判断する力を育む。その中で、学習に取り組む粘り強さや自己調整力を育成する。

<主な取組>

(ア) 「令和5年度新発田市学校教育の指針」の作成と発行

(イ) 小学校、中学校教育研究事業

(ウ) 小学校、中学校校長教頭研究協議会支援事業

(エ) 小・中学校、幼稚園教諭指導推進事業（指導主事9名）

(オ) N R T（小学校2年生～中学校3年生）の実施、分析研究

(カ) 三市北蒲原郡地区理科教育センター運営事業

(キ) 小学校、中学校補助教員派遣事業

(ク) 中学校学力向上推進事業（各種研修）

(ケ) 小学校学力向上推進事業（各種研修）

②育成を目指す「徳」の資質・能力

○ 学びに向かう力、人間性等

いじめをしない、許さない、自他の命を大切にしようとする心の育成

○ 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等

自己を見つめ、多面的・多角的に考え、議論する道徳科を要とした、自他共によりよく生きるための主体的な判断力の育成

「徳」の領域では、道徳科を要として、多面的・多角的に考え、互いの考えを理解し合いながらよりよく生きるための主体的な判断力、いじめをしない・許さない心、自他の命を大切にしようとする心を育成する。そのために、道徳科の授業改善を進めると共に、道徳科との関連を図りながら、学級活動や異学年交流、地域交流等の教育活動を展開し、相手に対する思いやりや感動する心、自己有用感を育てる。また、SNSやインターネット等によるいじめ、非行の加害者や被害者にならないための情報モラル等の指導を行う。

<主な取組>

(ア) 新発田地区小中学校警察等連絡協議会参画事業

(イ) 不登校児童生徒適応指導教室運営事業（指導員3名）

- (ウ) スクールカウンセラー学校派遣事業（全小・中学校）・・・県事業
- (エ) サポートネットワーク事業（相談員４名、指導員６名）
- (オ) 「子どもにかかわる緊急連絡網」（協力関係団体あり）
- (カ) 地域での健全育成活動「中学校区単位青少年健全育成協議会」
- (キ) スクール・ソーシャル・ワーカー（SSWr ２名）の派遣事業
- (ク) 電話による「悩み相談」事業、「子ども教育相談」事業
- (ケ) いじめ防止対策事業（CAPプログラムを市内全小学校５年生、中学校１年生、保護者、教職員を対象に実施）
- (コ) 「生きる」シリーズの積極的活用

③育成を目指す「体」の資質・能力

- 学びに向かう力、人間性等
運動に親しむとともに、健康で安全に過ごすために進んで取り組もうとする態度の育成
- 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等
運動や健康、安全、自然災害等に対する正しい知識や技能を基に、体力や健康の保持増進や命を守るための実践的な力の育成
「体」の領域では、運動や健康、安全、自然災害等に関する正しい知識や技能を身に付け、体力や健康の保持増進や自然災害等から命を守る実践力を育成し、健康で安全に過ごそうとする態度を養う。そのために、体育科の授業改善や家庭と連携した健康・体力の実態把握に基づいた生活習慣の改善やメディア接触コントロールなどの健康の保持増進の指導に取り組む。また、災害に備えて新潟県防災教育プログラムに取り組むと共に、学校や地域の実態に応じて「あかたにの家」での体験的な活動や地域や保護者と連携した防災訓練等に取り組む。

<主な取組>

- (ア) 市立小・中学校児童生徒の体力実態調査
- (イ) 小学校、中学校体育連盟支援事業
- (ウ) 市歯科保健推進校（全小学校）＊年２回歯科健診実施ほか
- (エ) 全国学力学習状況調査等の結果の活用
- (オ) 「体力向上１学校１取組」の実践
- (カ) 新発田市防災教育推進事業

２）チームで取り組む特別支援教育

- ① 個別の教育支援計画、個別の指導計画による計画的な指導・支援
子ども一人一人の自己実現に向け、教育的ニーズの確実な把握に基づいた「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」による計画的な指導と支援の充実を図る。
- ② 校内支援体制の充実
校内委員会を核とした全教職員による校内支援体制の充実と、合理的な配慮、支援ネットワークの活用を図る。互いを正しく理解し、共に助け合うための「交流及び共同学習」を推進する。

３）組織による実践

- ① 合意に基づいた実践サイクルの実施

「知・徳・体 ～育成を目指す資質・能力～」の達成に向け、教職員の合意を得ながら実践を進める。そのためには、各種調査結果や見取り等の分析、結果に基づいた目標の設定と具体的な計画の立案、全校体制での実践とその徹底、という実践サイクルを回すことが重要である。その際、全教職員が実践サイクルのそれぞれの過程にかかわったり、教職員間で情報交換を行ったりして、教職員の意思統一ができるように常に合意形成を図ることで実践の効率と実効性を高める。

② いじめ、不登校、問題行動等について、教職員間の情報共有と全校体制による即時対応、継続的な指導と評価の実施

いじめ、不登校、問題行動等への対応のポイントは、教職員が一人で問題を抱え込んでしまわないように、校内いじめ対策委員会等の校内委員会の組織を整え機能させることが重要である。これを核にして、「いじめ防止基本方針」等の内容について子ども、保護者、地域にもその内容や相談の窓口等を周知し、早期発見と即時対応につなげる。問題の解決にあたっては、教職員間の情報共有を図ると共に、保護者との連携に加えて、校長の適切な判断により、市教育委員会や専門機関とも連携し解決を図る。また、問題等が解消したと早々には判断せず指導の経過を複数名で検証しながら継続的な指導を行う。学校評価の機会を活用し、これらの対応が組織的に行われているか、実効性を伴って確実に行われているか等、評価し改善していく。

＜新発田市教育支援センター車野校＞

新発田市では、学校以外の安心して過ごせる居場所の一つとして、旧車野小学校の施設に「新発田市教育支援センター車野校」を開設し、不登校解消に向けた取組を推進している。同校は、自然豊かな環境に立地しており、地域の方との農業体験や茶道、創作活動等の学習以外の様々な活動を行っている。

③ 幼・保・こども園から中学校までの円滑な連携

幼・保・こども園と小学校、小学校と中学校の連携に努め、長期間を見据えて児童生徒の学びや発達に則した教育の充実を図る。

＜主な取組＞

(ア) 特別支援教育推進事業

(イ) 小学校、中学校教育運営事業（介助員派遣）

(ウ) スクールサポート事業（学校支援ボランティア、日本語指導員等）

(エ) 三市北蒲原郡特別支援教育推進地区協議会運営事業

(オ) 教育支援委員会運営事業

4) 特色ある新発田市の教育

歴史と文化に富む新発田市では、将来の新発田市を担うであろう幼児・児童・生徒の素養をさらに磨くために次の3点を重点的に取り組む。

「しばたの心継承プロジェクト」では、ふるさと新発田への愛着や誇りを育てる教育活動を学校教育と社会教育の両面から支援する。「人権教育、同和教育」では、差別や偏見を許さないという新発田市民の強い意志を受け継ぐ幼児・児童・生徒を育てる。「食とみどりの新発田っ子プラン」では、新発田の豊かな自然を背景とした食の循環に関する実践や新

発田の食文化、産業を学ぶ教育活動を支援する。

① ふるさとへの愛着と誇りを育む「しばたの心継承プロジェクト」

新発田の歴史、自然、文化、産業等に関する学習を通して、新発田のよさやそこに携わる人々の思いを知り、新発田への愛着と誇りを学校教育と社会教育の両面から育む。そのために、総合的な学習の時間等の取組を3つの視点から工夫する。

【視点1 体験活動の工夫と意味付け】

しばたの心継承プロジェクト単元として意味付ける。地域コーディネーターを活用し、新発田の歴史、自然、文化、産業、福祉等のそのもののよさや、それらに携わっている人々と出会い、その思いに直に触れるように工夫することで、新発田のよさや素晴らしさ、抱える課題についてより広く深く学べるように探究活動を編成する。

【視点2 取組の発信と見える化】

学びを保護者や地域などに発信する場や方法を工夫し、子ども自身の学びを深め、意識化を図るとともに、保護者、地域の方々にも取組が見えるようにすることで、しばたの心を継承していく取組への気運を高める。

【視点3 社会教育との取組】

社会教育（文化行政課、青少年健全育成センター、中央図書館、歴史図書館、生涯学習課、各地区公民館、あかたにの家等、市の社会教育機関）と連携し、学びの場や機会を広げる。

＜主な取組＞

- (ア) しばたの心継承プロジェクト事業
- (イ) キャリア教育の推進
- (ウ) キャリア・パスポートの活用

② 人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

「人の痛みが分かり、差別や偏見を許さない」という意識と態度を子どもの生活全般に浸透させる。教職員の「学び直し」や差別の現実に学ぶ現地研修等を実施し、指導力の向上に努めると共に「かかわる同和教育」の実践を通して人権尊重の心を育てる。

＜主な取組＞

- (ア) 同和教育推進事業
- (イ) 同和问题PTA講座開催事業
- (ウ) 識字学級開催事業
- (エ) 新潟県同和教育研究協議会参画事業
- (オ) 「生きる」シリーズの積極活用
- (カ) ふれんど・すくーる事業（小学生）
- (キ) 学習教室（小・中学生）
- (ク) 同和教育研究委託事業（佐々木中学校〔二年度〕紫雲寺小学校〔一年次〕）

③ 生きる力を育む「食とみどりの新発田っ子プラン」

各学校・園の工夫により豊かな情操を養う体験的な教育活動を展開する。学校・家庭・地域の連携による食のサイクルに基づいた食に関する知識や理解を深め、実践力を

育成（食育の実践）すると共に地域の歴史、文化、自然や産業等を通して環境教育を推進する。

＜主な取組＞

（ア）食とみどりの新発田っ子プラン推進事業（幼稚園、小学校、中学校）

5) 温かい心を育てる幼児教育

9年間の義務教育の基礎を培う場が幼稚園、保育園、こども園の生活である。したがって、保育園、幼稚園と小学校との円滑な接続は、義務教育のスタートにあたり、重要な課題である。幼・保・小相互に幼児の情報を基に意見交換・協議する場や交流の場を設定すると共に、必要に応じて小学校も交えた保護者や関係機関との具体的な連携を進める。

① 「育みたい資質・能力」や「育ってほしい姿」を踏まえた、学びと生活の連続性を図る教育課程の編成

小学校以降の生活や学習の基盤となることを考慮し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた園教育・園生活の幼児の学び（活動、体験など）を、教育計画に位置付けて改善を進め、学びと生活の連続性のある取組の充実を図る。実践に際しては、園児の生活経験や発達のプロセスを踏まえ具体的なねらいと内容を定めて園教育、園生活を計画・指導する。指導法や問題点を整理しながら評価し、その公表を通して保護者と結果を共有し改善に努める。

② 友達とのかかわりを軸とした教育活動による、身の回りのことに意欲的に取り組む子どもの育成

幼児は遊びを含めた身の回りのことに取り組むことを通して義務教育につながる知、徳、体の基礎を身に付けている。幼児の自発的な身の回りのことに取り組む行動を促すために必要な教育環境の整備とよりよい指導方法の研究を進める。

＜主な取組＞

（ア）幼稚園教諭指導推進事業（指導主事2名）

（イ）教育支援委員会園訪問、相談、面談

4 学力向上

(1) 課題

新発田市の小・中学校では、学力向上を目指し、これまで「新発田市授業スタンダード」を活用した授業改善に取り組んできている。全国学力・学習状況調査や標準学力検査NRTの結果を見ると、小・中学校ともに全国正答率を上回るかまたは、同等という結果が継続しており、全市的には一定程度の学習内容が身に付いていると捉えている。しかし、以下の課題もある。

- ア 全国学力・学習状況調査の結果や標準学力検査の偏差値に学校間で差が見られる。
- イ 全小・中学校で「新発田市授業スタンダード」を自校化して活用するなど、授業改善が進んでいる。一方で、学習過程が形式化している様子も見られる。
- ウ いわゆる教師主導の教え込みやプリント学習に偏った授業が散見される。また、学習の基盤である学級経営に苦慮する様子が見られる。

(2) 課題解決

【新発田市の学力向上の課題】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に全校体制で取り組むことで、すべての子どもに豊かな資質・能力を身に付けさせる。

に向けた施策の展開

① 学習と指導と評価の一体化

新学習指導要領における学習評価は、主体的・対話的で深い学びの観点から、授業を行う際の重要な役割を担うものとされている。各教科の目標や内容が、資質・能力の3つの柱で整理されたことに対応し、学習評価の観点も3つになった。特に「思考力・判断力・表現力等」については、パフォーマンス課題等の多様な評価方法で見取る視点が必要である。また「学びに向かう力、人間性等」では、子ども自身が、学習のめあてや見通しをもって学びを調整したり、振り返りの場を設けて、めあての達成状況を自己評価したりするなどの工夫が大切になる。これまで以上に、単元デザインを明確にし、ゴールとゴールまでの過程、現在地を子どもと共有しながら、一人一人の学習を成立させていくことが重要である。

- ア 授業力向上、学級経営の充実をねらい、指導主事が全小・中学校へ年2回訪問する。授業を参観し、授業者に寄り添った指導、支援をする。
- イ 学力向上に関する効果的な取組が全校体制で推進できるように、各校の学力向上担当教員を対象とした研修会を開催する。
- ウ 中学校英語・小学校外国語担当教員を対象とした研修を実施し小中の滑らかな接続を図る。
- エ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため、ICT活用を促進する。

② データの分析と活用

標準学力検査NRTや県教育委員会が実施する「Web配信集計システム」を活用して授業改善を図る。

- ア 標準学力検査NRTや「Web配信集計システム」の結果を分析し、学力実態を把握し、自校の課題を明確にして確かな学力の定着を図る。
- イ 「Web配信集計システム」については、市全体の結果をまとめ、定例校長会で情報提供し、共通理解を図り、自校で活用できるようにする。

③ しばたの心継承プロジェクトを核にしたカリキュラム・マネジメント

子どもに学習の見通し、振り返りを通して、自らの学習状況を把握させ、自らの学習の進め方について調整しながら学ぼうとする力を身に付けさせる。

5 豊かな心の育成

(1) 課題

豊かな心や感性は、多様な生活体験や人間関係によって培われる。しかし、子どもたちを見ると、他者に対する関心や他者とのつながりを保とうとする意識が不足し、対人関係をうまく構築できない子どもが目立つ。その要因の一つとして、学校や地域社会の多様な人間関係の中で、社会性や対人関係能力を身に付ける機会が減少していることが挙げられる。

市内の小・中学校の子どもたちも例外ではなく、人間関係をうまく構築できないことが結果的にいじめや不登校等につながっている場合も少なくない。「いじめはどの学校でも起こり得る、不登校はどの子にも可能性がある」という認識で、いじめ、不登校解消に向けて取り組んでいる。実際、文部科学省の令和4年度問題行動調査（カッコ内数字は令和3年度との比較）によると、新発田市の小中学校の「いじめ」認知件数は、小学校が367件（+36件）、中学校が176件（+13件）であり、両校種共、昨年度に比べ増加した。「不登校」の発生率は、小学校が1校当たり1.24%（+0.16）、中学校が6.14%（+1.92）で、両校種共、昨年度に比べ増加した。社会性の育成をはじめとする豊かな心の育成は急務である。また、多様な背景をもつ児童生徒に対して、今後も各機関と連携しながら、丁寧に対応していく必要がある。

(2) 社会性の育成をはじめとする豊かな心を育む教育の推進

社会性の育成や豊かな心を育成するためには、道徳教育の充実をはじめとして、かかわり合って学ぶ授業や家庭や地域と連携した絆を深める体験活動の推進、人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成など、全教育活動を通じた取組が必須である。

① 全教育活動を通して育成すべき社会性（県のとらえ）

- ア 自己有用感（自己肯定感、自尊感情等を含む）の獲得
- イ 人間関係づくりの能力の育成
- ウ 規範意識の醸成
- エ 困難に対して、他者と協力しながら問題解決を図る意欲や態度の育成

② 社会性の育成をはじめとする豊かな心を育成するためのアプローチ

- ア 多面的・多角的に考え、議論する道徳の授業づくりを推進し、生命尊重や思いやりの心を大切にする主体的判断力を育成する。
- イ 道徳との関連を重視した「豊かな体験活動、集団宿泊訓練、家庭や地域と連携した地域貢献活動、職場体験活動等」を推進し、人と主体的にかかわる喜びをもつ子どもを育成するための「人間関係づくり」の能力を培う実践を行う。
- ウ CAPプログラムを通して、児童生徒が安心して相談できる体制づくりを推進する。また、いじめの問題を自分のこととして捉える「いじめをしない、許さない、見逃さない」心や態度を育成する。
- エ 同和教育の視点に立つ教育（「かかわる同和教育」の実践）を推進して人権感覚を高め、人の心の痛みが分かり、差別や偏見を許さない意識、態度を育成する。
- オ 学校内外における異学年交流や地域交流等の絆づくりの場の設定を通して、自己有用感を育成し、社会性を育む教育を推進する。
- カ 学年や学校間を超えて教職員同士が協力し、各学校の課題を共有し、小学校6年間、中学校3年間、あるいは小・中学校9年間を通して意図的・計画的に社会性を育成する。
- キ 学習規律を大切にし、かかわりあって学ぶ授業づくりを通して、社会性を育成する。
- ク 児童生徒のわずかな変化も見逃さないよう教職員の意識を向上させ、いじめや不登校、問題行動等に対する情報の共有と即時対応できる校内指導体制の確実な運用及び関係機関との連携強化を図る。

6 体力の向上

(1) 新発田市の取組

市立小・中学校では、各学校で運動の習慣化、体力の向上に向けて、次のような工夫した取組を行っている。

① 小学校

- ア ○○運動強調期間の実施
- イ 体力向上プログラムへの取組
- ウ 児童会委員会活動によるスポーツイベントの実施
- エ 業間運動の工夫

② 中学校

- ア ICT 機器を活用した体育学習
- イ 学習カードを活用した体力分析
- ウ 授業前ランニング

(2) 成果

市内の小学校5年生、中学校2年生の「令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は下表のような結果であった。

小学校5年生では、男子は8項目中7項目が、女子は6項目が全国平均を上回った。
中学校2年生では、男子は7項目が、女子は8項目全てが全国平均と同等か上回る結果となった。全体的に、全身持久力、柔軟性、敏捷性が高くなっている。

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（新発田市と県・全国との比較）

小学校5年生		男 子				女 子			
項目名	体力要素	新発田市	新潟県	全国	全国比	新発田市	新潟県	全国	全国比
握力	筋力	17.02	16.93	16.22	104.9	16.51	16.56	16.10	102.5
上体起こし	筋持久力	19.35	19.56	18.86	102.5	18.20	18.59	17.97	101.3
長座体前屈	柔軟性	35.71	35.05	33.79	105.7	39.52	39.43	38.18	103.5
反復横跳び	敏捷性	42.12	43.15	40.36	104.4	41.18	41.92	38.66	106.5
シャトルラン	全身持久力	50.64	51.91	45.92	110.2	43.74	43.95	36.97	118.3
50m	スピード	9.56	9.54	9.53	100.3	9.56	9.65	9.70	98.6
立ち幅跳び	筋パワー	152.18	153.51	150.83	100.9	145.03	148.21	144.55	100.3
ボール投げ	巧緻性	19.11	21.07	20.31	94.1	12.98	13.96	13.17	98.6

中学校2年生		男 子				女 子			
項目名	体力要素	新発田市	新潟県	全国	全国比	新発田市	新潟県	全国	全国比
握力	筋力	30.22	30.09	28.99	104.2	23.21	23.65	23.21	100.0
上体起こし	筋持久力	27.53	26.85	25.74	107.0	22.47	22.67	21.67	103.7
長座体前屈	柔軟性	46.21	46.51	43.87	105.3	49.89	48.65	46.07	108.3
反復横跳び	敏捷性	53.52	51.89	51.05	104.8	46.24	46.21	45.81	100.9
シャトルラン	全身持久力	82.15	80.52	78.07	105.2	52.52	53.97	51.60	101.8
50m	スピード	8.02	8.01	8.06	99.5	9.05	8.95	8.96	101.0
立ち幅跳び	筋パワー	210.15	202.71	196.89	106.7	169.80	169.10	167.04	101.7
ボール投げ	巧緻性	21.20	21.11	20.28	104.5	12.50	12.62	12.45	100.4

【握力:kg, 上体起こし:cm, 長座体前屈:cm, 反復横跳び:回, シャトルラン:回, 50メートル走:秒, 立ち幅跳び:cm, ボール投げ:m】

7 人権教育、同和教育

部落差別問題（同和問題）は、人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題であり、その解決は国民的課題であるとともに全市民的な課題である。部落差別の解消には、正しい同和教育と積極的な啓発が重要な役割を担っている。

同和教育は、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすための教育であり、人権教育の中核である。

学校においては、子どもたち一人一人が尊重され、豊かな人権感覚が育つよう、差別や偏見のない人間尊重の精神に貫かれた学校・学級づくりに努めることとする。また、「同和教育の視点」に立ち、課題を抱える子どもに寄り添い、一緒に課題を解決することに努める。

(1) 基本方針

人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

- 同和教育の視点に立つ教育の推進（「かかわる同和教育」の実践）
- 人の痛みが分かり、差別や偏見を許さない意識、態度を育成する授業づくりの推進

(2) 事業

① 同和教育推進協議会

ア 同和教育推進協議会

イ 先進地視察研修

② 学校同和教育

ア 同和教育研究指定校

イ 新任・転入校長現地研修会

ウ 教頭同和教育研修会

エ 同和教育主任研修会

オ 転入教職員同和教育研修会

カ 新採用教職員同和教育研修会

キ 保育園・幼稚園同和教育研修会

ク 保・幼・小・中・高同和教育連絡会

ケ 児童生徒支援加配教員連絡会

③ 社会同和教育

ア 識字学級

イ 同和问题PTA講座

ウ ふれんど・すくーる

エ 小学生・中学生学習教室

オ 高校生学習教室

カ 教育委員会職員同和教育研修会

④ 教育権保障

入学支度金支給



同和教育 公開授業

8 特別支援教育

特別支援教育が法的に位置づけられた改正学校教育法が、平成 19 年 4 月 1 日から施行され、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校および特別支援学校において行われる特別支援教育について基本的な考え方等が示された。

特別支援教育の理念として、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、適切な指導および必要な支援を行うことが掲げられている。知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施される。

市内小・中学校においても特別支援学級在籍者数・学級数は増加の一途をたどっており、幼児児童生徒個々の教育的ニーズも多様化している。各学校では、特別支援教育の視点に基づき、合理的配慮等に留意した指導、支援が行われている。

(1) 市内小・中学校の特別支援学級設置状況及び児童生徒数

〈小学校〉	知的障害特別支援学級	14校（28学級）	167名
	自閉症・情緒障害特別支援学級	15校（37学級）	230名
	病弱・身体虚弱特別支援学級	0校（0学級）	
	肢体不自由特別支援学級	5校（5学級）	7名
	弱視特別支援学級	1校（1学級）	2名
	難聴特別支援学級	1校（1学級）	2名
〈中学校〉	知的障害特別支援学級	8校（11学級）	48名
	自閉症・情緒障害特別支援学級	9校（15学級）	80名
	病弱・身体虚弱特別支援学級	1校（1学級）	2名
	肢体不自由特別支援学級	0校（0学級）	
	弱視特別支援学級	0校（0学級）	
	難聴特別支援学級	0校（0学級）	

(2) 通級指導教室

① 言語通級指導教室

平成 7 年度から東豊小学校、平成 9 年度から外ヶ輪小学校内に設置

東豊小学校：通級児童数 23名（市内 23名）

外ヶ輪小学校：通級児童数 17名（市内 17名）

② 発達障害通級指導教室

平成 19 年度から御免町小学校、令和 4 年度から二葉小学校内に設置

御免町小学校：通級児童数 25名（市内 25名）

二葉小学校：通級児童数 9名（市内 9名）

令和 3 年度から本丸中学校に設置

本丸中学校：通級生徒数 15名（市内 15名） ー令和 5 年 5 月 1 日現在ー

(3) 教育支援委員会

特別な支援が必要あるいは必要と思われる児童生徒（就学猶予者を含む）の適正就学を図るため、適正就学に関する調査、検査、判断を行う。

※ 委員会の構成（医師 2 名、関係教育機関職員 28 名、関係行政機関職員 10 名）

(4) 新発田市特別支援教育推進委員会

関係団体と連携して、市内に在住する特別な支援を必要とする幼児児童生徒の適正な把握とその教育の充実を支援する事業の推進を図る。

※ 委員会の構成（会長 1 名、副会長 1 名、推進委員 18 名、専門部員 38 名）

9 研究委託校等

○ 研究委託・モデル校・推進校等の指定の趣旨

市（国・県）の学校教育上の諸問題について、自校の教育活動の中で実践研究を行い、その成果を当市（国・県）の教育向上に役立てることを目的としている。

(1) 市・同和教育研究委託校

① 紫雲寺小学校（令和4年度・5年度）

<研究主題>

差別を自分事として受け止め、差別を許さない生き方を問い続ける子どもの育成
～身近な人々の生き方に学び、自らを見つめ直す授業実践を通して～

② 豊浦中学校（令和5年度・6年度）

<研究主題>

人権感覚を高め、差別や偏見を許さない態度の育成
～気づき、考え、自分事として捉え、行動する人権教育、同和教育の実践を通して～

(2) その他の研究指定校

① 県中学校研究協議会研究指定〔社会〕

本丸中学校（令和5年度）

② 県中学校研究協議会研究指定〔国語〕

紫雲寺中学校（令和5年度）

(3) その他の事業

① 県学校・家庭・地域の連携協働事業〔地域学校協働本部事業〕

御免町小学校 東豊小学校 第一中学校（平成20年度～）

外ヶ輪小学校 二葉小学校 本丸中学校（平成29年度～）

② コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）調査研究校

東豊小学校（令和元年度～）

10 学校保健

(1) 事業内容

- ① 児童生徒の健康診断（内科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、検尿等）
- ② 県教職員の健康診断（内科、検尿、胃の検査（40歳以上）等）
- ③ 学校環境衛生検査（教室等の環境等）

(2) 市内小・中学生の身長、体重

		身長			体重		
		令和3年度			令和3年度		
		市平均	県平均	全国平均	市平均	県平均	全国平均
小学生 男子	1	117.6	117.0	116.7	22.1	21.8	21.7
	2	124.2	123.2	122.6	25.7	25.0	24.5
	3	129.0	128.7	128.3	28.5	28.0	27.7
	4	133.9	134.4	133.8	31.7	32.1	31.3
	5	139.8	139.9	139.3	35.8	35.6	35.1
	6	146.7	146.1	145.9	40.7	40.0	39.6
中学生 男子	1	154.4	154.8	153.6	45.4	45.7	45.2
	2	161.3	161.2	160.6	50.8	50.3	50.0
	3	166.8	166.4	165.7	55.6	55.7	54.7
小学生 女子	1	116.4	116.6	115.8	21.6	21.4	21.2
	2	122.7	122.7	121.8	24.7	24.5	23.9
	3	129.0	128.8	127.6	27.4	27.8	27.0
	4	134.7	134.9	134.1	30.7	31.3	30.6
	5	142.2	142.0	140.9	35.7	35.6	35.0
	6	147.5	147.7	147.3	39.6	39.8	39.8
中学生 女子	1	152.9	152.4	152.1	45.2	44.8	44.4
	2	154.5	155.5	155.0	47.9	47.8	47.6
	3	157.4	156.8	156.5	50.9	50.1	50.0

※文部科学省の「令和4年度学校保健統計調査」について、新型コロナウイルス感染症の影響により未公表のため、令和3年度の結果を掲載。

1 1 しばたの心継承プロジェクト（食育を含む）

(1) 取組の意図と目的

【しばたの心継承プロジェクト】

令和2年度から市内全小・中学校において、「しばたの心継承プロジェクト」を実施しています。新発田の子どもたちが、新発田の歴史、自然、文化、産業等を学ぶことで、新発田への愛着と誇りを胸に、新発田の地を離れても再び新発田の地で、或いは世界のどこに住んでいても、新発田を思いながら活躍する人材を輩出することを目的に各校で工夫し、取り組んでいます。

【新発田市が目指す子どもの姿】

新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども

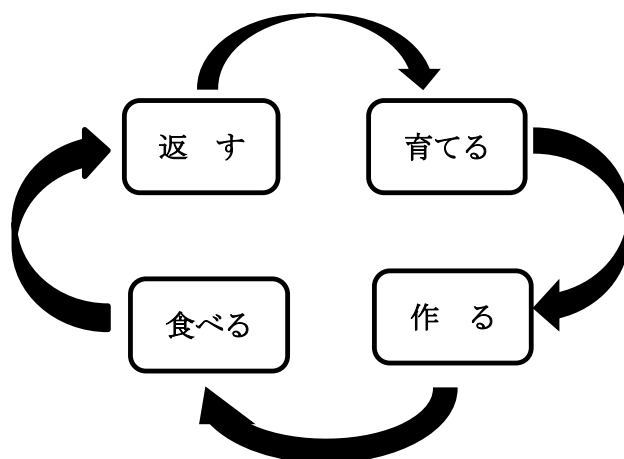
【目標】

小学校：新発田の歴史、文化、自然、産業等に関する学習を通して、新発田のよさやそこに携わる人の思いを知り、それらを大切にしようとする心や態度を育てる。

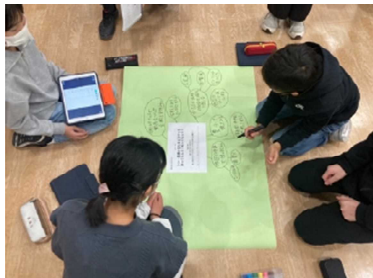
中学校：新発田を中心とした地域の歴史、文化、自然、産業等に関する学習を通して、新発田の特色や課題、新発田で生きる人々の思いを知り、地域とかわり貢献しようとする心や態度を育てる。

【食とみどりの新発田っ子プラン】

学校と地域が連携し、教育活動の中で、新発田の「豊かなる大地を基盤とした食のサイクル」（「育てる（栽培）」→「作る（料理）」→「食べる」→「返す（リサイクル）」→「育てる」・・・）を子どもたち自身が日常生活において意識し実践することにより、自立に向けた「生きる力」を身に付け、将来の新発田市を担う人材を育成することを目的としています。子どもたちは、学校菜園での栽培活動、給食時間における食事マナーの習得、地場産農産物や自分たちで育てた野菜を使った調理実習など、成長段階に応じた食育活動を通じ、食物に関わるすべての人への感謝の気持ちや、栄養バランスを考えた食事作りなど、将来の自立のために必要な知識や経験を身に付けています。



(2) 令和4年度の各校の取組

学校名	取組内容（代表的なものを抜粋）
外ヶ輪小学校	新発田の食の魅力を探る、受け継がれる行事、木遣りを学ぶ
猿橋小学校	新発田の宝物さがし・魅力を探る、ふるさと新発田弁当を作る
御免町小学校	郷土料理（新発田麩）の良さを学ぶ、新発田川の環境保全
二葉小学校	防災体験活動、野菜（サツマイモ・夏野菜）の栽培・調理
東小学校	東小のお宝発見（新発田の地場産物、五十公野産「蓬莱柿」）
川東小学校	夏野菜の栽培・観察・収穫、地域の伝統芸能体験学習
七葉小学校	米作り、まち探検、人権学習 
佐々木小学校	佐々木探検（ビーツ収穫、ウクライナからの避難民へビーツを送る）、米作り、古太田川の調査活動 
住吉小学校	野菜の栽培・収穫活動、「じんけん」授業の実施
東豊小学校	野菜作り、地場産野菜の良さを知る、有機資源センターの見学
豊浦小学校	シン・豊浦かるたの作成 田植え体験、豊浦地域探検 
紫雲寺小学校	紫米を育てる、食育・栽培（花・野菜）活動
米子小学校	和太鼓体験、紫雲寺潟干拓の歴史を学ぶ、野菜の栽培・収穫
藤塚小学校	弁当作り、藤塚浜大漁太鼓の歴史を学ぶ、人権教育・同和教育

学校名	取組内容（代表的なものを抜粋）
加治川小学校	野菜（サツマイモ）栽培・収穫・販売  
本丸中学校	新発田巡検、「参勤交代の道 八里を歩く」、地場産野菜と地域に伝わる料理を学ぶ
第一中学校	古き良き新発田の街ウォーキング、野菜の栽培
猿橋中学校	「しばたの大人と未来を語る会」の実施、小煮物作り  
東中学校	農家訪問（地場産食材への理解を深める）、小煮物作り
川東中学校	ふるさとウォーク、達人訪問の実施、里芋栽培・小煮物作り
七葉中学校	地域貢献活動、サツマイモ栽培・収穫・調理
佐々木中学校	日本の食文化と和食の調理（小煮物作り）、人権教育・同和教育
豊浦中学校	新発田巡検、地域の食材と郷土料理作り（笹団子・小煮物）
紫雲寺中学校	紫雲寺活性化プロジェクト、小煮物作り 地場産物への理解を深める 
加治川中学校	新発田巡検・農家訪問、小煮物作り
新発田さわやかルーム	ジャガイモの栽培・収穫、牛舎見学 玉ねぎ・さつまいも収穫体験 

文 化 行 政

1 基本方針

近年、少子・高齢化が急速に進み、市民の価値観は多様化しライフスタイルも大きく変容してきた。変化の激しい社会においては、伝統文化や文化財、芸術作品などが急速に失われていく恐れがある。これらを埋没させることなく未来に引き継ぎ、発展させていくことが喫緊の課題となっている。

課題の解決に向けては、単に先人の遺してくれた伝統文化や文化財などの確実な保存を図るだけでなく、市民にこれらの価値を再認識してもらうことが重要であり、そのための仕組みづくりが必要である。

文化財等の保存と活用により、子どもたちはじめ幅広い市民層に郷土の歴史や伝統文化に対する理解を深めてもらうとともに、その魅力を再認識してもらう事業を展開する。加えて、市民の主体的な郷土文化の保存と振興の活動を支援する。



新 発 田 城

2 文化行政における取組

地域の文化財の適正な保存と活用を推進し、市民の歴史に対する理解や関心を深めてもらうとともに、市内外に新発田の歴史文化を発信する。

(1) 文化財の調査／文化財調査審議会の開催

市内に潜在する文化財の調査を進め、新たに市が指定すべき文化財については、文化財調査審議会へ諮問する。

(2) 新発田城の公開

国指定重要文化財である新発田城表門・旧二の丸隅櫓及び復元した辰巳櫓を公開（4月～11月）するとともに、櫓および城内の適正な維持管理を行う。

(3) 五十公野御茶屋の公開

新発田藩主の別邸で、国指定名勝に指定されている五十公野御茶屋庭園の建物を公開（4月～11月）するとともに、建物の燻蒸と庭木の剪定などの維持管理を計画的に実施する。

(4) 指定文化財の保存修理支援

指定文化財を適正に保存・活用し、後世に伝えるため、所有者の行う修繕にかかる経費に対し、補助を行う。

(5) 民俗芸能保存のための支援

昭和20年以前から伝承されている獅子舞、盆踊りなどの民俗芸能保存団体が行う道具の購入・修繕や民俗芸能の公開、後継者育成に係る経費に対し補助を行う。

(6) 新発田城の石垣調査

石垣の動きを把握するための「定点観測」を行い、断面図を作成する。

今年度も引き続き、石垣の動きを把握するための測量観測（定点観測）を行いながら、石垣の状態と変化の記録「石垣カルテ」を作成する。

(7) 新発田城の耐震化

国指定重要文化財の新発田城表門及び旧二の丸隅櫓について、耐震基礎診断結果から、耐震補強の方向性について検討する。

(8) 文化財保存活用地域計画の策定

市内の文化財の保存と活用を図るため「新発田市文化財保存活用地域計画」を刊行し、計画推進体制の整備を図る。

3 埋蔵文化財における取組

遺跡の存在・状態を適切に把握し、開発によって消失してしまう遺跡は発掘調査によって記録し、情報として保存する。調査の結果は報告書にまとめて公開し、遺跡情報・出土品の保存と活用を図る。また、これらの埋蔵文化財を適切に保存・活用し、広く公開して市民の郷土理解を深めるための機会を提供する。

(1) 埋蔵文化財の発掘調査

○埋蔵文化財包蔵地を把握・周知するための分布調査

県営ほ場整備事業予定地区内などを踏査する。

○遺跡の保護を目的とする、開発調整のための試掘・確認調査

県営ほ場整備事業（西江地区ほか）、市道改良事業(新発田城跡)などに先立ち調査を行う。

○開発に先立つ本発掘調査に伴う整理・報告書作成作業

県営ほ場整備事業（滝沢地区）地内の堤下 B 遺跡・北野地遺跡で、遺跡情報の記録保存のため現地調査を実施する。また、令和 3 年度に現地調査を実施した新発田城跡などの本格整理作業を実施する。

○小規模開発に伴う工事立会い調査

上下水道工事、県営ほ場整備工事などで実施する。

(2) 埋蔵文化財の普及・活用

・市内小学校での社会科出張授業（6年生の歴史授業で、市内の出土品を公開・解説）

・加治川展示室での出土品などの展示・公開。

・イクネス中央図書館での出土品展の実施

・各種博物館等への展示資料の貸し出しなど



イクネス中央図書館での出土品展

文化芸術振興室

1 基本方針

文化芸術を身近に感じられるまちづくりの実現のため、音楽や演劇などの舞台芸術をはじめ、絵画などの美術作品の創作や展示、日本の伝統文化に親しむための茶会の開催など、幅広い文化芸術活動を推進することで、市民の生きがいがいづくりと文化芸術に親しむ心の醸成に寄与する。

事業実施にあたっては、市の文化芸術施策の拠点である市民文化会館を効果的に活用し、市民への文化芸術活動の発表の場の提供と優れた文化芸術を鑑賞する機会の拡充を行い、さらなる文化芸術の振興を図る。

2 重点事業

(1) 教育鑑賞事業

市の芸術文化活動の拠点施設として「ひとづくり」、「生きがいがづくり」に寄与する事業を実施し、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。

(2) 文化創造事業

市内等で活動する文化・芸術団体および個人に対して、日ごろの練習成果を大ホールで発表する機会を提供することを通して、市民の芸術・文化活動の活性化を図る。

(3) 全国「花嫁人形」合唱コンクール運営事業

新発田市出身の抒情画家・落谷虹児が作詞した唱歌「花嫁人形」を後世に歌い継ぐとともに、虹児のふるさと・新発田を全国に発信することを目的とした全国合唱コンクールを開催する。

(4) 市展運営事業、茶会開催事業

市民の文化・創作活動を活発化し、伝統文化を醸成するため、「新発田市美術展覧会・ジュニア展」、「市民茶会、呈茶席」を開催する。

(5) 美術品展示事業

市民に文化芸術にふれる機会を提供するため、市にゆかりのある作家や作品の美術展覧会を開催する。

(6) 落谷虹児記念館活用事業

魅力ある企画展や回遊展を開催し、落谷虹児の作品を広く市内外に紹介し、文化芸術の振興を図る。

(7) 貸館事業

日ごろの学習や練習の場を提供することを通して、市民の自主的、主体的な芸術・文化活動の振興に資する。

(8) 施設管理

施設の耐用年数が経過し老朽化が著しいことから、利用者の安全・安心を図るために、日々の点検、計画的な改修に努める。

◆教育鑑賞事業◆

本格的な各種舞台芸術をはじめ、地元出身アーティストの育成支援や青少年の芸術文化に対する感性を育む公演を企画し、安価な料金で鑑賞する機会を提供することで芸術文化の普及・振興を図る。

開催日	演目	備考
6月27日(火) ～30日(金)	小・中学校教育鑑賞事業 中学校の部 演劇「ベニスの商人」	主催：小・中学校教育鑑賞事業 実行委員会 公演委託：劇団芸優座
7月2日(日)	新発田出身アーティストセレクション Vol.14 「うたびとジョイントコンサート」	公演委託：SAS 公演実行委員会
7月9日(日)	八神純子コンサート	共催：下越音楽鑑賞協会
7月17日(月)	新発田あやめ寄席 「三遊亭白鳥・桂 宮治 落語会」	出演：三遊亭白鳥、 桂 宮治 ほか
7月29日(土)	宝くじ文化公演 スクリーンミュージックコンサート	出演：東儀秀樹、小松亮太、 川井郁子 ほか
9月5日(火) ～12日(火)	小・中学校教育鑑賞事業 小学校の部 演劇「一休さん」	主催：小・中学校教育鑑賞事業 実行委員会 公演委託：劇団芸優座
10月8日(日)	岸谷 香コンサート	出演：岸谷 香
10月29日(日)	村松崇継コンサート	共催：下越音楽鑑賞協会

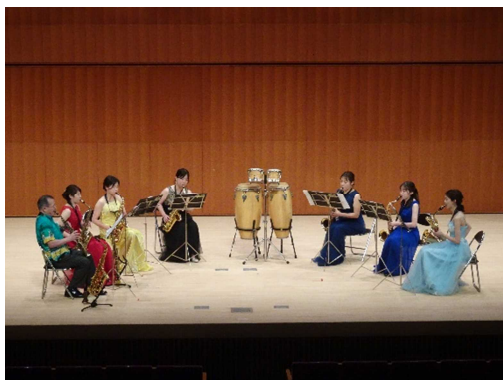
◆文化創造事業◆

文化団体等へ活動発表の場を提供することで、芸術文化活動の普及拡大を図る。

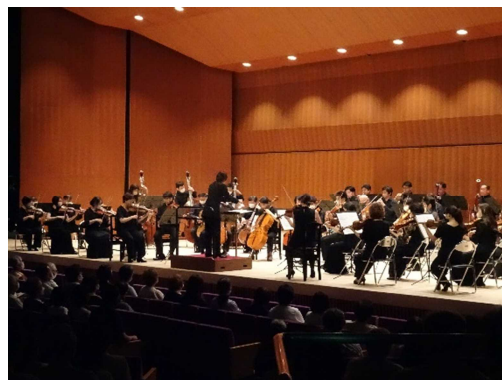
開催日	演目
5月14日(日)	箏・三絃・尺八演奏会
6月11日(日)	ライトミュージックコンサート
6月18日(日)	市民コンサート 2023

開催日	演 目
7 月 16 日(日)	合唱のつどい
8 月 19 日(土)	高校音楽祭
10 月 1 日(日)	新発田市音楽文化協会定期演奏会
10 月 15 日(日)	秋を彩るバレエ・日舞・フラダンス
10 月 22 日(日)	伝統芸能のつどい（能楽／詩吟・吟舞・剣武）
随 時	会館ピアノ

〔昨年度開催の様子〕



◇市民コンサート 2022



◇山形交響楽団 新発田公演

◆全国「花嫁人形」合唱コンクール運営事業◆

事業名	開催日	参加募集対象
第 24 回 全国「花嫁人形」合唱コンクール	11 月 12 日(日)	全国の合唱団体 (募集：25 団体)

◆市展運営事業◆

事業名	開催日	備 考
第 52 回新発田市美術展覧会 併催：第 51 回新発田市ジュニア展	10 月 20 日(金) ～ 24 日(火)	会場：カルチャーセンター

◆茶会開催事業◆

事業名	開催日	備 考
市民茶会	5 月 14 日(日)	会場：清水園・蔵春閣
呈茶席	令和 6 年 3 月	会場：蔵春閣

◆美術品展示事業◆

事業名	開催日	備 考
新発田市所蔵美術作品展 併催：第 51 回新発田市ジュニア展	11 月 17 日(金)) 26 日(日)	会場：生涯学習センター

◆蒨谷虹児記念館活用事業◆

事業名	開催日	備 考
企画展 蒨谷虹児の少女倶楽部×少女クラブ展	3 月 14 日(火)) 6 月 25 日(日)	会場：蒨谷虹児記念館
企画展 安野光雅・葉祥明 版画ふたり展	7 月 4 日(火)) 10 月 22 日(日)	会場：蒨谷虹児記念館
企画展 菅野由貴子のワンダーランド展（仮称）	10 月 31 日(火)) 令和 6 年 1 月 28 日(日)	会場：蒨谷虹児記念館
企画展 蒨谷虹児蔵出し展（仮称）	令和 6 年 2 月 6 日(火)) 5 月 19 日(日)	会場：蒨谷虹児記念館

図 書 館

1 基本方針

(1) 基本理念

新発田市立図書館の基本理念を次のとおり定めます。

すべての人たちの学びを支え培う、知と情報の拠点
— ひと、まち、活動をつなぎ、歴史をつむぐ —

(2) 図書館基本方針

基本理念に基づき、次の4つの基本方針を柱として、図書館運営を進めていきます。

① 暮らしに役立ち利用しやすい図書館

- ア 生涯学習や課題解決を支援する資料、情報の整備と提供
- イ 地域の特性に応じた分館の充実
- ウ 高齢者、障がい者、乳幼児などにやさしい環境とサービスの充実
- エ 誰でも居心地が良いと感じる空間の提供

② 子どもの心を豊かに育む図書館

- ア 幼い時期から本に親しむ機会の提供と環境の整備
- イ 読書習慣の形成に向けた支援
- ウ 読書活動を支えるボランティアの養成と支援
- エ 学校図書館との連携と支援

③ 郷土の歴史や文化を大切にする図書館

- ア 未来へ向けた新発田市の歴史の継承
- イ 新発田市の歴史や郷土についての学びと発表の場の整備
- ウ 歴史で繋がるコミュニティと賑わいの創出

④ 市民とともに創る開かれた図書館

- ア 市民と協働する運営体制の構築
- イ 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化
- ウ ボランティアの養成と協働

2 中央図書館

(1) 運営方針

図書館の4つの基本方針に基づき、中央図書館の運営を進めていきます。

- ① イクネスしばたの核として、こどもセンターやキッチンスタジオ等それぞれの施設の活動を繋ぐ役割を担い、複合施設としての機能を十分に生かせる事業を実施します。
- ② 生涯学習支援のため、多様化するニーズに応えられる資料や情報の収集と提供を行い、誰もが利用しやすい読書環境の整備に努めます。
- ③ 新発田市子ども読書活動推進計画の基本方針に基づき、関係機関・団体等と連携し子どもの読書活動の推進に取り組みます。
- ④ 市民団体であるイクネスサポータークラブと協働で事業を進め、開かれた図書館を目指します。
- ⑤ 分館・分室については、地域の実情に応じた読書環境を整備し、サービスの向上に努めます。



わいわいどうぶつおはなし会



図書館のお仕事体験ツアー

(2) 分館・分室

分館・分室	場 所	開設日・時間	貸 出
豊浦分館	豊浦地区公民館内 新発田市乙次 26-2 電話 22-2081	年末年始を除く 9:00-21:20	中央館、歴史図書館を含む5館合計で10冊まで。 期限は2週間。 ※貸出の場合は、 【利用者カード】 をご用意ください。
紫雲寺分館	紫雲寺地区公民館内 新発田市稲荷岡 2371 電話 41-2291	年末年始を除く 9:00-21:00	
加治川分館	加治川地区公民館内 新発田市住田 501 電話 33-2433	年末年始を除く 9:00-21:20	
五十公野分室	五十公野コミュニティセンター内 (旧ふるさと会館) 新発田市五十公野 4930-1	日曜日 第2・4土曜日 9:30-11:30	各分室4冊まで。 期限は2週間。 ※貸出の場合は、各分室の手続きに従ってください。
松浦分室	松浦農村環境改善センター内 新発田市法正橋 676	祝日を除く 月曜日～金曜日 8:30-17:00	
川東分室	川東コミュニティセンター内 新発田市下羽津 1908	毎週日曜日 10:00-12:00	
佐々木分室	佐々木コミュニティセンター内 新発田市則清 956-1	火曜日～金曜日・日曜日 13:00-16:30 土曜日 9:30-16:30	

● 他に、住吉・赤谷・菅谷・七葉配本所があります。

(3) 令和5年度 中央図書館事業計画

行事名	開催月日・会場	内容
こども読書週間週間行事 「図書館わくわくきっぷ」	4月22日（土）～5月17日（水） 会場：2階 児童図書フロア	幼児から小学生を対象に、5つのイベント（ミッション）が書かれた切符を使って図書館内を旅をしてもらう。3つ以上のイベント参加で景品がもらえる
「家読（うちどく）のススメ」	4月28日（金）～5月31日（水） 会場：2階 児童図書フロア	「新発田市子ども読書活動推進計画」に基づき、「家読（うちどく）」の啓発・推進を図るため、PR展示を行う
絵本に出てくるお菓子をつくろう！	7月29日（土） 会場：2階 キッチンスタジオ 多目的室2	小学生低学年と保護者を対象とし、絵本に出てくるお菓子を実際に作る。また、絵本の読み聞かせも行う
みんなおいでよ！夏のおはなし会	8月19日（土） 会場：2階 多目的室4・5	幼児から小学生と保護者を対象とし、夏をテーマとした絵本や紙芝居の読み聞かせ
雑誌リサイクルフェア	9月9日（土） 会場：1階 多目的室1	希望者に保存期限切れの雑誌を無償で譲渡する
読書週間行事「〇〇さんへこの本読んでみて」	10月上旬～11月中旬 会場：2階	小学生を対象に、本を読んでもらいたい人あてに手紙を書いてもらう。手紙を受け取った人は、図書館に掲示されている手紙を見て、すすめられた本を読む
新春企画 「ふくほん」～あなたに福を届けるこの一冊～	1月5日（金）～ 会場：1～3階 図書フロア	図書館スタッフおすすめの本を福袋に入れて貸し出す。中の本が何かは借りてからのお楽しみとなっている
しばたの心継承プロジェクト 新春企画 「かるた大会」	1月中旬 会場：2階 多目的室4・5	小学生を対象に、郷土を題材としたかるたを使ってかるた大会を行う
ゆりり体操	3月中旬 会場：2階 多目的室4・5	読書などで凝り固まった体を、誰でも出来る体操でほぐす
読書ボランティア養成講座	10月、3月	新たな読書ボランティアの養成を目的に行う
絵本や紙しばいの読み聞かせ	毎週土曜日 10：30～11：00 会場：2階 多目的室3	読み聞かせボランティア「おはなしのとびら」による読み聞かせ
	毎月第2日曜日 15：00～15：30 会場：2階 多目的室3	読み聞かせボランティア「おはなしばたぼん」による読み聞かせ
	毎月第3金曜日 10：30～11：00 会場：2階 多目的室3	読み聞かせボランティア「おはなしのとびら」による「ちいさいひとたちのためのおはなし会」（0～2歳児）
学校出前読み聞かせ	随時 会場：市内小学校	読み聞かせボランティア「おはなしのとびら」による読み聞かせ
ビブリオバトル	6月26日（日）・11月5日（日） 会場：1階 多目的室1	発表者おすすめ本の中から聴衆の投票で優勝本を決める書評合戦 サポータークラブ「新発田市立図書館利用者友の会」、「敬和学園大学図書館愛好会ライブラリオ」と共催で実施予定
企画展示	各季に企画展示実施 会場：2階展示室	テーマに沿った図書の展示など

※ ブックスター 3か月検診時に読み聞かせの実演と絵本のプレゼントを行うもの
読み聞かせについて来年度から実施予定で、主管課のこども課と調整中

3 歴史図書館

(1) 運営方針

図書館の基本理念及び基本方針に示された「郷土の歴史や文化を大切にする図書館」に基づき、次のとおり歴史図書館の運営を進めていきます。

- ①これまで図書館が所蔵してきた歴史資料・郷土資料を引き継ぎ、適正な状態で管理します。
- ②歴史資料を所蔵している個人や団体と連絡を密にし、資料の散逸を防ぐとともに、市域全体の歴史資料保存に努めます。
- ③収集した資料や情報を、多くの人がわかりやすく検索して調べることができる仕組みを構築します。（デジタルアーカイブズ化）
- ④幅広い利用者確保のために、夏休みの子ども向け事業を実施するほか、地域の歴史を魅力的に伝え、地域を知る楽しさの醸成のため、「まち歩き」など、史跡を活用した事業を実施します。

(2) 令和5年度 歴史図書館事業計画

①展示室1

行事名	開催期間	内 容
歴史図書館開館5周年・蔵春閣開館記念 「喜八郎さんからの贈り物」	4月29日（土） ～8月31日（木）	蔵春閣にあった調度品、大倉集古館や東京経済大学所蔵のゆかりの品、市所蔵資料を展示
秋季企画展 「どうしょば秀勝」	9月16日（土） ～12月24日（日）	大河ドラマ「どうする家康」にちなみ、新発田藩初代藩主溝口秀勝関連資料を展示
冬季通常展 「明治維新と新発田藩」	1月13日（土） ～3月31日（日）	異国船の来航から、廃藩置県に至るまでの明治維新の転換を、市内に残る資料から紹介

②展示室2

* 季節や風俗などに合わせた所蔵資料を展示します。

③企画事業

行事名	開催期日（会場）	内 容
城下町まち歩き （全5回）	5月13日（土）	蔵春閣～清水谷編
	6月10日（土）	蔵春閣～清水谷編
	9月16日（土）	下町～積善堂編
	10月14日（土）	寺町～蔵春閣編
	11月11日（土）	泉町～蔵春閣編
講演会（全3回）	5月6日（土） （市民文化会館）	「大倉喜八郎の美術品収集と蔵春閣」 大倉集古館副主任学芸員 四宮 美帆子 氏
	9月6日（水） （生涯学習センター）	国絵図研究会 新発田例会講演会 上杉博物館学芸員 阿部 哲人 氏 徳島大学名誉教授 平井 松午 氏
	2月10日（土） （歴史図書館）	「明治英文旅行ガイドに見る新潟」 県立歴史博物館専門研究員 西田 泰民 氏
子ども体験イベント	8月4日（金）	蔵春閣を巡りながらクイズ形式で ゴールを目指す体験型イベント
古文書相談会	随時 （歴史図書館）	市民が所蔵する持ち込まれた古文 書を調査、解説
初めての古文書教室	9月30日（水）～ 11月4日（水） 毎週水曜日（全5回）	古文書解説研修会会員を講師に迎 えた古文書解説の基礎や実際の文 書を見ながらの研修



城下町まち歩き



特別展チラシ

生涯学習

基本方針

多様化する市民の生涯学習ニーズに応えながら、いつでも学習できる機会と場を提供するとともに、市民が生きる張り合いや喜びを感じ、自己実現できるように支援していかなければならない。

これをより強く進めるため、生涯学習センターを当市の生涯学習の拠点施設と位置付けるとともに、次の三つの施策を基本としながら、生涯学習関連部署と連携を深め、事業を展開していく。

1 生涯学習

市民の生涯学習活動を充実させるため、多様化するニーズに応えた事業を推進するとともに、学習活動を幅広く支援し、市民の健康増進、人材育成に努める。

2 青少年育成

「豊かな心と広い視野を持ち、自主性・社会性・創造性に富んだ子ども」の育成を目指し、学校や家庭、地域社会が一体となった育成活動を行うとともに、社会参加活動や体験活動により、青少年の「生きる力」の育成に努める。

3 スポーツ・レクリエーション

子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会の充実や環境づくりを進めるとともに、スポーツを通じて市民の元気を育むまちを目指す。

生涯学習課

1 重点事業

- (1) 生涯学習の一環として、成人に対しても学習の機会を提供する中で、20歳の節目を祝うため、市全体、市民全体でお祝いするあたたかみのある式典を開催する。
- (2) 青少年の健全育成と赤谷地域の活性化のために、地元住民等と連携しながら青少年宿泊施設「あかたにの家」の利用促進を図る。
- (3) 子どもたちの「生きる力」を育むために、小学校が防災教育カリキュラムの一環として行う防災キャンプ、中学校が行う防災教育に対して支援を行う。
- (4) 各地区公民館、生涯学習センターとの連携を強化する。

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
成人式開催事業	平成 15 年 4 月 2 日から平成 16 年 4 月 1 日までの間に生まれた人	令和 6 年 3 月 17 日(日) 開催予定	成人となり 20 歳を迎えた方々を対象に市全体、市民全体でお祝いするあたたかみのある式典を実施する。
社会教育委員運営事業	社会教育法に基づく社会教育委員	社会教育委員の会議 令和 5 年 6 月 令和 6 年 3 月	社会教育委員の職務を適切に機能させるよう努め、社会教育関連の研究成果や助言を集約する会議等を定期的で開催し、関係事業に効果的に反映させる。
学校施設開放事業	市民やサークル、各種団体	通年	学習活動や会議、講習会、地域行事等の場を提供するため、市内小中学校の特別教室の一部を開放する。

(2) 青少年育成

事業名	対象	期間等	事業内容
青少年宿泊施設管理運営事業	団体、学校など	青少年宿泊施設「あかたにの家」 開館 4月～11月	合宿等の宿泊体験や会合、練習などの利用促進に努め、健全な青少年の育成と赤谷地域の活性化を図る。
家庭教育推進事業	P T A 等各種団体	通年	小中学校 P T A や幼稚園、保育園、認定こども園、子育てサークル等と連携し、家庭教育に関連した学習機会の充実を図る。
教育広報誌発行事業	市民	令和 6 年 3 月発行	青少年に関わるさまざまな体験活動や各種情報を発信し、市が取り組む教育活動への理解を深める。
防災教育推進事業	小中学校  「あかたにの家」での防災キャンプにおける避難所設営体験	通年	小学校が防災カリキュラムの一環として行う防災キャンプと中学校が行う防災学習に対して支援を行い、防災教育の推進を図る。

新 発 田 地 区 公 民 館

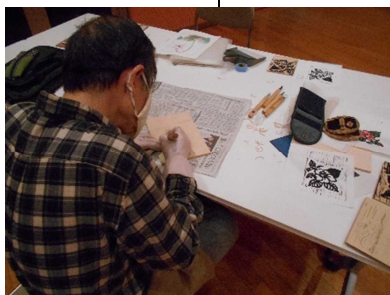
1 重点事業

- (1) 土曜学習支援事業の推進
- (2) 生涯各期にわたる学習機会を提供する生涯学習講座の充実
- (3) 多様化する高齢期のライフスタイルに合った高齢者大学事業の実施
- (4) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

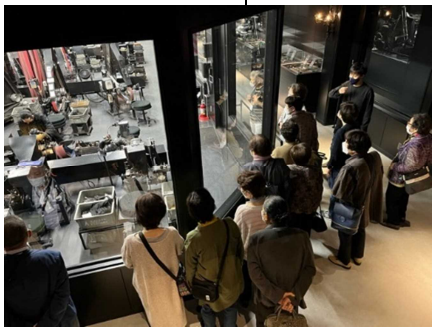
2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業	本庁地区の小学校4・5・6年生及び中学校1～3年生 定員70人(本庁地区)、30人(川東地区)	【本庁地区】 5月～3月(全39回) 【川東地区】 5月～3月(全43回)	子どもたちの学習意欲の向上、学習習慣の定着、居場所づくり、学力向上を図るため、学校、家庭、地域が連携して、土曜日を利用した学習支援を行う。
市民レクリエーション開催事業	市民	「市民釣り大会」 5月21日(日) 「市民将棋大会」 8月20日(日) 「市民囲碁大会」 令和6年2月4日(日)	同じ趣味を持つ人の交流と成果発表のための各種大会を開催し、技術の向上を図る。
生涯学習講座開催事業	市民	5月～3月 「茶道講座」 「デッサン講座」 「韓国語講座」 「テーブルマジック講座」 「絵手紙講座」 「オカリナ講座」	生涯学習に取り組むきっかけとなる場を提供し、市民の生きがいづくりを提供できる各種講座を開催する。 語学、体育、趣味・教養の向上講座などを計画する。



版画講座（R4年度実施）

事業名	対象	期間等	事業内容
公民館こども交流 体験事業（オムレ ックラブ）	市内小学生	4月～3月	土曜日を中心に実施 し、館外活動や体験学 習、伝統文化を通して 子どもたちの創造性や 自主的な学習意欲を向 上させるとともに、仲 間づくりやひとづくり を目指す。また、当市 の歴史や文化、伝統等 を学び、ふるさとを愛 する心を育む。 「体験学習コース」 「伝統文化コース」 「夏休み特別コース」 「こども将棋」を開催 する。
			
オムレッククラブ夏休み特別コース「水遊び」 （R4年度実施）			
高齢者大学開催事 業 （菖城大学）	各地区のおおむね60歳以上の男女	5月～12月	高齢者社会に対応 し、健康で明るく、豊 で生きがいのある生活 を送ることを目的と し、交通手段や体力的 な面から地域での活動 を希望する高齢者に対 し、各地区に出向いて 健康体操、施設研修な どの講座を実施する。 9地区各8回開催。
			
カーリンコン			
			
視察研修（三条市）			

事業名	対象	期間等	事業内容
新潟県公民館連合 会参画事業		4月～3月	新潟県公民館大会や 各種研修会に参加し、 県内公民館職員との交 流や研修による職員の スキルアップを図る。
下越地区公民館連絡 協議会参画事業		4月～3月	下越地区公民館職員 研修会等へ参加し、職 員の資質の向上を図 る。
マナビィフェスティ バル開催事業	市民	令和6年2月24日(土) ～3月3日(日)	生涯学習活動を行う人 に活動成果発表と仲間 づくりの場を提供す る。
			
手工芸・水墨画、いき いき作品展開催事業	(出品対象種目) 水墨画、陶芸、写 真、書道、押し花 等	6月16日(金)～18日(日)	手工芸・水墨画等の創 作活動の振興を図り、 日ごろの活動の成果を 発表する場を提供す る。

事業名	対象	期間等	事業内容
趣味の展示会運営事業 (エールコーナー)	生涯学習活動団体	通年	趣味活動で作り上げた作品や団体活動の発表ができる「エールコーナー」を通年を通して提供し、支援する。
	市民	バンドフェスティバル 11月4日(土)	小規模ホールにふさわしい音楽を提供することにより、文化的な地域づくりの一端を担う。バンドフェスティバルを計画。
	市民	10月発刊	市民から文芸作品と運営委員を募り、「文芸しばた」を編集、発行する。冊子を発行・頒布することで、市民の創作意欲を高め、文芸に触れる機会を提供する。

(2) 生涯学習施設の運営・維持管理

事業名	部門等	期間	事業内容
新発田地区公民館・分館維持管理事業	施設維持管理	4月～3月	施設の維持管理を行うことで快適な施設利用を図る。

豊浦地区公民館

1 重点事業

- (1) 生涯にわたる学習機会の提供
- (2) 文化・芸術・芸能活動の場の提供
- (3) スポーツ・レクリエーションを通じた地域コミュニティ活動の推進
- (4) 「しばたの心継承プロジェクト」の推進による学校、地域との連携
- (5) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業	小学校４年生 ～６年生及び 中学生１年生 ～３年生	５月～３月 (全３８回)	子どもたちの学習意欲の向上、学習の習慣化、確かな学力の定着・向上を図るため、学校、家庭、地域が連携して土曜日を利用した学習支援を行う。
公民館こども交流体験事業 (チャレンジ真木山キッズ)	小学生・保育園児(ただし、保育園児は一部の体験活動を除く。)	６月～３月 原則毎月第２土曜日１０回、 体験活動３回、 継承活動５回	書道など様々な「体験」活動を通して、楽しみながら子どもたちの創造力及び学習意欲を向上させるとともに、人間関係の形成と「生き抜く力」を育む。
市民教養講座開催事業 (成人講座)	市民(成人)	１０月 (１回)	成人を対象に歴史をテーマに講座教室を実施する。
(家庭教育講座)	市民(親子)	１２月(１回)	親子クリスマスツリー教室を実施する。

事業名	対象	期間等	事業内容
(市民教室)	市民	9 月、10 月 (2 回)	自分だけの作品作りを楽しみながら文化・芸能祭への出展・参加を視野に入れた陶芸教室を実施する。
高齢者大学開催事業 (豊浦大学)	60 歳以上	6 月～3 月 年 7 回	高齢者が豊かな人生を送るための学習・交流の場として位置づけ、実生活に役立つ野菜づくり、健康づくりなど、生きがいにつながる講座を実施する。
市民レクリエーション開催事業	市民	5 月 14 日(日) 10 月 22 日(日) 2 月中旬 2 月 23 日(金)	月岡温泉湯ったりウォーク 男女混合ソフトボール大会 ボッチャ大会 囲碁・将棋大会
豊浦地区公民館維持管理事業	市民・団体・ 機関	通年	施設管理・貸出業務、 図書貸出業務

(2) 芸術・文化

事業名	対象	期間等	事業内容
公民館文化祭開催事業 (豊浦地区文化・芸能祭)	地区公民館を 活動拠点として いる団体お よび市民	11 月 18 日(土) ～19 日(日)	豊浦地区公民館を活動拠点としている団体及び個人の活動成果を発表する場として位置づける。

(3) 地域コミュニティスポーツ事業・体育施設運営

事業名	対象	期日	会場
① 真木山カップフェステバル	県内のジュニアチーム	6月3日(土) ～4日(日) 6月10日(土) ～11日(日)	豊浦総合運動施設多目的グラウンド
② 豊浦地区ゴルフ大会	市民	6月18日(日) 10月15日(日)	フォレストカントリー倶楽部 中峰ゴルフ倶楽部
③ レッツトライ！スポーツチャンバラ	市民	8月3日(木) 10日(木)	豊浦地区公民館大ホール
④ 豊浦地区野球大会	市民	8月14日(月)	真木山中央公園野球場ほか
⑤ 新発田ジュニア杯少年野球大会	市内小学生チーム	10月28日(土) 10月29日(日)	真木山中央公園野球場 豊浦中学校グラウンドほか
⑥ 陸上教室	市民	11月19日(日)	多目的グラウンド
⑦ 豊浦杯バドミントン大会	市民	12月3日(日)	豊浦体育センター
⑧ スポーツ体験会	市民	随時	真木山中央公園野球場ほか
真木山中央公園体育施設維持管理事業	市民・団体	通年	施設管理・貸出業務
豊浦体育センター維持管理事業	市民・団体	通年	施設管理・貸出業務
豊浦総合運動施設維持管理事業	市民・団体	通年	施設管理・貸出業務

*①～⑧は豊浦地区スポーツ振興会主催

紫雲寺地区公民館

1 重点事業

- (1) 地域関係団体との連携強化
- (2) 生涯にわたる学習機会の充実
- (3) 土曜学習支援事業の推進
- (4) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
市民レクリエーション開催事業 (囲碁将棋大会) 	囲碁将棋愛好者	2月4日(日)	囲碁・将棋愛好者の技術向上を図るとともに、交流の場を提供する。 伝統文化の継承のため若者の参加をうながす。
市民教養講座開催事業 (ふるさと講座)	市民	9月、11月	地域に由来のある歴史に関する講座を開催し、地域への理解を深めるとともに郷土の魅力を再発見することを目的にふるさと講座を開催する。
(健康・教養講座)	市民 (18歳以上)	7月～10月	健康を見直し、体力づくりとストレス社会でのリラクゼーション効果を得る機会とする。 また、趣味や芸術文化の学習の場を提供し、市民の生きがいを増進するとともに、学習意欲を支援し、新たな趣味の発見と仲間づくりの場を提供する。

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業 	市内小学校4～6年生 市内中学校全学年	5月～3月 土曜日（午後） 全35回	子どもたちの学習意欲の向上、学習の習慣化、確かな学力の定着・向上を図るため、学校・家庭・地域が連携し、土曜日を利用した学習支援事業を実施し、推進する。 学校授業の予習・復習、宿題、問題集や参考書など、各自で教材を用意して自主学習に取り組む場を提供するもの。 教科の疑問・質問・相談は、教員経験者、市民、高校生、大学生など、有償ボランティアによる講師が指導、対応する。 小学生は算数、中学生は数学・英語を基本とする。
公民館こども交流体験事業 （風の子クラブ）	小学生 （4～6年生）	5月～1月 年間11回	土曜日を中心に 野外活動や体験活動、社会奉仕活動などを開催するとともに、地域の高齢者との世代間交流事業を実施する。 子どもの学習意欲を高めるとともに、次代を担う子どもたちの自主性・協調性・創造性を養う。
高齢者大学開催事業 （五葉大学） 	市民 （60歳以上）	5月～3月 年間10回	学級生による運営委員会で学習計画をたて、学習意欲の向上を図り、学習成果を地域に還元し、生きがいにつなげる。
文化・芸術祭開催事業 （紫雲寺地区文化祭）	市民 文化団体 商工会女性部	10月28日（土） 10月29日（日）	作品の充実を図るとともに、誰にでも「親しめる・楽しめる」文化祭を実施する。絵画・手工芸など多彩な作品を展示する。

事業名	対象	期間等	事業内容
(子ども芸能音楽祭)	地区内小・中学生	11月4日(土)	地区内の小・中学生が、日頃の練習成果を発揮することができ、また、保護者だけでなく、地域の方々にも子どもたちの成長を感じてもらえる音楽祭。
(芸能音楽祭) 	地区公民館利用団体他	11月12日(日)	紫雲寺地区公民館を利用している活動団体の日頃の練習の成果を発表する場を設け、利用団体の活動意欲の向上と芸能文化の振興に努める。

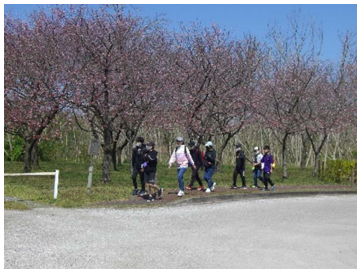
(2) 生涯学習施設の運営・維持管理

事業名	対象	期間等	事業内容
紫雲寺地区公民館・分館維持管理事業	市民、団体、機関	通年	○施設管理、施設貸出業務 ○図書貸出業務 ○学習情報の提供 ○館内ロビーでのミニ作品展
紫雲寺地区体育施設維持管理事業	市民、団体、機関	通年	○施設管理、施設貸出業務

(3) 青少年育成

事業名	対象	期間等	事業内容
紫雲寺地区青少年健全育成協議会（事務局）	市民	通年	○環境浄化パトロール ○広報「おもいやり」の発行 ○教育振興大会 ○「わが家わが地域の元気っ子」写真コンクール ○れんぎょうパトロール隊の育成と連携強化 ○助成金交付

(4) スポーツ・レクリエーション

事業名	対象	期間等	事業内容
地域コミュニティスポーツ事業 	市民	4月9日(日) 春夏秋冬の3回 6月11日(日) 6月25日(日) 11月23日(祝) 1月28日(日) 1月 随時	各種スポーツ大会、教室の開催 (平成25年度から市の委託事業として実施) ○れんぎょう・さくらお花見ウォーク ○紫雲寺地区ゴルフ大会 ○紫雲寺地区ソフトバレーボール大会 ○ハイキング&登山にチャレンジ ○紫雲寺地区バレーボール大会 ○紫雲寺・加治川オープン卓球大会 ○紫雲寺地区スキー教室 ○加盟団体及び地区体育振興会への活動助成 ○全国大会、北信越大会出場者への派遣支援 ○紫雲寺スポーツ振興会だよりの発行(年2回)

加治川地区公民館

1 重点事業

- (1) 生涯にわたる学習機会の充実
- (2) 青少年教育の充実
- (3) 地域関係団体との連携と地域づくりの推進
- (4) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業	加治川小学校 4～6 年生、加治川中学校 1～3 年生、加治川小中学校以外の児童・生徒も参加可能 定員 30 人	5 月～3 月 原則、毎週土曜日（午後） 40 回	学校授業の復習・予習、宿題、問題集や参考書など、各自で教材を用意して自主学習に取り組む場を提供する。 教科の疑問・質問・相談は、教員経験者、市民、大学生など、有償ボランティアによる講師が指導する。 主に算数・数学、英語（国語、理科、社会も可）
公民館こども交流体験事業（わくわく桜体験隊）	小学生 加治川・七葉小学校 2～6 年生	7 月～3 月 （年間 5 回）	小学生を対象とした様々な体験学習や創作活動を通して、子どもたちの学習意欲を向上させるとともに、人間関係の形成と「生きる力」を育む。 ○内容 スポーツ体験、サマーキャンプ、4 館合同事業、創作活動、料理体験など

事業名	対象	期間等	事業内容
市民教養講座開催事業	市民	6、10 月	地域に由来のある歴史講座を開催し、地域の歴史の理解を深めるとともに郷土の魅力を再発見することを目的に講座を開催する。
(園芸講座)	市民 定員 20 人	7 月～3 月 (3 回)	生き生きとした日常生活を過ごしてもらうため、新たな趣味の発見と仲間づくりの機会とする。
(スキルアップ講座)	市民 定員 40 人	12 月	家庭や地域で役立つ技術を身につけるための講座を開催する。
高齢者大学開催事業 (高齢者団体生涯学習活動支援事業)	加治川地区内の 市民 (概ね 60 歳以上、10 名以上で構成する団体)	通年 4 月～3 月 (随時)	高齢者が豊かで生きがいのある生活を送るため、加治川地区で活動する高齢者団体の生涯学習活動を支援する。
(ラクラク教室)	主に加治川地区内の市民(主に中高年者)	通年 4 月～3 月 (30 回程度)	「心と体を楽しむ」をテーマに気軽に参加できる教室を開催する。 ○内容 体操教室(24 回)、その他(施設見学など)
文化・芸能祭開催事業 (加治川地区公民館まつり)	市民	11 月 11 日(土)～12 日(日)	地域住民の文化活動の発表、展示を行い、学習の成果を披露する機会として開催する。 ○内容 作品展示、芸能発表など

(2) 生涯学習施設の運営・維持管理

加治川地区公民館維持管理事業 (中川分館含む)	市民・団体・機関	通年	○施設管理・施設貸出業務 ○図書貸出業務 ○学習情報・協力業務 ○公民館ガイド発行
加治川地区体育施設維持管理事業 (加治川地区体育館、大天城公園野球場・テニスコート、屋外運動場等)	市民・団体・機関	通年	○施設管理・施設貸出業務

(3) 青少年育成

加治川地区青少年健全育成協議会（事務局）	市民	通年	○小・中学校の活動支援 ○地域環境パトロール ○地域子ども会等の活動支援 ○広報紙「はぐくみ」発行 ○社会環境実態調査への協力
----------------------	----	----	---

(4) スポーツ・レクリエーション

事業名	対象	期間等	事業内容
市民レクリエーション開催事業（春の大峰山ハイキング）	市民ほか	4月29日	自然への親しみを図り、健康増進に資するため、大峰山ハイキングを実施する。
地域コミュニティスポーツ委託事業（加治川地区公民館地域コミュニティスポーツ委託事業）	市民	（通年） 4月 5月・9月 10月 未定 1月 未定	スポーツを通じて地域住民の健康増進と地域コミュニティの円滑化を図るため、地域コミュニティスポーツ事業を加治川スポーツ振興会に委託し実施する。 （主な振興会実施事業） ○れんぎょう・さくらお花見ウォーク ○グラウンド・ゴルフ大会 ○ゲートボール大会 ○テニス大会 ○バレーボール大会 ○親善卓球大会 ○スポーツ体験教室

生涯学習センター

1 重点事業

(1) 研修室等の貸出し、市民のかたらいの場・学習コーナー等の機能の充実

2 事業計画

(1) 生涯学習施設の運営・維持管理

事業名	対象	期間等	事業内容
生涯学習センター維持管理事業	施設維持管理	通年	施設管理・貸出業務

(2) 視聴覚ライブラリーの運営

内容	対象	期間等	事業内容
視聴覚機器教材の貸出	登録団体	通年	視聴覚機器・教材の貸出事業 不良・破損や不要教材等の分別整理

※ 令和4年度貸出状況（参考）

区分		所有数	貸出数
利用状況	利用団体数	—	30団体
	観覧者数	—	1,209人
教材	DVD	62本	2本
	ビデオ	649本	3本
	16mmフィルム	525本	1本
機材	プロジェクター	2台	26回
	スクリーン	4台	12回
	16mm映写機	1台	1回
	書画カメラ	1台	1回

青少年健全育成センター・児童センター

1 基本方針

当市における青少年の健全育成については、「豊かな心と広い視野をもち、自主性・社会性・創造性に富んだ子ども」の育成を目指し、「自ら学ぶ意欲と思いやりのある心」、「さまざまな社会の変化に主体的に対応できる力」、「新発田への愛着と人に対する敬意や誇り」の育成を重点目標に掲げ施策を推進する。

「深めよう絆」をモットーに学校、家庭、地域社会における望ましい人間関係の再構築を図るとともに、街頭指導活動や青少年健全育成活動等、地域社会が一体となった育成活動を行う。

さらに、関係機関との密接な連携のもと、ボランティア活動をはじめとした社会参加活動や体験活動を重視し、子どもたちにこうした機会や場を積極的に提供することにより、深刻ないじめや非行問題の解消を図り、青少年の「生きる力」の育成に努める。

2 重点施策

- (1) 新発田青少年健全育成市民会議をはじめ、青少年育成団体等との連携を図りながら、青少年健全育成の充実と青少年団体の活動の活性化を推進する。
- (2) 少年補導委員による市内各所への巡回活動を実施するとともに、「愛の一声運動」を積極的に推進し、青少年の健全育成を図る。
- (3) 児童センター及び児童運動センター「ユウネスしばた」において、折々の行事を実施し、遊びの指導と体力増進を図る。
- (4) 市内 19 児童クラブにおいて、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童等に適切な遊びや生活の場を提供し、健全育成を図る。
- (5) 放課後子ども教室において、放課後の児童の安心・安全な居場所の確保と多様な活動の場を提供する。
- (6) 各種事業を周知するため、ホームページをはじめとした周知方法の工夫を図るとともに、学校や関係機関との連携を進め、青少年の健全育成のためのボランティア活動を強化する。

<ユウネスしばた>



<ちびっこワールド>



3 事業計画

【令和5年度 青少年健全育成センター事業計画】

事業	内容
1 遺児激励事業	遺児が心身ともに明るく健全に成長することを願い、もって遺児家庭の福祉の増進を図るため、各種事業を実施する。
2 青少年地域活動推進事業	新発田青少年健全育成市民会議への委託事業として、地域・関係機関等が一体となり、市内全中学校区独自の活動を行い、各種健全育成活動を推進する。
3 青少年育成組織への活動支援助成事業	青少年健全育成の推進のため、新発田青少年健全育成市民会議に活動助成を行い、少年団体や地域育成協議会等の関係団体相互の連携強化及び活動の充実を推進する。
4 少年補導活動運営事業	市内各所での補導活動や青色回転灯装着車両を活用した不審者対策等を実施し、青少年の健全育成を図る。

【令和5年度 児童センター事業計画】

事業		対象	内容
1 児童センター活動事業 (児童センター・児童運動センター「ユウネスしばた」での遊びの指導・体力増進)	ちびっこワールド	未就園児とその保護者	○手遊び、リズム体操など、集団生活への準備の場を提供する。 Ⅰ期 5月、Ⅱ期 10月、Ⅲ期 2月
	体で遊ぼう	小学生	○ジャンボバルーンやドッジビーなどの遊びを通して、子ども達の交流と体力増進を図る。
	学生ボランティア	中学生～大学生	○行事等への参加を通じて、子ども達との関わりを体験する。
2 児童クラブ運営事業	放課後児童健全育成事業	小学生	○市内19児童クラブにおいて、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童等に適切な遊びや生活の場を提供する。また、指導員の確保と研修等による資質の向上を図る。
3 放課後子ども教室推進事業	学校・家庭・地域の連携促進事業	小学生	○外ヶ輪、猿橋、二葉の3小学校の児童を対象として、放課後に学習や様々な体験・交流活動を実施し、健全育成を図る。

《 資 料 》

1 歴代教育委員等一覧

氏 名	期 間
原 清七	S27.11.1 ~ S31.9.30
酒井 環	S27.11.1 ~ S31.9.30
高橋 規策	S27.11.1 ~ S30.4.17
中野 林八	S27.11.1 ~ S31.9.30
吉田 重男	S27.11.1 ~ S32.4.30
関 久	S27.11.1 ~ S38.1.5
大沼 藤雄	S30.4.1 ~ S31.9.30
湯浅 順次	S30.4.1 ~ S31.9.30
肥田野才之丈	S30.4.1 ~ S31.9.30
加藤 清吉	S30.4.1 ~ S31.9.30
田巻 精二	S30.4.1 ~ S31.9.30
森 俊童	S30.4.1 ~ S31.9.30
佐藤 精一	S30.4.1 ~ S31.9.30
肥田野 文治	S31.10.4 ~ S34.6.29
高沢 敬信	S31.10.4 ~ S37.10.5
増田 大秀	S31.10.4 ~ S37.5.12
川瀬 新太郎	S32.5.20 ~ S34.10.3
栗林 米造	S34.6.30 ~ S41.3.31
梨本 彦一郎	S34.10.30 ~ S38.10.28
戸石 政恕	S37.9.29 ~ S43.10.3
井上 美一郎	S37.10.5 ~ S45.10.3
高沢 哲史	S38.7.9 ~ S48.10.3
石山 平四郎	S38.12.19 ~ S46.12.18
大森 清太郎	S41.4.1 ~ S43.10.3
阿部 修一	S43.10.4 ~ S51.10.3
吉田 久平	S44.3.1 ~ S52.2.28
北条 文雄	S46.6.29 ~ S52.11.30
渡辺 義平	S46.12.24 ~ S54.3.31
宮村 太郎	S50.6.27 ~ S54.6.26
尾谷 新三	S51.12.15 ~ S58.7.27
高橋 恂三郎	S52.3.5 ~ S60.3.4
山口 哲夫	S53.3.3 ~ S54.6.28
高橋 剛	S54.6.29 ~ S62.6.28
佐藤 泰彦	S54.6.28 ~ S62.6.27
本間 不二夫	S54.12.24 ~ S62.12.23

氏 名	期 間
熊倉 竜夫	S58.9.13 ~ S63.12.14
渡辺 秀晃	S61.4.1 ~ H6.3.31
長谷川真智子	S62.6.29 ~ H7.6.28
桂 重房	S62.6.28 ~ H7.6.27
斉藤 斌	S62.12.24 ~ H7.12.23
内山 格	S62.12.15 ~ H8.12.14
鈴木 明夫	H6.4.1 ~ H11.3.31
佐久間明 三	H7.6.29 ~ H15.6.28
中村 弘正	H7.6.29 ~ H15.6.28
樋口 義健	H7.12.24 ~ H11.12.23
桂 宏	H8.12.15 ~ H17.7.6
白井 茂夫	H11.4.1 ~ H15.6.30
増子 哲夫	H11.12.14 ~ H15.12.23
大久保 久	H15.6.29 ~ H19.6.28
大滝 昇	H15.7.1 ~ H22.11.30
関根 信行	H15.7.7 ~ H17.7.6
高山 威彦	H16.4.1 ~ H20.3.31
小泉 茂	H17.7.7 ~ H19.7.6
中野 俊	H17.7.7 ~ H19.6.30
山田 真嗣	H19.7.1 ~ H23.3.31
中村 直美	H19.7.7 ~ H23.7.6
今井 延子	H19.6.29 ~ H23.6.28
岸本 正智	H20.4.1 ~ H24.3.31
塚野 純一	H22.12.27 ~ H25.2.28
鈴木 佳秀	H23.4.1 ~ H27.3.31
籠島 由美子	H23.7.7 ~ H27.7.6
外山 陽子	H23.6.29 ~ H29.3.31
大山 康一	H25.3.8 ~ H27.3.31
小池 庸子	H29.4.1 ~ R2.3.31
桑原 ヒサ子	H27.4.1 ~ R4.3.31
関川 直	H24.4.1 ~
笠原 恭子	H27.7.7 ~
村川 孝子	R2.4.1 ~
山崎 由紀	R4.4.1 ~

歴代教育委員長

氏名	期間
原 清 七	S27.11. 1 ～ S29.11.14
高 橋 規 策	S29.11.15 ～ S30. 4.17
吉 田 重 男	S30. 4.18 ～ S31.10. 3
関 久	S31.10. 4 ～ S37.10. 4
梨本 彦一郎	S37.10.16 ～ S38.10.28
戸 石 政 恕	S38.11.11 ～ S43.10. 3
井上 美一郎	S43.10. 7 ～ S45.10. 3
吉 田 久 平	S45.10. 9 ～ S46.10. 8
	S48.10. 4 ～ S50.10. 3
高 沢 哲 史	S46.10.11 ～ S48.10. 3
北 条 文 雄	S50.10. 4 ～ S52.11.16
高橋 恂三郎	S52.11.17 ～ S54. 3.21
尾 谷 新 三	S54. 3.22 ～ S58. 7.27
佐 藤 泰 彦	S58. 8.10 ～ S62. 6.27
本間 不二夫	S62. 6.28 ～ S62.12.23
斉 藤 斌	S62.12.28 ～ H 7.12.23
中 村 弘 正	H 7.12.26 ～ H15. 6.28
大 久 保 久	H15. 6.29 ～ H19. 6.28
山 田 真 嗣	H19. 7.11 ～ H22.12.16
岸 本 正 智	H22.12.17 ～ H24. 3.31
関 川 直	H24. 4. 6 ～ H27. 3.31

歴代教育長

氏名	期間
酒 井 環	S27.11. 1 ～ S31. 9.30
肥田野 文治	S31.10. 4 ～ S34. 6.29
栗 林 米 造	S34. 6.30 ～ S41. 3.31
石山 平四郎	S41. 4. 1 ～ S46.12.18
吉 田 久 平	S47. 1. 1 ～ S47. 7.31
渡 辺 義 平	S47. 8. 1 ～ S54. 3.31
高橋 恂三郎	S54. 4. 1 ～ S60. 3. 4
本間 不二夫	S60. 4. 1 ～ S62. 3.31
渡 辺 秀 晃	S62. 4. 1 ～ H 6. 3.31
鈴 木 明 夫	H 6. 4. 2 ～ H11. 3.31
白 井 茂 夫	H11. 4. 1 ～ H15. 6.30
大 滝 昇	H15. 7. 1 ～ H22.11.30
塚 野 純 一	H22.12.27 ～ H25. 2.28
大 山 康 一	H25. 3. 8 ～ H27. 3.31

新教育委員会制度（平成27年4月改正）施行後

氏名	期間
大 山 康 一	H27. 4. 1 ～ H30. 3.31
山 田 亮 一	H30. 4. 1 ～ H30.10.17
工藤 ひとし	H31. 4. 1 ～

2 各種委員

(1) 新発田市同和教育推進協議会委員

(任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

選出区分	氏名	備考
第1号委員 (学識経験者)	小池 庸子	
	小柳 龍史	
	高橋 加代子	
	大川原さとみ	
	小野澤 珠子	
	渡辺 睦夫	
	井畑 悦子	
	本間 栄一	
第2号委員 (小中学校長・高等学校長)	天井 弘	住吉小学校長
	関川 紀博	七葉小学校長
	廣田 徳昭	猿橋中学校長
	新井 達夫	七葉中学校長
	相澤 祐助	御免町小学校長(小学校長会長)
	萩野 喜弘	第一中学校長(中学校長会長)
	灰野 正宏	新発田高等学校長
第3号委員 (社会教育関係団体役員)	井上 ヤヨイ	新発田女性会議
	板垣 雄平	小・中学校PTA連合会
第4号委員 (行政関係職員)	渡邊 正裕	人権啓発課長
	中野 隆一	学校教育課長

(2) 新発田市いじめ防止対策等に関する委員会委員

(任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

氏名	専門分野	備考
中川 雅博	法律	弁護士
有田 正知	精神保健	医師
森本 成彦	社会福祉	新潟県新発田地域振興局健康福祉環境部 児童・障害者相談センター所長
猪俣 博英	教育	元・中学校校長
寺野 徹	社会福祉	新発田市社会福祉協議会事務局長
古田 潤子	青少年健全育成	新発田市青少年健全育成センター所長

(3) 新発田市文化財調査審議会委員

(任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日)

	氏 名	専 門 分 野	備 考
学 識 経 験 者	伊 藤 喜 行	歴史	新発田郷土研究会会員
	時 田 一 雄	建造物	元短期大学校教授
	大 沼 長 榮	歴史・古文書	新発田古文書解読研修会会員
	松 川 滋 子	美術・工芸	工芸作家
	若 林 泰 子	美術	下越美術会会員
	鈴 木 耕 一	歴史・古文書	紫雲寺古文書に親しむ会会長
	鈴 木 秋 彦	民族・歴史	新発田郷土研究会理事

(4) 新発田市立図書館協議会委員

(任期：令和5年7月1日～令和7年6月30日)

選 出 区 分	氏 名	備 考
学 校 教 育 関 係	清 水 謙 一	川東中学校長
	齋 藤 博 敏	佐々木小学校長
社 会 教 育 関 係	加 藤 康 雄	社会教育委員
	芦 田 隆	公民館運営審議会委員
家庭教育の向上に 資する活動を行う者	中 野 佐代子	加治川読書クラブ
	田 中 三枝子	おはなしのとびら代表
学 識 経 験 者	高 澤 健 爾	新発田商工会議所専務理事
	富 川 尚	敬和学園大学教授
	伊 藤 美江子	新発田市立図書館利用者友の会
	前 田 恵 子	新発田古文書解読研修会幹事長

(5) 新発田市社会教育委員

(任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日)

氏 名	法 区 分	備 考
岡 崎 功 一	学校教育関係者	新発田市小学校長会
田 原 成 久	学校教育関係者	新発田市中学校長会
桐 生 正 栄	社会教育関係者	新発田市子ども会連合会
渡 邊 定 雄	社会教育関係者	青少年育成等
大久保 美 幸	家庭教育	新発田国際交流委員会かけはし
加 藤 康 雄	学識経験者	前新潟県社会教育委員
富 川 尚	学識経験者	敬和学園大学（人文学部教授）
森 文 雄	学識経験者	大学非常勤講師
清 野 敏 子	学識経験者	民生委員
金井 ふみ子	学識経験者	元高校教諭

(6) 新発田市公民館運営審議会委員

(令和5年6月1日～令和7年5月31日)

選出区分	氏名	備考
学校教育関係者	金 平 弘之郎	米子小学校長
社会教育関係者	木 滑 二十子	籐細工クラブ代表
	中 村 明	高齢者大学参加者
	小 林 信 一	版画同好会「版志会」代表
	岩 崎 三 希 子	ひばりの会代表
	齋 藤 や よ い	己書講座講師
	三 宮 広 大	ギター講座講師
学識経験者	兼 田 隆	新発田市スポーツ少年団 加治川硬式テニス代表
	芦 田 隆	元紫雲寺地区公民館長
	近 忠 浩	学校・地域コーディネーター

(7) 新発田市民文化会館運営審議会委員

(令和4年4月1日～令和6年3月31日)

選出区分	氏名	備考
文化団体の代表者	五十嵐 ミネ	豊浦地区文化団体
	増 田 千穂子	紫雲寺地区文化団体
社会教育関係団体の代表者	井 上 隆	ミュージックファンクラブ
	小 島 慎 二	新発田ジャズ倶楽部
	石 川 美佐子	新発田市合唱連盟
	能 仲 咲 子	ファイア・オ・カフラしばた教室
	渡 辺 千 鶴	スタジオ・ブルー
知識経験を有する者	田 原 成 久	佐々木中学校長
	関 川 紀 博	七葉小学校長
関係行政機関の職員	五十嵐 富士雄	新発田地域広域事務組合

(8) 新発田市青少年問題協議会委員

(令和5年度)

選出区分	氏名	備考
会長（市長）	二階堂 馨	新発田市長
1号委員（副市長）	伊藤 純一	新発田市副市長
2号委員（教育長）	工藤 ひとし	新発田市教育長
3号委員（関係行政機関の長）4名	渡辺 寿智	新発田警察署長
	千野 昌広	新発田地域振興局健康福祉環境部長
	中山 仁	新潟地方法務局新発田支局長
	森本 成彦	新発田児童相談所長
4号委員（学識経験者）10名	渡辺 昭彦	西新発田高等学校長（高等学校長会）
	森谷 優子	新発田市立東中学校長（中学校長会）
	角 直浩	新発田市立豊浦小学校長（小学校長会）
	小出 隆一	新発田青少年健全育成市民会議会長
	寺野 徹	新発田市自治会連合会副会長
	小野 洋	新発田市小・中学校PTA連合会理事
	今井 眞津子	新発田市少年補導委員会副会長
	大倉 眞弓	新発田市民生委員児童委員連合会長
	大波 朝治	豊浦地区青少年健全育成協議会長
	大和 里子	紫雲寺地区青少年健全育成協議会運営委員

(9) 新発田市青少年健全育成センター運営審議会委員

(令和5年度)

選出区分	氏名	備考
1号委員（関係行政機関の職員）2名	高橋 俊充	新発田警察署生活安全課長
	相馬 幸恵	新発田地域振興局健康福祉環境部副部長
2号委員（関係団体の役員）5名	小島 大輝	新発田青年会議所副理事長
	五十嵐 一規	新発田市小・中学校PTA連合会理事
	小出 隆一	新発田青少年健全育成市民会議会長
	今井 眞津子	新発田市少年補導委員会副会長
	櫻井 賢七	新発田地区交通安全協会会長
3号委員（学識経験者）3名	小山 政好	新発田市自治会連合会理事
	菅 チエ	紫雲寺地区青少年健全育成協議会運営委員
	大川原さとみ	しばた虹っ子クラブ会長
4号委員（小中学校・高等学校の校長 または教頭）2名	堀田 正秀	加治川中学校長
	渡辺 昭彦	新潟県西新発田高等学校長
5号委員（児童民生委員）2名	中村 忍	新発田市民生委員児童委員連合会理事
	籠島 道子	新発田市民生委員児童委員連合会児童部長
6号委員（社会福祉協議会の役員）	田中 利光	新発田市社会福祉協議会副会長

(10) 新発田市少年補導委員会委員

(令和5年度)

	氏 名	備 考		氏 名	備 考
1	今 井 眞 津 子		21	石 栗 英 敏	東小
2	坂 田 キ ミ		22	金 子 純 一	住吉小
3	熊 谷 千 恵 子		23	神 田 章	東豊小
4	桐 生 正 栄		24	山 崎 功 一	本丸中
5	山 口 幸 雄		25	高 柳 竜 司	第一中
6	田 代 隆 子		26	市 橋 伸	猿橋中
7	三 部 武 三		27	羽 田 令 子	東中
8	渡 邊 悟		28	加 藤 育 志	豊浦中
9	中 山 真由美		29	五 十 嵐 良 亨	紫雲寺中
10	藤 間 淑 則		30	鬼 嶋 一 成	加治川中
11	齋 藤 富美子		31	遠 山 齊	新発田高
12	福 島 清 行		32	山 井 裕 樹	西新発田高
13	清 野 敏 子		33	阿 部 竹 靖	新発田南高
14	矢 川 安 子		34	袖 山 雅 雄	新発田農高
15	池 戸 理		35	伊 藤 学	新発田商高
16	小 林 真由美		36	内 山 亮	新発田中央高
17	山 野 邊 美 毅	外ヶ輪小	37		
18	高 橋 奈々絵	猿橋小	38		
19	石 山 智 夫	御免町小	39		
20	岸 透 矢	二葉小	40		

3 学校教育関係団体一覧

団体名	代表者氏名	事務局	
		所在地	幹事氏名
新発田市小学校長会	相澤 祐助	外ヶ輪小学校	小野沢 謙一
		猿橋小学校	磯部 裕之
		二葉小学校	近藤 幸栄
		東小学校	小坂井 博
		川東小学校	岡崎 功一
		東豊小学校	飯塚 進
		佐々木小学校	齋藤 博敏
新発田市中学校長会	萩野 喜弘	紫雲寺中学校	五十嵐めぐみ
新発田市小学校教頭会	白井 政之	猿橋小学校	太田 裕樹
		東豊小学校	佐野 亮太
新発田市中学校教頭会	藤原 明	本丸中学校	清野 正康
		東中学校	小野 俊巳
新発田市立学校教育研究協議会	磯部 裕之	猿橋小学校	金子 康太郎
新発田市立幼稚園教育研究会	加藤 直美	御免町幼稚園	加藤 直美
新発田市小学校教育研究会	小野沢 謙一	外ヶ輪小学校	伊藤 孝希
新発田市中学校教育研究会	廣田 徳昭	猿橋中学校	長谷川 直紀
新発田市小学校体育連盟	飯塚 進	東豊小学校	姉崎 謙
新発田市中学校体育連盟	萩野 喜弘	本丸中学校	塩原 史典
新発田地区小中学校警察等連絡協議会	森谷 優子	東中学校	羽田 令子
新発田市小学校図書館協議会	齋藤 博敏	佐々木小学校	畠山 千春
新発田市中学校図書館協議会	清水 謙一	川東中学校	片山 真美
三市北蒲原郡特別支援教育推進地区協議会	工藤 ひとし	市教委事務局	今野 由紀子
新発田市特別支援教育推進委員会	工藤 ひとし	市教委事務局	今野 由紀子
学校保健会新発田支部	灰野 正宏	市教委事務局	中野 隆一
新発田市学校給食運営協議会	山田 耕世	市教委事務局	笹木 美智子
三市北蒲原郡地区理科教育センター	阿部 英幸	生涯学習センター	高橋 弘幸
新発田教科書センター	中野 隆一	市教委事務局	高山 雄一
新発田市小・中学校PTA連合会	井澤 翔太	東小学校	渡邊 正樹
新発田市教育支援委員会	工藤 ひとし	市教委事務局	今野 由紀子
新発田市同和教育推進協議会	小池 庸子	市教委事務局	江端 美穂

4 市立教育施設一覧

幼稚園

(令和5年5月1日現在)

学番	学校名	所在地	電話番号	学級数	園長氏名	副園長氏名
1	ごめんまち 御免町幼稚園	大栄町4-5-17	22-4536	3	加藤 直美	—

小学校

(令和5年5月1日現在)

学番	学校名	所在地	電話番号	学級数	校長氏名	教頭氏名
1	とがわ 外ヶ輪小学校	中央町5-8-9	22-2549	16	小野沢 謙一	伊藤 孝希
2	さるはし 猿橋小学校	中曽根町3-8-29	22-2123	28	磯部 裕之	金子 康太郎 太田 裕樹
3	ごめんまち 御免町小学校	大栄町4-5-33	22-2216	25	相澤 祐助	片野 一輝
4	ふたば 二葉小学校	中田町3-6-1	22-2164	17	近藤 幸栄	齋藤 忍
5	ひがし 東小学校	五十公野4862	22-3641	19	小坂井 博	渡邊 正樹
6	かわひがし 川東小学校	下羽津1938	25-2009	9	岡崎 功一	徳富 大吾
7	ななは 七葉小学校	黒岩66	29-3305	15	関川 紀博	脇川 恭子
8	ささき 佐々木小学校	則清856	27-2011	8	齋藤 博敏	相澤 勇弥
9	すみよし 住吉小学校	住吉町3-6-22	24-1148	27	天井 弘	臼井 政之
10	とうほう 東豊小学校	東新町4-10-8	23-5075	24	飯塚 進	佐野 亮太
11	とようら 豊浦小学校	大伝465-2	22-2034	16	角 直浩	廣澤 正文
12	しうんじ 紫雲寺小学校	稲荷岡2389	41-2022	9	濱田 浩昭	小栗 玲
13	よねこ 米子小学校	真野原外1773	41-2036	8	金平 弘之郎	上村 進一
14	ふじつか 藤塚小学校	藤塚浜4063-3	41-2073	8	山田 耕世	五十嵐 敦志
15	かじかわ 加治川小学校	上今泉366-1	33-2435	14	丸山 久志	佐藤 香織

中 学 校

(令和5年5月1日現在)

学番	学校名	所在地	電話番号	学級数	校長氏名	教頭氏名
1	ほんまる 本丸中学校	緑町2-7-22	22-2525	19	三 浦 学	清 野 正 康
2	だいいち 第一中学校	御幸町4-5-25	23-1151	13	萩 野 喜 弘	丹 羽 徹
3	さるはし 猿橋中学校	住吉町1-7-1	23-1175	27	廣 田 徳 昭	長谷川 直紀
4	ひがし 東 中学校	五十公野4981	22-3824	10	森 谷 優 子	小 野 俊 巳
5	かわひがし 川東中学校	下羽津1566-1	25-2011	5	清 水 謙 一	金 谷 良 弓
6	ななは 七葉中学校	上館乙84-2	22-3524	7	新 井 達 夫	中 野 貴 広
7	ささき 佐々木中学校	則清102	27-2505	4	田 原 成 久	山 田 絵 美 子
8	とようら 豊浦中学校	乙次50	24-4492	8	小 嶋 修	山 本 亘
9	しうんじ 紫雲寺中学校	真野原外3499	41-4000	8	五十嵐めぐみ	小 出 祐 一
10	かじかわ 加治川中学校	川口330	33-2214	8	堀 田 正 秀	藤 原 明



御免町幼稚園

住 所 新発田市大栄町4丁目5番17号

TEL 0254-22-4536

FAX 0254-22-4937

1 園の概要

(1) 創立 昭和42年4月1日

(2) 教職員



園長 加藤 直美

教諭	5	養護教諭		事務職員	1
講師		学習補助員			
介助員	2	用務手	1		
預かり	1				

(3) 学級編制

学年	未満児	3歳児	4歳児	5歳児	計
学級数		1	1	1	3
男		3	3	3	9
女		2	2	6	10
計	0	5	5	9	19

2 地域の概要

- 市街地に近く、住宅地に立地している。御免町小学校に隣接しており小学校の取組を目にすることができる環境にある。
- 南公園にも近く、散歩に行き四季折々の変化を感じながら十分に身体を動かしたり、地域住民と挨拶を交わしながら関わったりしている。
- 園児数が減少しているが、保護者や地域住民は幼稚園教育に関心が高く協力的である。

3 教育目標

- みんなと仲良く遊び、
自分の力を伸ばしていく子ども

4 園の課題（伸ばしたいところ）

- 人とのかかわる力の育成
 - ・身近な人と気持ちのよい挨拶をする。
 - ・保育者や友達と一緒に好きな遊びに十分取り組む。
 - ・一人一人のよさを発揮し、互いのよさに気づき、認め合う。
 - ・遊びや活動の中で、感動や思い、考えたことを自分なりに表現する。
 - ・思いを伝え合ったり受け入れたりしながら、友達と協同して遊ぶ。

5 園の経営方針

- 職員の基本姿勢
 - ・職員一人一人が主体的、創造的に園務遂行に当たる。和と協力を大切にし、協同の力が発揮できるように努める。
 - ・教師は進んで研修に参加し、専門性の向上に努める。
 - ・一人一人の幼児に対する理解を深める。幼児との信頼関係を築き、心の安定を図るように努める。
- 豊かな人間性や社会性の基礎を育む
 - ・幼児期にふさわしい教育を行う
 - ・遊びを通して総合的な指導を行う教育
 - ・幼児期の特性を踏まえ環境を通して行う教育
 - ・幼児の興味関心に基づいた直接的な体験が得られる教育

6 年度の重点目標

- 自分で考え、工夫する子ども
- 豊かな心で、友達と仲良く遊ぶ子ども
- 体が丈夫で、最後までがんばる子ども

7 年度の努力事項

- 環境構成の工夫
- 仲間関係の育成
- 学年・学級経営の工夫
- 家庭・地域との連携

8 研修・研究

- (1) 研究主題
人と関わる力の育成
～ 一人一人のよさを発揮しながら友達と協同して遊ぶための活動の在り方を探る ～
- (2) 研究内容
 - 3歳児：
保育者と関わりながら楽しさや友達のよさを伝える言葉を知り、使えるようになるための活動の在り方を探る。
 - 4歳児：
2～3人の遊びの中で自分のがんばったことや友達のよさを言葉で伝えられるようになるための活動の在り方を探る。
 - 5歳児：
友達と思いを出し合いながらよさを認め、折り合いを付けて遊びを進められるようになるための活動の在り方を探る。



外ヶ輪小学校

住 所 新発田市中央町5丁目8番9号
 TEL 0254-22-2549
 FAX 0254-23-7203
 URL <http://togawa.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 明治25年10月7日

(2) 教職員



校長 小野沢 謙一



教頭 伊藤 孝希

教諭	17	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	1		
介助員	7	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	2	2	2	2	4	16
男	27	27	17	32	24	33	19	179
女	23	26	19	24	22	36	8	158
計	50	53	36	56	46	69	27	337

2 地域の概要

- 学区は新発田市の中心部に位置し、市役所をはじめ、警察署、市民文化会館、市立歴史図書館、生涯学習センター等の公共施設が集中している。
- 地域住民は、教育活動への理解が深く、協力的である。新発田まつりパレードや木遣り等を熱心に子どもたちに指導してくれている。
- 文化祭では、地域の方々が講師となり様々な講座を開き、子どもたちが参加している。

3 教育目標

ともに伸びゆく
 ～ かかわる つづける ふりかえる ～

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

<外ヶ輪つ子に育てたい資質・能力4つのキーワード>

【主体性】

- ・ねばり強く挑戦し続ける主体性や主体的に判断し行動する力

【学び合う力】

- ・認め合い、高め合うコミュニケーション能力

【問題解決力】

- ・自ら課題を見だし、見通しをもって主体的に解決しようとする問題発見・解決力

【活用力】

- ・学んだことを生かし、よりよいものを求める活用力

5 学校の経営方針

- 笑顔あふれる 楽しい学校 魅力ある学校
 ～保護者・地域との連携・協働による学校づくり～

<基本姿勢>

- ① 「教育は人なり」。人を大切にする。人の思いを大切にする。
- ② 「傾聴と共感」の姿勢を持ち続ける。
- ③ 自己有用感を高め、やる気と自信、夢をはぐくむ。

<目指す子どもの姿>

- 「自分が好き、友達が好き、学校が好き、地域が好き」と言える子ども

6 年度の重点目標

- (1) 主体的に学び、かかわり合う中で、考えを深める子
 - ・タブレット端末の活用などの実践研究の推進
 - ・新学習指導要領に即した授業改善の推進
 - ・児童の実態に合わせたテスト、診断問題などの活用
 - ・情報活用能力の基礎となる読解力の育成
- (2) よいことを習慣とし、気持ちを伝え合い、互いのよさに気が付く子
 - ・児童主体のあいさつ運動の推進
 - ・活動を通じた自己有用感や人間関係の育成
 - ・社会性やよい習慣を身に付けた子どもの育成
 - ・困り感を抱えた子どもの早期発見と即時対応によるいじめの起きにくい学校づくりの推進
- (3) 仲間と一緒に、ねばり強く運動し、元気に生活する子
 - ・運動に向かう意欲の向上
 - ・体力向上のためあてや振り返りの場の設定
 - ・よい生活習慣が身に付くための家庭への働き掛け

7 年度の努力事項

- (1) 教育課題の明確化、学校評価の着実な実施
- (2) 新学習指導要領全面実施に伴う新教育課程の実施・評価・改善の取組
- (3) いじめ、不登校の未然防止
- (4) 校内教育相談体制の強化
- (5) 地域学校協働本部事業の推進
- (6) 働き方の見直し、業務改善
- (7) 安全・防災教育の推進
- (8) 感染症拡大防止の取組

8 研修・研究

- (1) 研究主題

主題：主体的に学び かかわり合う中で 考えを深める子

副題：各教科における深い学びを目指した対話的活動の工夫
- (2) 研究内容
 - ① 主体的にかかわるための課題設定の有効性の検証
 - ② 対話的な学びを通して、考えを深めるための手だての有効性の検証



猿橋小学校

住 所 新発田市中曾根町3丁目8番29号
TEL 0254-22-2123
FAX 0254-22-5892
URL <http://saruhashi-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 明治7年3月

(2) 教職員



校長 磯部 裕之



教頭 金子 康太郎



教頭 太田 裕樹

教諭	33	養護教諭	1	栄養教諭	2
事務職員	2	講師	3	非常勤講師	2
介助員	13	用務手	1	SSS	1
図書事務	1	給食運搬	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	3	3	3	3	3	3	10	28
男	40	36	41	45	38	59	47	306
女	50	45	55	50	53	42	14	309
計	90	81	96	95	91	101	61	615

2 地域の概要

以前は猿橋村として新発田町の西方に位置していたが、昭和18年町村合併により鴻沼村とともに新発田町に合併となり、その後昭和22年市制施行により新発田市となった。

学区は、新発田市の中央部に位置し、14町内からなっている。新旧混在している地区である。

また、地域の教育に対する関心が高く、期待も大きい。学区には「猿橋中学校区 すこやかな子どもを育てる会」があり、健全育成に関わる様々な活動を行っている。また、平成30年度、学校支援ボランティアを「瑠玖良サポーター」として組織化し、保護者・地域住民の学校教育への参画が一層促進している。

3 教育目標

つながり 高め合い みんなでつくる 瑠玖良校
～ ともに きらきら かがやこう ～

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

【分かる・できるを実感する力】

学んだことや経験したことを振り返り、自分で得た学びを自覚し、自分のものにする子ども

【かかわる力】

積極的にいろいろな人とかかわり、思いや考えを聞いたり、伝え合ったりする子ども

【つくり出す力】

これまでの学びや経験を基に、新たな情報を得たり、他者と協力したりしながら、よりよい考えを形にする子ども

【思いやる力】

他者との違いを認め、相手の気持ちを考えて行動できる子ども

【やり遂げる力】

自ら進んで自分の成長のために目標を決め、目標に向かって最後までやり遂げる子ども

5 学校の経営方針

教育目標に込めた願い

【つながり とは】 子ども同士のつながりはもとより、子どもたちを取り巻くあらゆるつながりを指す。人とつながることを通して学びを深めたり、思いやりの心を育んだりしていく。

【高め合い とは】 さまざまなかかわりを通して、共に高め合う子どもの姿であり、正に「瑠玖良」という建学の精神、切磋琢磨を意味する。

【みんなでつくる とは】 「みんな」は、子どもたち・保護者・地域住民・教職員など、猿橋小学校に関わる全ての人々を指す。「みんなでつくる みんなの学校」それが新たに目指す「瑠玖良校」である。

【ともに きらきら かがやこう とは】 子どもも、保護者も、地域住民も、教職員もともにきらきらかがやく学校を目指す合言葉である。

6 年度の重点目標

《知育》

- ・他者とかかわり、自分の思いや考えを伝えることができる子どもを育てる。
- ・学んだことを振り返り、身に付けたことを自覚することができる力を育てる。

《徳育》

- ・他者とのつながりを意識し、親切にしたり、思いやったりすることができる子どもを育てる。
- ・友達と仲良く協力し、助け合える集団を育てる。

《体育》

- ・自分でめあてを決め、進んで運動や生活改善に取り組む態度を育てる。
- ・活動を振り返り、身に付けた技能や記録の伸びを実感できる子どもを育てる。

7 年度の努力事項

＜生きて働く学力の定着＞

- ・仲間と対話しながら、自らの学びを実感することができる授業の実施
- ・UDLの視点を生かした学習環境整備と授業づくり及び「授業・学習スタンダード7」に基づいた学習規律の確立
- ・家庭学習の習慣化

＜思いやりの心と社会性の育成＞

- ・つながりマナー（さんづけ、ルールを守る、はいと返事、しずかに聞く）を身に付けさせるための授業や集会活動等の実施
- ・他者のよさや違いを認める合える受容的な人間関係を育成するためのソーシャルスキルトレーニング等の実施
- ・児童の発想や主体性を生かした挨拶習慣化の取組の実施

＜自ら運動や生活改善に取り組む態度の育成＞

- ・体力向上に向けた基礎的な技能の育成と自らの学びを実感できる授業の実施
- ・運動する楽しさや喜びを体感できる場の設定と評価方法の工夫
- ・元気アップ週間や講演会、保健指導を核とした家庭との連携による基本的生活習慣確立のための取組

8 研修・研究

(1) 研究主題

分かる・できるを実感する子ども（2年次）

～仲間と対話しながら、
学びを自覚することができる授業づくり～

(2) 研究内容

- ・仲間との対話をより効果的なものにするための手立て
- ・学びの自覚をより確かなものにするための手立て



御免町小学校

住 所 新発田市大栄町4丁目5番地33号
 TEL 0254-22-2216
 FAX 0254-24-4610
 URL <http://gomenmachi.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 明治6年2月19日

(2) 教職員



校長 相澤 祐助



教頭 片野 一輝

教諭	25	養護教諭	1	事務職員	1
講師	3	助教諭	1	介助員	11
用務手	1	SSS	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	3	3	3	3	3	2	8	25
男	36	38	33	31	35	28	21	222
女	34	43	34	41	40	32	23	247
計	70	81	67	72	75	60	44	469

2 地域の概要

- 学区は新発田市のほぼ中央部に位置し、古くからの地区と新興住宅地が混在している。
- 清水園、足軽長屋、諏訪神社、寺院など、城下町の歴史的な文化遺産を随所にとどめている。新発田まつりの台輪を継承している地区も多い。
- 地域住民は学校教育に関心が高く、協力的である。

3 教育目標

「みんなとともに生き 自分の力をせいっぱい伸ばしていく子ども」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 主体的・意欲的に学ぼうとする態度、身に付けた基礎・基本を活用して課題解決を図るための「考える力」をさらに高めたい。
- 自らの課題に挑戦し、自らの力で乗り越えていく強さ、自分を大切に、他者も思いやれる優しさをさらに育てたい。
- より高い目標に向かって挑戦し、達成感を味わう中で自信を深めさせたい。また、学校生活を楽しむための前向きな生活習慣を定着させたい。
- 子どもたちの心を育てるために、人の思いや生き方を学ばせたい。

5 学校の経営方針

- 教育の根底に流れているものは「愛」。3つの愛を育む。
 - ・ふるさと新発田への愛
 - ・自分自身への愛
 - ・未来への愛
- 児童が安心して学び、生活できる学校づくり。
- 常に子どもたちの心情を汲み取る。
- 人権感覚を磨くことによる温かい学校づくり。
- 素早い情報収集と適切な初期対応。
- 笑顔で個性を発揮する職員集団。
- 教育課題克服のキーワードは『優しく 粘り強く』

6 年度の重点目標

- 学習に主体的・意欲的に挑戦する態度を身に付けさせる（知育）
 - ・考えを述べ合って思考する集団を育成する。
 - ・考えさせることを大切に、容易に剥がれない知識を獲得させる。
- 自他を思いやれる優しい心と未来を切り拓く粘り強さを育てる（徳育）
 - ・互いに認め合い、優しさを発揮し合える集団を育成する。
 - ・『失敗』することを学びの原点とし、その都度きちんと考えさせる。
- 向上心をもち、目標達成に挑戦する気力や体力を育てる（体育）
 - ・楽しく運動に親しむ集団を育成する。
 - ・向上心と挑戦意欲をもち、諦めないで続ける態度を身に付けさせる。

7 年度の努力事項

- 特別支援教育が学校教育の基礎であるという捉えのもと、個の実態をふまえた教育を行う
- 特活的思考方を重視し、本気で特別活動に取り組む
- 「教師が教える授業」から「児童が考える授業」へ
- 相互の考えを認め合いながら学習する集団の育成
- 思考力の向上に結び付く良質な問いの提供
- 言葉による指導だけでなく、「体験」を共有させて学ばせる
- 子どもたちを信じ、「活動」させる中で相互理解させる
- 「失敗」から学ばせながら「振り返り」を丁寧に経験させ、賞賛できるまで繰り返し支援する
- 声を掛け合い楽しみながら運動に取り組む場の提供
- 健康的な生活習慣の定着に向けた全校あげての取組
- 運動を通して達成感を味わわせる場の提供
- 個の生活実態に応じた家庭と協働した取組

8 研修・研究

- (1) 研究主題
自らの学習を調整し、学びを深める子ども
- (2) 研究内容
学習指導要領が目指す資質・能力の1つである「学びに向かう力、人間性等」の「自らの学習を調整しようとする側面」に着目し、授業改善に努める。「各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、自己調整を促す手立て」をどのように工夫すれば、子どもたちが自ら学びを深めることにつながるのかを、実践を通して検証していく。



二葉小学校

住 所 新発田市中田町3丁目6番1号
 TEL 0254-22-2164
 FAX 0254-22-6690
 URL <http://futaba.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和39年4月1日

(2) 教職員



校長 近藤 幸栄



教頭 齋藤 忍

教諭	17	養護教諭	1	事務職員	1
講師	4	補助教員	1	栄養教諭	2
助教諭	0	用務手	1	給食運搬	1
介助員	6				

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	2	2	2	2	5	17
男	26	25	23	29	20	21	19	163
女	22	28	19	24	23	26	15	157
計	48	53	42	53	43	47	34	320

2 地域の概要

二葉小学校は昭和39年に開校した。その後まもなく昭和41年と42年の水害で、地域は大きな被害を受けた。このことから、当校は、現在防災教育に力を入れ、いのちを大切に、いのちを守る教育を重視している。

地形としては、加治川が地域を流れ、広々とした田園と近代的な町並みとを併せもつ地域である。また、保護者をはじめ、祖父母や地域住民の学校に対する関心と期待の高さが感じられる風土である。平成27年度PTA文部科学大臣表彰を受けた。地域と学校で組織する「二葉ネットワーク」も平成29年度に文部科学大臣表彰を受けた。地域と学校が連携・協働して教育活動を推進している。

3 教育目標

たくましく 生きる 二葉っ子

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

【知育】

- ・学力差が大きい。
- ・問題解決的な学習過程を通し、思考力、判断力、表現力を育む。
- ・タブレットの使い方についての研修を定期的 to 実施し、思考ツールなどの有効活用を通して、学力向上を目指す。

【徳育】

- ・「いじめ見逃しゼロ」を目指し、迅速・丁寧な対応を行うとともにかわり合いを通し、社会性の育成を図る。
- ・人間関係づくりが苦手だったり、相手を傷つけてしまう言動をとったりする子がいる。

【体育】

- ・体力テストで全国平均に満たない種目多い。指導方法や教具の活用、場の充実などを通して、体力向上に努める。
- ・好き嫌いの偏りが見られる。

5 学校の経営方針

○目指す学校像

- ・ルールを守られた安心・安全な学校・学級
- ・リレーションあふれる学校・学級
- ・家庭・地域との連携・協働し地域とともに歩む学校

○目指す児童像

- ・お互いを認め合い、自他の生命を尊重できる。
- ・学校（学級）に必要とされている実感をもつ。

○目指す教職員像

- ・子どもを「分かろうとする」教職員
- ・子どもの困りに寄り添い、話を「聴く」教職員
- ・子どもと共に考え、子どもの自己決定を促す教職員
- ・子どものリソースを見つけ、さらに伸ばす教職員
- ・子どもの未来を考え、成長への期待を込めて、適切に、指導する教職員

6 年度の重点目標

◎ ふるさと（新発田）が好きで、夢や希望へ向かって学び続ける子

【知の育ち】主体的に学習に取り組む子

- ・自分の考えをもち、かかわりながら学びを深めるとともに、授業が分かる楽しさを実感する子

【徳の育ち】自他を尊重し大切に子

- ・自他のことを認め、いじめをしない、させない、見逃さない子

【体の育ち】心身の健康管理ができる子

- ・めあてをもち、心身をきたえる子

7 年度の努力事項

- (1) 子どもが安心して学ぶことができる学級経営を行う。
- (2) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図る。
- (3) 社会性の育成に重点を置いた積極的な生徒指導を推進する。
- (4) 目標をもった健やかな体力づくりの充実を図る。
- (5) 特別支援教育の考え方を教育の原点とする。

8 研修・研究

(1) 研究主題

子どもが動き出す授業の創造
 ～主体的に学習に取り組む子を目指して～

(2) 研究内容

①充実した学習プロセス

【目的】「授業が『分かる』楽しさを実感し、主体的に学習に取り組む子」を育む。

【方法】授業力向上訪問での公開授業
 年2回の授業づくり参観
 1人1回の授業公開

②しばたの心継承プロジェクト

【目的】しばたの心継承プロジェクトを中核としたカリキュラム・マネジメントを実現し、郷土への関心や愛着、誇りを育む。

【方法】公開授業1実践
 単元の指導計画の作成
 指導計画に基づいた授業公開（実践発表）

③資質・能力の重点

【目的】重点を置いた資質・能力を育成する。

【方法】各学年・学級による平素の取組
 実践交流会の実施



東小学校

住 所 新発田市五十公野4862番地
T E L 0254-22-3641
F A X 0254-22-8644
U R L <https://higashi-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 平成30年4月1日

(2) 教職員



校長 小坂井 博



教頭 渡邊 正樹

教諭	24	養護教諭	1	事務職員	1
講師		補助教員		栄養教諭	1
介助員	7	用務手	1	学校看護師	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	2	2	2	2	7	19
男	19	23	20	30	29	25	29	175
女	23	23	29	31	29	37	8	180
計	42	46	49	61	58	62	37	355

2 地域の概要

平成30年度に松浦小、五十公野小、米倉小の3校が統合し、誕生した学校である。学区は広大であり、住宅地や農村部、さらには山間地もあるなど、自然豊かな地域である。

地域住民は学校に対して協力的で、家庭と学校が共同して教育活動を行うことができている。令和元年度に東小学校後援会が立ち上がり、物心両面にわたる支援をいただいている。また、通学支援ボランティアから、子どもたちの登下校の見守りを行っていただいている。地域住民の学校に対する期待は大きい。

3 教育目標

ともに伸びる 元気な子ども

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

【知育】

- ・主体的に取り組む態度
- ・筋道を立てて考える力
- ・聞き合い、話し合う力

【徳育】

- ・認め合い、差別を許さない態度
- ・相手を思いやる心
- ・ふさふさい言葉遣い

【体育】

- ・基本的な生活習慣についての理解
- ・体力の保持増進に進んで取り組む態度

5 学校の経営方針

基本方針 「すべては信頼の上にある」

- (1) 学級経営、学校経営の充実を図る
- (2) 校内支援委員会、いじめ不登校対策委員会を機能させた全校体制の取組
- (3) 学習指導の基礎・基本を徹底する
- (4) 地域とともに学校を創る
- (5) 教育者としての自覚と非違行為の根絶
- (6) アレルギー対応 感染症対策

6 年度の重点目標

【知育】

粘り強く考え、読んだり話し合ったりしながら問題解決する子ども

【徳育】

感謝の言葉を伝え、認め合い、自他を大切にする子ども

【体育】

進んで運動を行う習慣や基本的な生活習慣を身に付け、健康的な生活をする子ども

7 年度の努力事項

【知育】

- ・基本学習タイムでの基礎基本の習熟と徹底
- ・東小スタンダードに基づく、深い学びの評価基準を明確にした授業実践
- ・聞き方・話し方の指導と話し合い場面の工夫

【徳育】

- ・通年のあいさつ運動と「さん付け呼称」の運動
- ・人権教育、同和教育の視点に立った道徳授業の充実
- ・いじめや不登校、問題行動等の早期発見と即時対応

【体育】

- ・手洗い、歯磨き、食事、睡眠の適切な指導
- ・保護者と連携した基本的な生活習慣定着に向けた取組
- ・体力向上プログラムの見直し、体育授業の充実

8 研修・研究

(1) 研究主題

考えを形成し、考えを広げていく子どもを目指して

～国語科「読むこと」領域において(1年次)～

(2) 研究内容

- ①「読むこと」領域の各学習過程を単元指導計画に位置付けた後、本時を構想する。
- ②目指す子どもの姿と評価基準を明確にする(指導案で)。
- ③自校化した授業スタンダード(東小授業スタンダード)を実践する。…日々の授業で



川東小学校

住 所 新発田市下羽津 1 9 3 8 番地
T E L 0 2 5 4 - 2 5 - 2 0 0 9
F A X 0 2 5 4 - 2 5 - 2 9 1 1
U R L <http://kawahigashi-e.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 平成 2 6 年 4 月 1 日

(2) 教職員



校長 岡崎 功一



教頭 徳富 大吾

教諭	10	養護教諭	1	栄養教諭	1
事務職員	1	講師	2	介助員	1
用務手	1				

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	1	1	2	2	9
男	10	10	15	13	12	21	2	83
女	11	9	14	12	10	16	3	75
計	21	19	29	25	22	37	5	158

2 地域の概要

当校は、新発田駅から南東へ約5.9km、二王子岳を東に望み、加治川の清流の恵を受けた田園地帯にある。地域には、「教育村川東」の伝統が引き継がれており、教育に関心が高く、学校に対して協力的である。

3 教育目標

「かしこく やさしく たくましく」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- (1) 基礎学力の定着
- (2) 社会的・職業的自立の基礎的能力や態度
- (3) 自己有用感や人間関係を築く能力
- (4) よりよい集団づくりのための社会性の育成
- (5) 健康的な基本的生活習慣の定着

5 学校の経営方針

ふるさとを愛し 夢や目標をもち
進んで学び合う子ども

ふるさとを愛し【あい】
人と仲よくかわり【ひと】
自分をみつめ【じぶん】
自分らしく生き【いきる】
未来を切り拓く子【みらい】

<学びの合言葉>
「夢や目標」に向かって
チャンス・チャレンジ・チェンジ
<生活の合言葉>
いじめ・差別をしない、許さない
やさしい川東っ子

6 年度の重点目標

<まなびの重点目標>
進んで学び合い、確かな学力を身に付ける子ども
○学校生活アンケートで「国語や算数の学習が分かる」と答える児童を70%以上にする。
○学校生活アンケートで「関わり合いを通して、自分の考えが広がったり、深まったりした」と答える児童を70%以上にする。
<こころの重点目標>
いじめ・差別をしない、許さないやさしい子ども
○学校生活アンケートで「友達のよさががんばりを認め合っている」と答える児童を80%以上にする。
○学校生活アンケートで「進んであいさつをしたり返したりできる」と答える児童を80%以上にする。
<からだの重点目標>
進んで運動し、健康的に生活する子ども
○学校生活アンケートで「運動に関するめあてを達成しようとした」と答える児童を85%以上にする。
○メディアコントロールワークでメディア使用の目標時間を達成した児童を80%以上にする。

7 年度の努力事項

進んで学び合い、確かな学力を身に付ける子ども
○学んだことを説明できるようにする学習指導
○意欲を高めて自ら学ぼうとする学習習慣の定着

いじめ・差別をしない、許さないやさしい子ども
○ルールとリレーション（人間関係）指導と教育相談の充実
○人間関係形成能力を高める活動

進んで運動し、健康的に生活する子ども
○体力実態に基づいた体力向上の取組
○健康に生活するための好ましい生活習慣の定着

8 研修・研究

- (1) 研究主題
関わり合いを通して学びを深める子どもの育成
- (2) 研究内容
◎関わり合いをもとに学びを深める授業づくり研修の実施
・新発田市授業スタンダードを意識した授業研究
・ICT機器を用いた授業づくり等に関する研修
・NRTの分析と補充指導
・その他伝達講習など



七葉小学校

住 所 新発田市黒岩 6 6 番地
T E L 0 2 5 4 - 2 9 - 3 3 0 5
F A X 0 2 5 4 - 3 1 - 2 0 1 2
U R L <http://nanaha-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和 4 5 年 4 月 1 日

(2) 教職員



校長 関川 紀博



教頭 脇川 恭子

教諭	15	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	1	助教諭	1
介助員	5	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	2	2	2	1	2	5	15
男	18	23	18	19	13	21	25	137
女	12	18	23	18	16	15	3	105
計	30	41	41	37	29	36	28	242

2 地域の概要

- 学区は櫛型山脈西側に広がる水田地帯にある。加治川地域に隣接しながら、二王子岳山麓まで広がる。令和 3 年度に旧菅谷小学校と統合し、学区がより広範囲となり、北西は胎内市に隣接する。
- 国道 7 号線沿いの新興住宅地域と旧集落の水田地帯に分けられる。新興住宅地の児童数が全体の 7 割を占めている。

3 教育目標

自分を高め
みんなとともに
生きる子ども

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 学ぶ意欲を持ち、ともに学び合い、思考力、判断力、表現力を伸ばす。
- 自分や友達のよさに気づき、共感的な人間関係を築く。
- 進んで運動し、体力の向上や心身の健康づくりに取り組む。

5 学校の経営方針

笑顔あふれる七葉

- 人権教育、同和教育を中核に据えた教育活動＜教育活動を行う上での 3 つの視点＞
 - ・ 自他の大切さを認め合う態度・行動
 - ・ 相手を尊重する態度
 - ・ 自分自身の言動を問い続ける感性
- 「七葉愛！」愛情をもって児童へ、保護者へ、地域へ、同僚へ接する。
- 「認め合い」「学び合い」「鍛え合い」3 つの「合い」で愛情と信頼を基に、誇りと自信、謙虚な心で七葉小学校の子どもの教育に携わる。
- 子どもを尊敬し、子どもの全部を受け止めていく。傾聴し、自己決定を促し、支援することで、自己肯定感の向上を目指していく。

6 年度の重点目標

- 【知】ともに学び合い、確かな学力を身に付ける子ども
 - 確かな学力の向上
 - ・ 対話から考えを深める・広める。
 - ・ 学習したことが分かる・できる・使える
- 【徳】あたたかな人間関係を築ける子ども
 - 豊かな人間性と社会性の育成
 - ・ 気持ちのよいあいさつができる。
 - ・ 自他を大切にしたい態度・言動ができる。
- 【体】すすんで運動し、健康的に生活する子ども
 - たくましく生きる体力の向上
 - ・ 自分の健康を考えて生活できる。
 - ・ めあてに向かって運動を楽しむ。

7 年度の努力事項

- (1) 教育の源は愛情
- (2) チーム七葉
教職員みんなで声を出し、情報を共有しよう。
- (3) すべての教育活動の土台となる人権教育・同和教育
子どもたちに寄り添い、あたたかい学級、学校の風土を培っていく。
- (4) 特別支援教育の充実と特別支援教育の目
子どもの困り感に寄り添い、子どもの声、保護者の声を聞き、特別支援教育の目で教育にあたる。
- (5) 地域との連携・協働
地域の人、もの、ことを活用した授業実践を行い、連携・協働を進め、地域学校協働体制を構築していく。
- (6) ICTを活用した授業
オンライン授業を見通しながら、子どもたちや教師のスキルの向上を目指す。

8 研修・研究

- (1) 研究主題
対話を通し、自分を、みんなを大切にして、共に伸びようとする子どもの育成
～自分や他者と向き合い、
互いを尊重し合う態度と実践力を育てる～
- (2) 研究内容
 - ① 人権教育、同和教育の視点に立った教育活動の取組
 - ② 6 年間を見通した人権学習「きずな」の授業実践
 - ③ 家庭・地域と連携するための取組



佐々木小学校

住 所 新発田市則清856番地
TEL 0254-27-2011
FAX 0254-27-2275
URL <http://sasaki-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 明治35年7月10日

(2) 教職員



校長 齋藤 博敏



教頭 相澤 勇弥

教諭	9	養護教諭	1	事務職員	1
講師	0	補助教員	0		
介助員	2	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
男	10	14	15	8	9	13	7	76
女	5	7	10	5	12	9	2	50
計	15	21	25	13	21	22	9	126

2 地域の概要

- 学区は、新発田市の西部に位置し、新発田市街、聖籠町、新潟市北区に近接している。18区約1,200世帯からなっている。
- 当地区は、稲作を中心とする田園が広がっているが、旧国道7号周辺には西部工業団地があり、工場も多い。
- 共働きの家庭が多いが、保護者及び地域住民は学校教育に対して理解があり、協力的である。

3 教育目標

- 自分で深く考える子
- 思いやりをもって助け合う子
- がんばってやりとげる子

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 学力・学習意欲の向上
- 思いやりの心の育成
- 体力・健康の向上
- 特別な支援が必要な児童へのケア

5 学校の経営方針

「一人一人が輝き、幸せな学校」

子どもたちは、個性的で、それぞれ違ったよさをもったかけがえない存在である。一人一人のよさを発揮し、学習意欲と知的好奇心に支えられた学びを子どもたち自らが学習を展開できるようにしたい。子どもたち一人一人の個性が輝き、安全に安心して過ごすことができる幸せな学校づくりを推進していく。

輝き、幸せを感じてほしいのは子どもたちだけではない。子どもたちの成長を支える職員も輝き、幸せな学校にしたい。子どもが輝き、幸せを感じる学校は、職員が輝き、幸せを感じてこそ生まれるものである。教師だけでなく、様々な職種の職員が、それぞれの立場で、子どもたちのために何ができるのかを考え、その実現に向けて生き生きと職務に専念する学校を目指す。

6 年度の重点目標

【知育】

- (1) 学習が分かる、できる喜びを実感できる子
- (2) 進んで家庭学習に取り組む子

【徳育】

- (1) しっかりとあいさつや返事をする子
- (2) お互いを認め合い、協力し合う子

【体育】

- (1) 運動を楽しみ、進んで運動する子
- (2) 自分で決めた量を残さず食べる子

7 年度の努力事項

- (1) 周囲とかかわり合いながら、自ら学び、考えを深める子どもの育成
- (2) 積極的なICT機器の活用による個別最適な学びの充実
- (3) 基本的な生活習慣（あいさつ・返事）の定着
- (4) 人間関係づくりの推進（学級・たてわり班）
- (5) 「できた・楽しい」を実感させる体育学習の展開
- (6) 健康的な生活習慣の定着
- (7) 地域人材の積極的な活用及び各種地域機関との連携によるふるさとへの愛着の心の育成
- (8) 発達段階に応じた食のサイクルに基づいた食育の実践による生きる力の育成
- (9) 人権感覚を高める「人権教育、同和教育」の推進
- (10) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

8 研修・研究

(1) 研究主題

- 自己の考えの変容、深まりを自覚し、主体的に学ぶ子どもの育成

(2) 研究内容

- にいがた学びチャレンジを活用し、「対話」と「振り返り」とがにつながる深い学びを目指す。
 - ① 対話による子どもの変容を促すとともに、見方・考え方を働かせられる授業を目指す。
 - ② より深い学びを実現するために、授業後の振り返りの内容を明確に想定し、ゴールから逆算する構想で授業を組み立てる。



住吉小学校

住 所 新発田市住吉町3丁目6番22号
 TEL 0254-24-1148
 FAX 0254-23-3993
 URL <http://sumiyoshi.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和53年4月1日

(2) 教職員



校長 天井 弘



教頭 白井 政之

主幹教諭	1	教諭	35	養護教諭	1
事務職員	1	講師・助教諭	6	補助教員	1
介助員	9	用務手	1	SSS	1
地域C.O.	1	図書館事務	1	給食運搬	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	3	3	3	3	4	3	8	27
男	45	45	40	38	50	42	30	290
女	31	42	41	54	63	36	11	278
計	76	87	81	92	113	78	41	568

2 地域の概要

学区の南側をJR白新線が通り、近年、西新発田駅を中心に宅地開発と同時に大型店の進出により、交通量が多くなった。

地域住民は、学校教育に理解があり、行事やその他教育活動に対して大変協力的である。

3 教育目標

助け合い、進んで学習するたくましい子ども

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

当校は、保護者と学校職員がパートナーとなり、互いを尊重し、力を合わせて教育と子育てを行っている。具体的にはPTA活動の充実など、連携した教育を推進している。

また当校は、市の課題ならびに、学区内に同和地区と人権啓発のための拠点施設である隣保館があることを受け、教育の基盤を「人権教育、同和教育の充実」に置き教育活動を進めている。児童一人一人に人権感覚と実践的態度の育成を図るとともに、職員が児童一人一人に寄り添うことによって、人権や差別の問題を自分の問題としてとらえられるような指導の充実をさらに図っていく。認め合い、支え合い、高め合う経験を通して、将来の自立に向け、たくましく生きていく力を付けることを柱として学校づくりを進めている。

5 学校の経営方針

- (1) 「一人一人に寄り添い、響き合う学校～家庭・地域とともに～」
- (2) 「笑顔」がいっぱい「ストレス社会」「不寛容な時代」だからこそ「笑顔」がいっぱい
- (3) 「チーム住吉小」で組織力アップ
 - ・目標、目的を共有する。
 - ・「学年協力担任制」の考え方に立った学習指導、生徒指導を展開する。
- (4) 「3つのや」を育む教育活動の展開
 - ・「やろう」という意欲を喚起する。
 - ・「やった」という成就感、達成感を味わわせる。
 - ・「やれる」という自信を喚起する。

6 年度の重点目標

- (1) かかわる力の育成
 - ・自分もみんなも大切に子ども
- (2) 学力の向上
 - ・互いの考えを認め、学び合える子ども
- (3) 体力向上・健康増進
 - ・互いのよさを認め、楽しく運動する子ども
 - ・正しい生活習慣を身に付ける子ども

7 年度の努力事項

- (1) かかわる力の育成
 - ①人権や差別の問題を自分の問題としてとらえる「じんけん」学習の充実（人権教育、同和教育の充実）
 - ②学級集団、異学年集団の人間関係づくり能力の育成
 - ③「チャットタイム」等による相談活動の実施
- (2) 学力の向上
 - ①住吉授業プランを基にした、主体的、対話的で深い学びのある授業の実施
 - ②中学校区で共通に取り組む「教師と児童のスタンダード7」の実施
 - ③個に応じた指導の実施
 - ④家庭学習の取組支援（家庭学習強調週間の実施）
 - ⑤タブレットを活用した授業の実施
- (3) 体力向上・健康増進
 - ①体育授業におけるグループ学習の活用
 - ②家庭と連携したパワーアップ週間の実施
 - ③タブレットを活用した授業の実施

8 研修・研究

(1) 研究主題

自分の差別意識を見つめ、差別に立ち向かおうとする思いを強める子の育成
 ～同和問題をはじめとする様々な差別問題から自分を見つめ直す授業実践を通して～

(2) 研究内容

- ①同和問題をはじめとする様々な差別問題（社会にある差別問題）と、対象児を核とした学級内の問題を扱った授業や単元の開発（資料発掘）を行う。
- ②授業や単元において、自己の差別意識をより深く見つめ、差別解消に向けて立ち向かおうとする思いを強める指導過程、指導法を明らかにする。
- ③差別に立ち向かおうとする思いを強めた具体的な姿を明らかにする。



東豊小学校

住 所 新発田市東新町4丁目10番8号
T E L 0254-23-5075
F A X 0254-23-5189
U R L <https://toho.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和63年4月1日

(2) 教職員



校長 飯塚 進



教頭 佐野 亮太

教諭	30	養護教諭	1	図書館事務	1
講師	4	用務手	1	地域Co.	1
介助員	5	事務職員	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	3	4	3	3	3	3	5	24
男	40	44	43	33	47	42	22	271
女	40	53	49	50	44	38	12	286
計	80	97	92	83	91	80	34	557

2 地域の概要

旧市街地の東部に位置する学区は、住宅地域と農村地域の二つの地域から成り立っている。学校周辺は新興住宅地に変容し、児童数が急増した。それに伴って、平成8年度には6教室の校舎増築が行われた。

学校周辺には田園風景も見られ、清楚な教育環境にあるが、通学路には、交通量の多い県道米倉・板山・新発田線と同新発田・津川線が横切っている。また、学区内に新しく道路が開通し、さらに交通量が増加している。

地域や家庭の学校教育に対する関心は高く、協力的である。さらに一層の連携強化を図っていく。

3 教育目標

【知育】 かしこく
【徳育】 なかよく
【体育】 たくましく

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

【知育】

- ・自ら課題を見付け、思いや考えを伝える。
- ・学習内容を深く理解し、知識や技能を身に付ける。
- ・自分の考えを深化、変容させる。

【徳育】

- ・友だちを思いやり、寛容性・協調性をもって仲良くする。
- ・相手や場にふさわしい言葉遣いや接し方をする。
- ・自他の有用感を高めるために、主体的に行動する。

【体育】

- ・健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む。
- ・健康・安全についての知識と基本的な運動技能を身に付ける。
- ・運動や健康に関する課題解決に向けて試行錯誤しながら何度も取り組む。

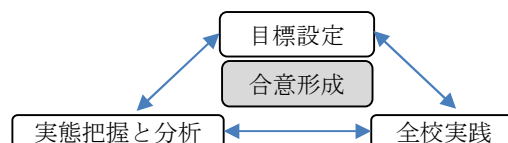
5 学校の経営方針

【目指す学校像】

「人を大切にし、人から大切にされる和やかな学校」

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現
- (2) 豊かな人間関係の構築
- (3) 試行錯誤しながらも最後まであきらめない力の育成

【達成のための実践サイクル】



6 年度の重点目標

【目指す子ども像】

- (1) 自分のよさを発揮し、自分らしく生き生きと過ごす子ども
 - 自己有用感の育成
 - 一人一人の居場所の確保
- (2) 友だちの気持ちを分かちあえられる子ども
 - 行動の背景の確認
 - 「どうしてそうしたのか」理由の確認
- (3) 知的好奇心をもち、協力しながら学ぶ子ども
 - 指示よりも賞賛、提示による視覚化
 - 自己の考えの深化、変容への意識化

7 年度の努力事項

【知育】

- ・単元における指導内容の検討や、ワークテストの結果分析を学年で行う
- ・「家庭学習1学年1取組」について、各学年の目指す子どもの姿及びそれを具現化するための手立てを学年会で学期ごとに検討する。
- ・職員の資質向上を目的とした校内研修を実施する。

【徳育】

- ・人間関係づくり「心を育てる時間」、思いやりに関する道徳について、各学年で実施前後に検討会を実施する。
- ・保護者・地域と連携した「あいさつ」に関する取組を行う。

【体育】

- ・全学年が学期ごとにパワーアップ週間での取組の様子や結果を学年・学級だよりで周知する。
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣がどの程度身に付いているか把握し、分析する。

8 研修・研究

(1) 研究主題

本気になって学ぶ子ども
～「対話的に学ぶ」授業づくり・組織づくりを目指して～

(2) 研究内容

- ①授業研究において、「本気になって学ぶ子ども」の姿（目指す子どもの姿）を設定し、具現化するための手立てを探る。
- ②授業研究後の協議会において、具体的な子どもの姿を根拠に対話し、手立ての有効性や「本気になって学ぶ子ども」の在り方を探る。
- ③各種校内研修を踏まえ、教師自身の学びを対話や省察によって振り返り、自らの子ども観や授業観、「本気になって学ぶ子ども」の在り方を探る。



豊浦小学校

住 所 新発田市大伝465番地2
T E L 0254-22-2034
F A X 0254-23-7002
U R L <https://toyoura-e.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 令和3年4月1日

(2) 教職員



校長 角 直浩



教頭 廣澤 正文

教諭	17	養護教諭	1	事務職員	1
講師	2	補助教員	1	助教諭	1
介助員	5	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	2	2	2	2	4	16
男	15	20	26	26	27	26	20	160
女	21	23	21	23	26	31	5	150
計	36	43	47	49	53	57	25	310

2 地域の概要

中浦小、本田小、天王小、荒橋小が統合して令和3年4月に開校した学校である。学区の多くは田畑であり、豊かな自然に恵まれた農村地帯である。小坂、興野地区の梅林園、滝沢地区の水芭蕉の群生地、乙次地区の真木山公園といった、四季を楽しめる恵まれた地域である。「美人の湯」で有名な月岡温泉やゴルフ場施設があり、多くの観光客が訪れる。また、乳牛を飼育する牧場や地場産の新鮮な野菜や特産物を販売する大規模な商業施設がある。

地域の人々は温順であり、地域の伝統を大切に、学校の教育活動に大変協力的である。

3 教育目標

校訓 「伸びる。ともに伸びる」

- 自分で決める
- 人を大切にする
- 問い続ける

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

◎チャレンジ チャレンジ チャンス
〈チャレンジ〉

「これまでと同じでいい」という考えではなく、「改善できることはないか」という意識を常にもち、課題意識をもって生活できるようにしたい。

〈チャレンジ〉

目標をもち、とことん努力をする。受け身になり与えられた課題だけに取り組むのではなく、自分の得意なこと、好きなことに着目し、常に挑戦することを意識して生活できるようにしたい。

〈チャンス〉

行き詰まったときや問題が起こった時こそ前向きな気持ちで、一人で解決しようとするのではなく、みんなの知恵を出し合い、工夫をしながら解決しようという意識をもって生活できるようにしたい。

5 学校の経営方針

(1) 【目指す子どもの姿】

- ①自分で決めることの自由や楽しさを知り、主体的に学ぶ子ども 〈主体的な学び〉
- ②思いやりの心もち、他者と協働し、互いに認め合える子ども 〈協働的な学び〉
- ③常によりよいもの、新しいものを求めて粘り強く根気強く取り組み、生み出していく子ども 〈探究的な学び〉

(2) 【具体的な取組の方針】

- ①何事にも失敗を恐れず挑戦する心情の育成
- ②お互いに信じ合い、共感し、認め合う集団づくり
- ③変化をしようとする精神の育成
- ④専門性を存分に発揮する職員の育成
- ⑤児童理解と授業力の向上のための積極的な研修

6 年度の重点目標

(1) 自分で決める

- ①自らの問いを大切に、進んで追求する。
- ②根拠を大切に、自ら判断する。
- ③得意なこと、好きなことを自ら伸ばす。

(2) 人を大切にする

- ①相手のことを認め、共感する。
- ②自分や友だちのよさに気付く。
- ③自分ができていることを進んで行う。

(3) 問い続ける

- ①失敗から学ぶようとする。
- ②自らの言動を振り返り自分を見つめようとする。
- ③体力や生活習慣が向上するよう工夫しようとする。

7 年度の努力事項

(1) 学力・学習意欲の向上

- ①授業において、「目標」「めあて」を的確に設定し、「まとめ」「振り返り」を確実に行う。
- ②何ができて何ができないのかを認知する。
- ③得意分野の発掘と適切な評価によって個性の伸張を図る。

(2) 「生きる力」の醸成

- ①試行錯誤を繰り返し、失敗から学ぶ時間と環境を構築する。
- ②認め合う場面を設定し温かな居場所づくりに取り組む。
- ③体力の向上と健康の維持について考える学習場面を設定する。

(3) 特別支援教育の充実

- ①一人一人が認められ、個別の指導、支援を全校体制で行う。
- ②自立活動を適切かつ確実に取り組む。

(4) しばたの心継承プロジェクトの「見える化」

8 研修・研究

(1) 研究主題

一人一人が学びを実感できる授業の創造
～「対話的な学び」のある授業づくりを目指して～

(2) 研究内容

- ①単元を見通した主体的な学びを実現するための「学びのマップ（単元の流れ）」の共有
- ②「対話的な学び」のある授業づくりのための手立て
- ③新発田市授業スタンダードを踏まえた授業の定着



紫雲寺小学校

住 所 新発田市稲荷岡 2 3 8 9 番地
T E L 0 2 5 4 - 4 1 - 2 0 2 2
F A X 0 2 5 4 - 4 1 - 2 0 4 2
U R L <http://shiunjies.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 明治 1 6 年 1 2 月

(2) 教職員



校長 濱田 浩昭



教頭 小栗 玲

教諭	10	養護教諭	1	事務職員	1
講師	0	補助教員	0	養護助教諭	0
介助員	4	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9
男	8	8	10	12	11	10	16	75
女	12	11	13	10	15	12	1	74
計	20	19	23	22	26	22	17	149

2 地域の概要

紫雲寺地域は享保20年に始まった紫雲寺湯の干拓によって開発が進められた地域である。中心部には、商店街がならび、周辺部には、水田と砂丘地帯の畑地が広がっている。また、愛鳥センター、藤塚浜海水浴場などがあり、子どもたちの置かれている環境は自然豊かである。

地域の人々は「干拓魂」を受け継ぎ、地域に誇りを感じて「干拓劇」や「神楽」などの伝統芸能を大切にしている。また、当校の卒業生が多く、総合的な学習や生活科の授業に大変協力的である。

3 教育目標

「ともにのびよう」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 課題の把握ができないまま、解決しようとする様子がみられ、問いに正対しない解答をしよう傾向がある。課題提示において既習事項との違いを明確にする学習課題の設定・提示の工夫が必要である。
- 軽い気持ちで悪口やからかいをする児童がみられる。また、周囲でこれらを目にしても学級や自分の問題として解決しようとする言動があまりみられない。差別の問題を自分事として解決しようとする児童の育成を図る。
- 運動については休み時間に体を動かして遊ぶ児童が多く、体力的にも高い傾向がみられる。しかし、家庭での過ごし方がゲーム中心になっている児童が高学年を中心にみられ、自分の体や健康のことを自分で考えて改善する力を育てる必要がある。

5 学校の経営方針

- 子どもの声を聴く。子どもの変容を語れる。
- 安心・安全な場である学級・学校
- 知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する教育活動
- 親和的な人間関係をつくり、自己開示する力を身に付けさせていくことを目指す。
- スピード感のある対応は誠意の表れ
- 子どもは地域の宝である。地域の人・もの・こととのかかわりを大切に教育活動
- 教育目標を意識し、ベクトルを揃えた教育活動を行う教師集団。互いに尊敬し合える職員集団。

6 年度の重点目標

- 自ら学ぶ子
 - 小さな「分かった」「できた」の積み重ね
 - 学んだことを活用し表現する場の設定
 - 自己の課題に取り組む家庭学習の充実
- 自他を大切にする子
 - 人権課題にかかわる授業の充実
 - かかわる同和教育の視点に基づく児童理解
 - 異学年活動の工夫・ピアサポート等の活用
- 運動・生活を改善する子
 - 自分のめあてをもたせる体育授業の工夫
 - 健康にかかわる自らの課題の理解
 - ゲーム・睡眠時間の実態把握と保護者啓発

7 年度の努力事項

- 学力向上
算数のワークテストにおいて、各学年で平均到達度がそれぞれ80%を上回る。
- 豊かな心の育成
「ありがとうと言われたことがある（自己肯定感）」と思う児童を80%以上にする。
- 体力の向上、健康の保持・増進
「めあてをもって運動に取り組んでいる」「進んで身体を動かしている」と答える児童を80%以上にする。健康維持に関わる項目で、「できた」と答える児童を80%以上にする。

8 研修・研究

- 人権教育、同和教育における研究主題
差別を自分事として受け止め、差別を許さない生き方を問い続ける子どもの育成
～身近な人々の生き方に学び、
自らを見つめ直す授業実践を通して～



米子小学校

住 所 新発田市真野原外1773番地
T E L 0254-41-2036
F A X 0254-41-4553
U R L <https://yonesyo.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 明治17年1月7日

(2) 教職員



校長 金平 弘之郎



教頭 上村 進一

教諭	8	養護教諭	1	事務職員	1
助教諭	1	用務手	2	地域Co.	1
介助員	1	給食運搬	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
男	8	3	6	6	4	6	3	36
女	6	4	4	5	6	4	1	30
計	14	7	10	11	10	10	4	66

2 地域の概要

新発田市郊外の加治川沿い、豊かな自然に囲まれた農村地帯に立地している。紫雲寺湯干拓発祥の地であり、地域には未来を切り開く「拓魂」の精神が根付いている。

住民の結び付きも強く、子どもたちを、地域を挙げて大切に育てていこうとする土壌がある。それゆえ、地域の人々の教育に寄せる期待や信頼は高く、家庭はもとより、自治会、後援会等の組織からもたくさんの協力が得られている。

3 教育目標

「つよく かしく 豊かな心」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

(1) 知育

- ①進んで友達と学び合いながら、自分の考えをもち、より深めようとする。
- ②多くの文章に触れて言葉の特徴を知り、適切に使う力を身に付ける。
- ③話を正確に聞き取りその内容を整理し、筋道を立てて伝える力を育成する。

(2) 徳育

- ①相手の気持ちや立場を考え、相手のためになることをしようとする。
- ②差別に敏感で、誰にでも優しく声をかけることができる態度を身に付ける。
- ③自他にとってよりよくなるための行動を主体的に決める判断力を育成する。

(3) 体育

- ①進んで運動に取り組み、運動の楽しさを十分に味わう。
- ②健康や安全の大切さが分かり、学んだことを普段の生活に生かす技能を身に付ける。
- ③運動や健康について課題の解決方法を考え行動に表す実践力を育成する。

5 学校の経営方針

「つよく かしく 豊かな心」は、日々学び合う営みをおして「学ぶことの楽しさ」「人を信じること」「健康に生きる喜び」を実感できる体験を積み重ね、その結果として達成できる姿を示している。一人一人が健康で、互いに学び合い、子どもも教職員も喜びが味わえる学校を目指して教育活動を展開していく。

6 年度の重点目標

重点目標キーワード「実感！共感！体感！」

【知】「学ぶ楽しさ」「できる喜び」が実感できる授業の追求

【徳】他者の思いに共感し、よさを認め、協力し合う活動の推進

【体】自身の健康、成長を体感する機会の創出

7 年度の努力事項

(1) PDCAサイクルによる重点的取組の推進

- ①学びに向かう力の育成
- ②豊かな人間性や社会性の育成
- ③生活習慣を向上させる意識の育成

(2) 特別支援教育の充実

- ①個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた全校体制による支援
- ②UDLの視点を生かした授業づくり

(3) 生徒指導体制の充実

- ①いじめ、不登校、問題行動等対策委員会による迅速な対応
- ②生徒指導個別ファイルによる情報共有

(4) 人権教育、同和教育の推進

- ①人権教育、同和教育の授業の実施
- ②現地研修を軸とした職員研修の充実

(5) しばたの心継承プロジェクトの充実

- ①地域人材、地域環境の積極的な活用と、活動の見える化の促進

(6) 校内研修の推進

- ①新しい研修組織体制の確立と確実な実施

(7) 安心・安全を保障する教育活動の充実及び学校環境の整備

- ①安全教育の推進と危機管理マニュアルの整備
- ②地域防災組織との連携強化

(8) 開かれた学校づくりの推進

- ①学校教育説明会、懇談会、各種便り、HP、授業公開による学校の様子の公開
- ②地域ボランティア、外部講師の積極的な導入

(9) 家庭・地域との連携

- ①PTA、地域、近隣保育園や小中学校との連携強化

(10) 働き方改革の推進

- ①校務支援システム等の活用による効率化の推進
- ②勤務時間を意識した働き方への教職員の意識改革

8 研修・研究

(1) 研究主題

「問いをもって、学び合う子どもの育成（4年次）」

(2) 研究内容

- ① 基礎学力を向上させる
ア 学習の定着度を把握しながら指導を進める。
イ 家庭との連携を図る。
- ② 学習過程を工夫する
ア 学習過程を全校で統一する。
イ 問いをもって学習に臨めるよう工夫する。
ウ 学び合いのコーディネートを工夫する。



藤塚小学校

住 所 新発田市藤塚浜 4 0 6 3 番地 3
T E L 0 2 5 4 - 4 1 - 2 0 7 3
F A X 0 2 5 4 - 4 1 - 4 5 5 7
U R L <https://fujisyou.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 明治 7 年 6 月 1 5 日

(2) 教職員



校長 山田 耕世



教頭 五十嵐 敦志

教諭	9	養護教諭	1	事務職員	1
講師		補助教員			
介助員	1	用務手	2		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
男	7	5	8	12	7	11	5	55
女	7	5	8	9	2	13	1	45
計	14	10	16	21	9	24	6	100

2 地域の概要

藤塚浜は古来漁業で栄えた地区で、岩船・寺泊・出雲崎と並び称されていた。

漁業の仕事をととして昔から住民同士が強い連帯感で結ばれ、現在に至ってもその意識は受け継がれてきている。さらに、地域の自治意識も強く、伝統芸能を大切にしたり、神仏・祖先を敬ったりする心は今でも失われていない。

しかし、時代の変化とともに現在は、児童の保護者のほとんどが町内外での会社勤めで生計を立てている。そのため、保護者の価値観や教育的ニーズも多様化してきている。

このように、地域は社会状況に合わせて変化をしているが、保護者・地域住民の教育に対する関心は現在でも高い。保護者・地域住民は、地域に脈々と伝わってきた伝統文化や地域活動と学校の教育活動との融合と、おおよそでたくましい子どもの育成を望んでいる。そのため、学区全体で教育活動を盛り立て、伝統ある藤塚小学校を一層良い学校にしようと積極的な支援・協力が行われている。

3 教育目標

正しく 明るく たくましく

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

同じ学年だけでなく、異学年でも子ども同士の仲が良い。しかし、学年が上がるとそれまでの関係が優先され、一人一人のよさを十分に発揮し合いながら協力することに難しさがある。また、自分の思いをうまく伝えられず、誤解が生じることもある。多くの異なる考えを聴く場面が少ないため、多様な考えを受け入れたり、異なる立場の人に目を向けて考えたりすることが難しい子どももいる。子どもの自己肯定感や自己有用感を高め、自他の良さや違いを認め合い、共に伸びようとする共感的な人間関係の育成が必要である。

5 学校の経営方針

【目指す子どもの姿】

互いを認め合い、共に生きようとする子ども

【目指す子どもの姿に迫るための柱】



6 年度の重点目標

【育成すべき資質・能力】

「かかわる力」

・・・互いを認め合い、共に生きようとする力

7 年度の努力事項

【知：自ら考え表現する子ども】

- 「新発田市授業スタンダード」に基づく授業づくり、紫雲寺中学校区の「学習三原則」の徹底
- 育成する資質・能力を明確にした単元デザイン
- N R T 学力検査の結果分析に基づく重点単元の設定
- 「家庭学習強調週間」の設定

【徳：自分も相手も大切にする子ども】

- 同和教育を中核にした、人権教育の推進による差別や偏見を許さない意識・態度の育成
- 教育活動全体をととした「いじめをしない・許さない、命を大切にする意識」の醸成
- 「考え、議論する道徳」による、より良い判断ができる力の推進
- 特別活動における子ども主体の活動の推進

【体：健康に気を付けて体を鍛える子ども】

- 自らの伸びを実感できる手立ての工夫
- 運動する楽しさや喜びを体感できる体育の授業づくり
- 「食とみどりの新発田っ子プラン」に基づく「弁当の日」の設定
- 規則正しい生活習慣の定着を図る「パワーアップ週間」の設定

8 研修・研究

(1) 研究主題

かかわり合いをととして、自分の考えを確かにする子どもの育成（1 年次）
～主体的な学びを生む学習課題の工夫と
学び合う活動を充実させる支援～

(2) 研究内容

- 主体的な学びを生む学習課題の工夫
- 子どもが学び合う活動を充実させるための教師の支援



加治川小学校

住 所 新発田市上今泉366番地1
T E L 0254-33-2435
F A X 0254-33-3999
U R L <http://kajikawa-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 平成20年4月1日

(2) 教職員



校長 丸山 久志



教頭 佐藤 香織

教諭	12	養護教諭	1	事務職員	1
講師	2	補助教員	1	SSS・非常勤講師	1
介助員	5	用務手	1	給食運搬	1
図書館事務	1	地域Co.	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	2	2	2	5	14
男	12	12	15	13	18	22	29	121
女	18	11	16	13	17	27	7	109
計	30	23	31	26	35	49	36	230

2 地域の概要

- 平成17年の市町村合併前の旧加治川村の三小学校が統合し、平成20年に開校した。学区の西には加治川が流れ、東には日本最小の櫛形山脈が連なる。中央をJR羽越本線と国道7号が南北に通っている。
- 学区西には旧中川小学校区の集落、中央には旧加治川小学校区の集落、北には旧新金塚小学校区の集落が存在する。
- 地域住民の学校を愛する気持ちは強く、協力を惜しまない。学校の施設・設備や教育活動の充実に尽力してくれている。

3 教育目標

学び合い 高め合い 共に伸びる子

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 学力向上の面から
 - 個人差の拡大や定着の弱い領域があるため、全校体制のもと取組を強化する必要がある。
 - 自分の考えを一方向的に伝えるのではなく、考えが深まるように、話し合う視点を明確にしたり、話し合うスキルの指導を充実させたりする必要がある。
- 豊かな心の育成の面から
 - 時として強過ぎる言動が見られたり、気持ちが伝えられなかったりするため、人間性と社会性を育む必要がある。
- 体力向上の面から
 - 運動面での二極化の解消に努めるとともに、メディアコントロールに向けた指導を継続する必要がある。

5 学校の経営方針

- 学力の向上
学習規律の確立、全校体制による授業改善の実施
- 道徳性の育成
考え議論する道徳授業、アサーショントレーニングの実施
- 社会性の育成
自己有用感やコミュニケーション能力、よりよい人間関係の構築、異学年交流活動の推進
- 特別支援教育
一人一人の教育的ニーズに合った教育活動、将来を見据えた教育活動の推進
- 人権教育、同和教育
互いの大切さを認め合う、支え合う人間関係づくりの推進

6 年度の重点目標

- (知育) 人の話を聞いて受けとめ、自分の思いや考えを伝える子
(徳育) どうすればよいかわく考え、誰もが心地よい人間関係を築く子
(体育) 安全で健康な生活のための知識を活かし、自分のめあてに向かって取り組む子

【目指す学校像】

- 瞳輝き 笑顔あふれる学校
 - ・ 生きている喜びを感じさせ、やる気と自信をはぐくむ学校
 - ・ 教育活動に充実感をもち、満足した学校生活をおくる学校
 - ・ 子どもたちに自信と希望を与え、「明日の学校が待ち遠しい」と実感できる学校

7 年度の努力事項

- 学んだことを活用しながら、問題を解決する力を育てる。(知育)
 - 子どもが、「考えたい、仲間と話し合いたい」という思いをもてるような授業の工夫
 - 「話す・聞く力」の育成
- 力を合わせ、共に学校生活を楽しもうとする態度を育てる。(徳育)
 - 進んであいさつしようとする意識の醸成
 - 自分も相手も大切にしようとする態度の育成
- 体力向上に努め、健康に過ごそうとする態度を育てる。(体育)
 - 運動を楽しむ体育授業等の工夫
 - 食と健康に関する指導の充実

8 研修・研究

- 研究主題
主体的に学び、生き生きと表現する子どもの育成～「つかむ」「考える」場面の充実をとおして～
- 研究内容
 - 加治川小学校授業モデルの授業実践、改善
 - 見通しをもって主体的に学ぶための課題設定の工夫
 - 知識を相互に関連付けて理解し、一般化や抽象化させるための手立ての工夫



本丸中学校

住 所 新発田市緑町2丁目7番22号
 TEL 0254-22-2525
 FAX 0254-22-0342
 URL <https://honmaru.shibata.ed.jp/>

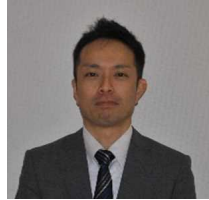
1 学校の概要

(1) 創立 昭和24年5月1日

(2) 教職員



校長 三浦 学



教頭 清野 正康

教諭	33	養護教諭	1	事務職員	1
非常勤講師	1	用務手	1	補助教員	1
介助員	5	S S S	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	5	5	5	4	19
男	73	89	81	16	259
女	87	73	78	5	243
計	160	162	159	21	502

2 地域の概要

学区には外ヶ輪小学校、二葉小学校、東豊小学校の3小学校がある。

本丸中学校区「明るい子どもを育てる会」で学校と地域等が連携・協力して子どもの健全育成を図っている。

全国で唯一の「本丸」の名称の基となる新発田城を地域のシンボルとして、平成29年度から外ヶ輪小学校児童と協力した「新発田城清掃活動」を行い、地域を愛し地域に貢献する本丸中学校を目指している。

3 教育目標

錬磨し 協調し 創造する生徒

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 自己肯定感を高め、互いに認め合い高め合う力
 - 心の在り方を「成長マインドセット」にし、「認められている」「できる」「自分は価値がある人間だ」と自己肯定感、自尊心を高める
 - 学級・生徒会等の特別活動での取組、互いに認め合い高め合う共感的人間関係、心理的安全性
- 基礎・基本を身に付け、目的意識をもって学びに向かう力
 - 学ぶ意欲を喚起（内発的動機付け）し、集団等の学びに向かう雰囲気、不安なく自分を出せる心理的に安全な風土の醸成
 - 個別最適な学び（個に応じた指導）と協働的な学びの充実と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 健康でたくましく生きる力
 - 健康三原則「調和のとれた食事」「適切な運動」「十分な休養・睡眠」について生涯学習の観点からの指導の充実
 - 「成長マインドセット」で取り組み、意識・マナー、意欲や感情を含めた自己調整力、礼儀等の向上

5 学校の経営方針

家庭や社会の生活スタイルや価値観が多様化し、保護者、地域の「本丸の教育」への期待は大きい。新学習指導要領の実施により、子どもたちの「生きる力」さらに「生き抜く力」を育むことが重要である。

教職員はこれまで以上に生徒・保護者に正対し、傾聴の姿勢で接しながら信頼関係を育むことを基に、全校体制による「知・徳・体」のバランスのとれた「本丸の教育」を一貫して推し進めていく。

「本丸の教育」の良さ、財産を継続、発展させ、「笑顔が輝く、命を守る、ウェルビーイングな学校」を共に創る。

6 年度の重点目標

- 自己肯定感の高い成長マインドセットで、共感的な人間関係、心理的安全性のある集団を育てる。
- 目的意識をもって学ぶ意欲を高めるために、個別最適な学び、協働的な学びを充実させる。
- 食に関する指導と体力向上の取組を強化し、健康でたくましく生きる力を育てる。

7 年度の努力事項

生徒の自己肯定感、学びに向かう力・人間性等を高めウェルビーイングの向上を図るために、教職員のウェルビーイングも高め、組織的、協働的に取り組む。

- 自己肯定感、健全な自尊感情の育成のため、人と人との関わりの大切さを感じさせ、話し合い活動や異学年交流、生徒の発表及び評価の場の設定など様々な特別活動・生徒会活動を実施する。
- 人間性の涵養に向けて、豊かな心（命を大切にすると心、思いやり心、差別や偏見に憤る心、自律心、感謝等）を育成するため、SOSの出し方に関する教育など様々な取組、活動や講演、そして体験の場を用意する。
- 教育の基本である「当たり前のことが当たり前に見える」学校を目指す。併せて、学級が全ての基礎・基本であることを再確認し、学級経営・学級指導に全校体制で取り組む。
- 新しい指導計画のもと授業改善を推し進める。がんばりに応じて望む結果が得られたという経験や以前の自分と比べて伸びた部分が評価される経験、成功に対してはそれをもたらした努力に焦点を当てて賞賛することなどにより、成長マインドセットを活性化させる。
- 授業スタンダードを基本に主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「分かる、できる、楽しい授業」づくりを目指し、授業力を高める取組を一層推し進める。
- 望ましい生活習慣の確立のため、健康調査等を基に食育及び日々の健康指導に力を入れ、家庭への啓発活動及び家庭との協働を積極的に行う。
- 市施策の「しばたの心継承プロジェクト」を学校の取組として自校化し、生徒にふるさとへの愛着と誇りを育む。

8 研修・研究

(1) 研究主題

自己肯定感を高め、互いに認め合い高め合う生徒の育成
 ～成長マインドセットを育む取組を通して～

(2) 研究内容

ウェルビーイングを高める学校づくり

- 学級組織の統一すべき部分の再確認
- 話し合い活動の計画的実践
- 新発田市授業スタンダードに基づいた授業改善



第一中学校

住 所 新発田市御幸町4丁目5番25号
T E L 0254-23-1151
F A X 0254-24-1026
U R L <https://shibata-1.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月24日

(2) 教職員



校長 萩野 喜弘



教頭 丹羽 徹

教諭	22	養護教諭	1	事務職員	2
講師	0	補助教員	0	図書館司書	0
介助員	3	用務手	1	S S S	1
S C	1	給食運搬	1	A L T	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	4	3	4	2	13
男	71	39	48	11	169
女	63	60	59	3	185
計	134	99	107	14	354

2 地域の概要

当校は、新発田市の中央部に位置し、11町内からなる新旧混在している地区である。学区には御免町小学校、東豊小学校の2小学校がある。

保護者や地域の住民は、学校教育に関心が高く、協力的である。第一中学校区「未来を築く子どもを育てる会」を組織し、学校と地域が連携して児童生徒の健全育成を図っている。

3 教育目標

目標をもち
自ら考え
ねばり強く実践する生徒

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- (1) 知の領域
 - ① 十分に思考する資質・能力を伸ばす。
 - ② 家庭学習に対する意欲を高める。
- (2) 徳の領域
 - ① 自己肯定感を高める。
 - ② 相手の立場になって考える力を高める。
- (3) 体の領域
 - ① 総合的な体力づくりへの意欲を高める。
 - ② メディア対応力を定着させる。

5 学校の経営方針

- (1) 目指す学校像
笑顔あふれる学校 魅力ある学校
～保護者・地域とともに歩む学校づくり～
- (2) 目指す授業像
課題の発見と課題の解決に向けた「主体的・対話的で深い学び」のある授業の創造
- (3) 開かれた学校づくりの推進
- (4) 生徒と向き合うゆとりの確保
- (5) 配慮事項
 - ① 確実な組織マネジメント（PDCA）サイクルの実行による教育活動の見直し
 - ② 生徒による地域貢献活動の推進
 - ③ 組織的に教育活動を推進する教職員集団

6 年度の重点目標

- (1) 知の領域
共に学び合い、思考を深め、広げていく生徒の育成
- (2) 徳の領域
思いやりの心と強い正義感をもち、互いに信頼し合う生徒の育成
- (3) 体の領域
基本的な生活習慣を身に付け、進んで運動の楽しさや喜びを求める生徒の育成

7 年度の努力事項

- (1) 知の領域
 - ① 「目標」「課題」「まとめ」「振り返り」のある授業
 - ② 「思考力・判断力・表現力」を伸ばす授業
 - ③ 自ら取り組む家庭学習の工夫
- (2) 徳の領域
 - ① 「考え、議論する道徳」の実践
 - ② 全校体制で取り組むいじめ見逃しゼロ活動（人権教育、同和教育）の充実（SNS対応も含む）
 - ③ 異学年交流活動、職場体験の充実
- (3) 体の領域
 - ① 基本的な生活習慣の定着（食育も含む）
 - ② メディア接触をコントロールする力の育成
 - ③ 体育科・部活動での体力向上

8 研修・研究

- (1) 研究主題
「主体的・対話的で深い学び」の授業の創造
～深める問いの設定～
- (2) 研究内容
 - ① 「深い学び」を実現するための具体的な手立ての工夫
 - 全教員が授業を公開し実践研修を進める。
 - ② 家庭学習の充実に向けた取組の推進
 - 「家庭学習タイム」を終学活前に設定し、家庭学習の立案を行う。



猿橋中学校

住 所 新発田市住吉町1丁目7番1号
 TEL 0254-23-1175
 FAX 0254-23-6185
 URL <http://saruhashi-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和24年4月1日

(2) 教職員



校長 廣田 徳昭



教頭 長谷川直紀

主幹教諭	1	教諭	41	事務職員	2
講師	1	養護教諭	1	用務手	1
介助員	5	SSS	1	図書館事務	1
非常勤講師	1				

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	6	6	6	9	27
男	87	87	97	38	309
女	91	99	83	11	284
計	178	186	180	49	593

2 地域の概要

新発田市西部に位置し、猿橋小学校と住吉小学校からほぼ同数入学してくる。学区は、市外周辺からの交通の便がよく、大型店舗等ができた地造成も進み、年々人口が増加している。

保護者は、教育的関心が高く、学校に対する期待が大きい。「猿橋中学校区すこやかな子どもを育てる会」を中心に、生徒の健全な心身の発達に向けた活動など、学校の教育活動に協力的である。

3 教育目標

『正しく 強く 大らかに』

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

生徒は、学習に対して友だちと学び合いながら前向きに取り組んでいる。また、部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組み、自らを高めようとする意欲や学校に対する愛校心が高い。

さらに、お互いを認め高め合う互恵的な学びや活動を通して、正しいことを強い意志をもって行動し、仲間や教師を受け入れる広く大らかな気持ちをもった生徒を育成する。

5 学校の経営方針

学校経営の方向性を人権感覚を兼ね備えた「豊かな心を育む教育の充実」をベースとした「確かな学力の向上」「健やかな身体の育成」とし、教育目標「正しく 強く 大らかに」の具現化に向けて、特色ある学校づくりに努めていく。

目指す学校の姿

○生徒が毎日笑顔で登校し、充実した生活を送り、笑顔で下校できる学校

○保護者・地域など、関わるすべての人が当事者意識をもって取り組む学校

6 年度の重点目標

- (1) 正しい心の成長（豊かな心）を育む教育の充実
- (2) 確かな学力の向上を目指す教育の推進
- (3) 健やかな身体の育成
- (4) 地域・保護者・関係機関との連携・協働の推進

7 年度の努力事項

- (1) 「生徒の良さ」を見つけ、褒めて伸ばす教育活動を展開する。
- (2) 道徳の授業はもとより学校生活のあらゆる場面で人権感覚を磨き、他人の良さを認め合い、支え合うことのできる集団の育成に努める。
(人権教育、かかわる同和教育の推進)
- (3) 社会性育成に向けて年間を通じて社会貢献・ボランティア活動を取り入れ、生徒の自尊感情、自己有用感を高める。
- (4) 「命」の大切さを学ぶ機会をつくり、自他の生命尊重の心を育てる。「命の大切さ」をテーマとしたPTA講演会等。
- (5) 教科の授業および特別活動や部活動等を通じて生徒同士および生徒と教師の関わり合う時間の充実を図る。
- (6) 常にアンテナを高く、生徒の声に耳を傾け、丁寧に話を聞く姿勢をもつ。
- (7) 授業の目標、課題、授業の流れを明確にし、生徒の学習意欲を喚起し、生徒が主体的に学ぶことができるように1時間の授業を工夫する。
- (8) 教師から生徒への一方向の指導や単なる知識の伝達ではなく、生徒同士の意見交換や生徒と教師の関わり合いを大切に授業実践を工夫する。
- (9) ふるさと新発田を愛する心を育てる。「しばたの心継承プロジェクト」の推進。

8 研修・研究

(1) 研究主題

『互恵的に学び、共に成長できる生徒の育成』

(2) 研究内容

- ① 2段階の課題がある授業の展開
 ア 共有の課題とジャンプの課題による授業の構成
 イ 基礎学力の習得と学習意欲の喚起、学習の振り返り
- ② 学習形態の工夫
 ア 新しい生活様式に配慮しつつペアや少人数グループでの学習活動の導入
 イ 対話の中身を重視した日頃の指導
- ③ 全員が学習に参加するための基礎づくり
 ア 学習の見通しをもたせる工夫
 (「ねらい」「課題」「まとめ」「振り返り」のカード)
 イ ユニバーサルデザインの推進によるシンプル化
 ウ まなボードやICT機器の活用
 エ「学習三原則」と「学びの作法」の継続指導



東中学校

住 所 新発田市五十公野4981番地
T E L 0254-22-3824
F A X 0254-26-3543
U R L <http://higashi.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和47年4月1日

(2) 教職員



校長 森谷 優子



教頭 小野 俊巳

教諭	16	養護教諭	1	事務職員	1
講師・助教諭	2	補助教員	1	A L T	1
介助員	2	用務手	1	S C	1
図書館事務	1	給食運搬	1	地域C o.	2

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	3	2	2	3	10
男	39	35	37	12	123
女	32	30	26	3	91
計	71	65	63	15	214

2 地域の概要

当校は、新発田市の南東部に位置し、学区は北西から南東にかけて18.5km、北から西10km、総面積213.59平方kmと広大な地域を有する。

東に二王子・五頭・飯豊の連峰を望み、加治川や荒川川沿いに平地が開ける。従来から稲作と畑作等の農業が盛んである。

学区には、松浦地区、五十公野地区、米倉地区、赤谷地区の4地区がある。平成30年度に松浦、五十公野、米倉の3小学校が統合し、東小学校が開校した。

学区にはスポーツ施設や公園などがあり、学校周辺は緑豊かな環境である。

3 教育目標

「進んではげむ 心ゆたかな生徒」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

当校は、生徒指導に課題を抱えている時期があり、学力不振が大きな課題であった。社会性の育成に取り組む、しだいに学校は落ち着きを取り戻し、昨年度は3年生を中心に落ち着いた学校生活が実現できた。

素直な生徒が多く、与えられた課題には、意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、言葉で自分自身を表現する力や先を見とおして考える力が不足しており、それに起因した人間関係トラブルが散見する。

受け身姿勢の生徒が多く、指示や解答を待っている待ちの姿勢が見られ、自ら思考しようとしにくい場面が目立つ。

自ら課題を見付けたり、課題解決を図ったりすることが課題である。

5 学校の経営方針

- 子どもが育つ、支持的・意欲的な学校
- (1) 子どもが自ら成長するのを支援しようと考え、教育活動に向かう学校
- (2) 子どもとともに教職員も成長する学校
- (3) 教職員も子どもも互いに学びに向かう仲間として尊重する学校
- (4) 子どもが育つことに喜びを感じる地域と一体感のある学校

6 年度の重点目標

- (1) 確かな学力の育成
 - ① 単元デザインを生徒と共有し、本時が長期的な目的、連続性の中に位置付けられるように授業改善を図る。
 - ② 学習指導要領に合致した学習評価の充実を図る。
- (2) 豊かな心の育成
 - ① キャリア教育を基盤とし、学校生活や学校行事で、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する場を創出する。
 - ② 人権教育・同和教育を中核に据えた教育課程の編成をする。
- (3) 健康な心身の育成
 - ① 活動に体力テストの記録を高めるトレーニングを取り入れる。
 - ② 食育の推進を図る。
 - ③ 救命救急法、薬物濫用防止教室などによる健康教育の推進を図る。

7 年度の努力事項

- (1) 確かな学力の育成
 - ① 学期に1回以上のパフォーマンス課題を設定する。
 - ② しばたの心継承プロジェクト単元を核に探究学習の充実を図る。
 - ③ 獲得した学びを実感し、他教科、領域等に活用できるような振り返りを工夫する。
- (2) 豊かな心の育成
 - ① クラスミーティングで自分たちの問題や課題を自分たちの手で解決させる場作りをする。
 - ② 「生きるIV」の確実な実践で、自他を大切にすることを醸成する。
- (3) 健康な心身の育成
 - ① トレーニング方法等についての研修を行う。
 - ② 食とみどりのしばたっ子プランの活用
 - ③ 積極的な外部講師の活用

8 研修・研究

- (1) 研究主題

「主体的に取り組む、共に深く学び合う生徒の育成」
～思考力・判断力・表現力の育成を目指して～
- (3) 具体的実践事項
 - ① 生徒に、自分が学んだ内容を自覚させる手立てを探る。
 - ② 生徒に学習方法や、学習過程を振り返らせる。



川東中学校

住 所 新発田市下羽津1566番地1
T E L 0254-25-2011
F A X 0254-25-2022
U R L <https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月1日

(2) 教職員



校長 清水 謙一



教頭 金谷 良弓

教諭	11	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	図書館事務	1	A L T	1
介助員	1	用務手	1	S C	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	1	1	2	1	5
男	7	10	22	2	41
女	13	9	20	2	44
計	20	19	42	4	85

2 地域の概要

市域の東端に位置し、加治川右岸から二王子西麓までの広大な田園地帯に点在する25集落から成り、大部分の生徒が自転車で通学している。

平成26年度から川東小学校・竹俣小学校・車野小学校が統合し、新たに川東小学校が新設され、中学校区の小学校設置数は1校となった。

保護者のほとんどが昔からこの地に住居を構えて生活している。三世代家庭が多く、地域への愛着は強い。教育に対する考え方は多様化しており、学校への期待は大きい、そのニーズを把握することが難しくなっている。

近年、生徒数が減少の一途を辿っており、「教育村」と称されてきた川東地区にも、将来に向け、新しい教育課題が生じてきている。

3 教育目標

正しく 強く 心豊かに

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

(1) 「知の分野」

素直で何事にも真面目に取り組む生徒が多いが受動的である。

①探求的な意欲や態度を育てる。

②自主的な学習態度や学習習慣を育てる。

(2) 「徳の分野」

一小一中のため人間関係が狭く固定化しており、自分の能力を十分に発揮できないところがある。

①自己肯定感を高めながら、お互いを尊重し切磋琢磨する人間関係を築く。

②夢や目標に向かって努力し続ける心を育てる。

(3) 「体の分野」

体力テストで持久力が県平均より劣っている。栄養バランスを考えて食事する生徒の割合が若干下がっている。

①体力テストの目標設定と振り返りを年に2回実施する。

②栄養バランスを考えた食事、メディアコントロールを考えた生活など、家庭と連携して生活習慣を向上させる。

5 学校の経営方針

(1) 育てたい生徒像

①かかわり合って学び合い、主体的・意欲的に学習に取り組む生徒

②自他のよさを認め合い、勇気をもって挑戦する生徒

③心身ともに健康で「心を豊かにする活動」を日常実践できる生徒

【心を豊かにする活動4項目】

ア 元気はつらつ挨拶・返事

イ 学舎（まなびや）に感謝する清掃

ウ 食の恵みに感謝する給食

エ 「川中大好き」校歌斉唱

(2) 経営の重点

①カリキュラム・マネジメントに基づく指導計画を作成・実施し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。

②知識・技能の確かな習得を基盤に、自らの考えをもち、互いに高め合う生徒を育成する。

③ストレス・マネジメントを教育活動に取り入れ、知・徳・体のバランスのよい成長を図る。

④生徒が前面に出る活動を推進する。

⑤家庭や地域との連携強化を図る。

⑥地域コミュニティの中核としての学校づくりを促進する。

6 年度の重点目標

(1) 「知の分野」：各教科の本質に沿った「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、思考力、判断力、表現力等の育成を図る教育の推進。

(2) 「徳の分野」：命を大切にする、豊かな心を育てる教育の推進

(3) 「体の分野」：たくましく生きる力を育む健康体力の向上を図る教育の推進

7 年度の努力事項

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした「学び合い」を取り入れた授業改善を進める。

(2) 主体的に家庭学習に取り組む生徒を育てる。

(3) 全教育活動をストレス・マネジメントの視点で捉え、自他のよさを知り、許し励ましあい高め合い、可能性に挑戦する実践力を育てる。

(4) 生徒の人権を尊重し、よさを認め勇気付けるアプローチを繰り返し、自尊感情を高める。

(5) 情報発信の充実を図る。

(6) 「二王子会」組織を機能させ、保小中連携を強化する。

8 研修・研究

(1) 研究主題

主体的に学ぶ生徒の育成（3年次）
～授業改善と評価方法の見直し～

(2) 研究内容

①単元や題材ごとのガイダンスを丁寧に行い、教員と生徒が学びの方向を共有した授業を展開する。

⇒「ガイダンス用の資料作成」

②新発田市授業スタンダードをもとにした「川中UDL」を意識した授業を展開する。

⇒学期ごとの自己チェックで授業の振り返りを行う。

ア 授業の目標と流れの提示

イ 生徒が追究したくなる課題の提示や発問の工夫

ウ 1時間の学習内容が分かる板書

エ 本時のまとめやポイントの明示

オ 本時の振り返りの時間の確保

③単元の指導計画・評価計画を整備し、指導と評価の一体化を図る。

⇒計画と実際の指導の結果を資料として蓄積し、よりよい授業の在り方を確立していく。



七葉中学校

住 所 新発田市上館乙84番地2
T E L 0254-22-3524
F A X 0254-26-3621
U R L <https://nanaha-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和55年4月1日

(2) 教職員



校長 新井 達夫



教頭 中野 貴広

教諭	10	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	1	介助員	1
用務手	1				

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	2	1	7
男	19	13	22	6	60
女	21	22	19	0	62
計	40	35	41	6	122

2 地域の概要

学区は、新発田市の北東に位置し、要害山と加治川に囲まれた自然豊かな地域である。また、学区は国道7号線が通っていることから住宅地の開発も進んでいる。加治川、坂井川沿いに、菅谷・熊出地区から上館・三日市地区までと広大である。コミュニティバスを利用し、通学している生徒もいる。

3 教育目標

「磨け自己 高めよ理想」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

(1) 知の領域

課題解決しようとする粘り強さが不十分である。主体的な態度を育むとともに、自ら問いをもちその解決に向けて粘り強く取り組んでいく生徒を育成する。

(2) 徳の領域

集団生活のきまりやマナーを遵守して生活している。グループ活動や生徒会等の様々な活動に協働して取り組むことができる。

自分の良さに気付けない、自信がもてない面がある。自他の良さに気付き、より良い生き方を主体的に考えていく生徒を育成する。

(3) 体の領域

メディアの利用に伴い、生活習慣を見直す必要がある。生活習慣の向上に向けて、家庭との連携を進めていく。

5 学校の経営方針

(1) 目指す生徒の姿

自他の良さに気付き、主体となって取り組む生徒

(2) 経営の理念

意図的に生徒間の人間関係を育てることで、生徒の「自己有用感」を高め、学校生活に主体的に取り組む生徒の育成を目指す。

(3) 基本方針

- 生徒が安心・安全に学べる学校実現のために、全教職員が協力して学校を運営する。
- 保護者・地域から信頼される、協力してもらえる、温かい学校にする。

6 年度の重点目標

(1) 【知】知識・技能を活用して、粘り強く課題に取り組む生徒

① 研究主題に迫る「深い学び」についての自身の授業を検証する。

② 個人研究の成果紹介の場を設け、当校としての授業の輪を構築する。

(2) 【徳】共に認め合い、自分の生き方を考える生徒

① 生徒が語り合う道徳の授業を実践する。

② 生徒会を中心に生徒が目標を定め、協働した活動を実践する。

「思いやり・協力・感謝」に基づく活動の展開

(3) 【体】健康・体力の向上に努める生徒

① 体力テストの結果を基に、目標達成に向けた体力向上プログラムを作成して実施する。

7 年度の努力事項

(1) より良い生き方を追求するキャリア教育の取組
地域を活用した体験活動により、役割や生き方を考えるキャリア教育を推進する。

(2) 「全校体制での特別支援教育」の取組
生徒や保護者と相談し、合理的配慮の下で、指導・支援内容を確認する。

(3) 人権尊重の心を育てる人権教育、同和教育の取組
同和教育を中核とした人権教育に取り組み、かわる同和教育を行う。

(4) 学習指導要領の趣旨に基づいた教育課程の編成
教育計画の実践を通して、研修会等で教育課程の評価・改善を推進する。

(5) 開かれた学校づくりの取組
ランドデザイン・いじめ予防の取組等を保護者に説明する。

8 研修・研究

(1) 研究主題

主体的に生きる生徒の育成
～対話を充実させることで、
学びの深まりを実感できる生徒を目指して～

(2) 研究内容

① 生徒が自ら問いをもとに課題を設定し、その解決に努めるための手立ての工夫

「目指す生徒の姿」を具体化し、全教員が年1回授業を公開し互いに評価・アドバイスをを行う。

② 「新発田市授業スタンダード」「七葉中授業スタンダード」「七葉中Tチェック7」を基にした授業

「めあて」「課題」「まとめ」を板書し、授業や単元の最後に「振り返り」を位置付ける。



佐々木中学校

住 所 新発田市則清102番地
T E L 0254-27-2505
F A X 0254-27-2229
U R L <http://sasaki-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月17日

(2) 教職員



校長 田原 成久



教頭 山田 絵美子

教諭	8	養護教諭	1	事務職員	1
講師	0	補助教員	0		
介助員	0	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	1	1	1	1	4
男	3	12	4	1	20
女	10	5	14	2	31
計	13	17	18	3	51

2 地域の概要

純農村地域で、佐々木村として、早くから一小一中で学校を設置していた。

当校は、大型商業施設などが立ち並ぶ新発田市の新興住宅地の近くに位置しているが、市内の他の中学校との交流は比較的少ない。

少人数であるため、保護者は学校行事やPTA活動に大変協力的である。また、佐々木中学校体育文化後援会、佐々木中学校同窓会、さわやか佐々木っ子育成会、自治会を中心としたコミュニティー等、学校をサポートする組織も整っている。

3 教育目標

よく考え、進んで実践する生徒

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 素直で前向きな態度
- 基本的な生活習慣の定着
- 明るい挨拶、素晴らしい歌声

- 主体的に行動する力
- 他者を思いやり理解する力
- 困難に立ち向かう地力

5 学校の経営方針

- すべての生徒・教職員の笑顔が輝き、誇りをもって
いる学校
 - ・生徒が安全に生活、安心して学習ができ、笑顔で
学校につどい、自身の可能性や良さを伸ばせる学
校
 - ・職員全員が生き生きと活動し、やりがいをもって
働ける学校
- 主体性と協働性を身に付け、最後までやりぬく生徒
 - ・主体的・協働的な学習態度で確かな学力を身に付
けている生徒
 - ・運動を好み、望ましい生活習慣が身に付いている
生徒
 - ・いじめをしない、許さない、自分と他の人(の命)
を大切にしようとする生徒
- 学校の目標を共有し、協働して課題解決に取り組む
教師
 - ・生徒の心に寄り添い、成長を願い自己研鑽に励む
教師
 - ・自らの人権感覚を磨き、生徒や職員一人一人を大
事にする教師
 - ・地域と関わり、地域の方や保護者に丁寧に対応す
る教師

6 年度の重点目標

- 自分を大切に、相手の立場に立って考えて行動で
きる思いやりのある生徒の育成
- ～人権教育、同和教育の視点に立って～
- 目的を共有し、見通しをもち粘り強く課題に取り組
む生徒の育成
- 認め合い、協力し合い、高め合える生徒の育成
- 心身ともに健康でたくましい生徒の育成
- 新発田や佐々木地区を知り、誇りに思う生徒の育成
- いじめ、差別や偏見を許さない、人の心の痛みが分
かる生徒の育成

7 年度の努力事項

- 「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づ
くり全校体制で取り組む。
- ※新発田市授業スタンダードを活用した、明確な単元
デザインによる主体的・対話的で深い学びの実現
- 全教育活動を支える基盤として、人権感覚を高める
「人権教育、同和教育」を推進する。
- ※新発田市同和教育研究推進事業の取組を生かす。
- 「ふるさとへの愛着と誇り」や「生きる力を育む」
教育活動を意識して指導・支援する。
- ※「しばたの心継承プロジェクト」
- 以上3点を意識し、重点目標、教育目標の達成に努
める。

8 研修・研究

- (1) 研究主題
単元構想図を用いた「深い学び」の実現
～個別最適な学びと協働的な学びの充実～
- (2) 研究内容
 - ①個別最適な学びと協働的な学びを単元内に含めた
単元構想図を作成した上で授業を行い、どのような
個別最適な学び・協働的な学びが深い学びに繋がる
のか検証する。
 - ②単元構想図を作成した単元で一人一授業を公開す
る。
 - ③授業実践を共有する研修会を開く。



豊浦中学校

住 所 新発田市乙次50番地
T E L 0254-24-4492
F A X 0254-24-4450
U R L <https://toyoura.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和50年4月1日

(2) 教職員



校長 小嶋 修



教頭 山本 亘

教諭	16	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	0	非常勤講師	1
介助員	1	用務手	2	調理手	0
A L T	1	S C	1	図書館事務	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	2	2	8
男	22	19	26	4	71
女	28	27	16	1	72
計	50	46	42	5	143

2 地域の概要

- 学区の面積の半分以上が田畑という穀倉地帯であり、東に真木山、西に福島潟を臨む美しく雄大な自然の中に位置している。
- 学区には月岡温泉があり、県内外から多くの観光客が訪れる。
- 保護者の学校への期待は大きく、大変協力的であり生徒の育成を図る教職員の責務は大きい。

3 教育目標

言葉と心のキャッチボール
～Let's play catch
with our words and hearts.～

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- (1) 夢や希望をもち、目標に向かって粘り強く挑戦し続ける生徒の育成
- (2) 物事の善し悪しを判断し、自ら考え、進んで行動できる生徒の育成
- (3) 自他を尊重し、時と場に応じた礼儀正しい言動がとれる生徒の育成
- (4) 豊中生の合言葉「あ（挨拶）じ（時間）さ（作法・礼儀）い（いじめをしない、見逃さない）」を自ら実践していく主体的な生徒の育成

5 学校の経営方針

学校に集う子どもも大人も幸せな学校
～つながりの中で学び、成長する～

- (1) 子どもの笑顔と感動があふれる、安全で安心な学校
- (2) 学校・家庭・地域が連携し、「生きる力」を育む学校
- (3) 保護者や地域から親しまれ信頼される、開かれた学校

6 年度の重点目標

- (1) 確かな学力の育成（知）
- (2) 自他を尊重し、互いに認め合う実践力を高める教育活動の充実（徳）
- (3) 家庭と連携した生活習慣の改善（体）

7 年度の努力事項

- (1) （知）の努力事項
 - ① 生徒の学びを軸に授業を設計する。（単元デザイン）
 - ② 各教科の見方・考え方を働かせて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。
- (2) （徳）の努力事項
 - ① 学級活動のクラスミーティングや議論する道徳科の授業等、自分たちの課題を自分たちの手で解決する場を系統立てて実践する。
 - ② 生徒会スクールネットワーク活動など、自他を尊重し、互いを認め合う場づくりを工夫する。
 - ③ 学校生活や学校行事の中で、生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感を高める活動を充実する。
- (3) （体）の努力事項
 - ① 生活習慣改善ウィークを通して生徒の実態を保護者と共有し、望ましい生活リズムの習慣化を図るため、連携して指導にあたる。
 - ② 生徒会とPTAの合意に基づいて策定した「豊中SNSルール」を基に家庭と連携してSNSの正しい使用等について、継続して働き掛ける。

8 研修・研究

- (1) 研究主題
 - 人権感覚を高め、差別や偏見を許さない態度の育成
 - ～気づき、考え、自分事として捉え、行動する人権教育、同和教育の実践を通して～
- (2) 研究内容
 - ① 学級活動のクラスミーティングや人権教育、同和教育の授業等、自分たちの課題を自分たちの手で解決する場を系統立てて実践する。
 - ② 生徒会スクールネットワーク活動など、自他を尊重し、互いを認め合い高め合う場づくりを工夫する。
 - ③ 学校生活や学校行事の中で、生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感を高める活動を充実させる。



紫雲寺中学校

住 所 新発田市真野原外3499番地
T E L 0254-41-4000
F A X 0254-41-2235
U R L <http://shiunjihs.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和24年4月1日

(2) 教職員



校長 五十嵐めぐみ



教頭 小出 祐一

教諭	13	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	1		
介助員	1	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	2	2	8
男	31	22	30	7	90
女	23	19	25		67
計	54	41	55	7	157

2 地域の概要

- 紫雲寺地域（旧紫雲寺町）は新発田市の北西に位置している。総面積は26.58km²で、約2,000世帯7,000人が居住している。
- 3つの小学校区（紫雲寺、米子、藤塚）から成り立っており、地域は畑や松林に囲まれ、緑豊かな自然環境にある。
- 三世代同居が多く、生徒は家族の中で愛情を受けて育っている。

3 教育目標

『知性・自主・実践・協調』

知性を磨き、自主自立の精神を高め、たくましい実践力を養い、協力して社会の発展に貢献する人間を育成する。

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 多様な他者とのかかわり
 - 自尊感情の中でも特に「自己有用感」を重視することで、自ら学ぶ意欲や課題をよりよく解決しようとする意欲を高める。
 - 様々なかかわりの中でコミュニケーション能力を高め、「誰かの役に立つ」経験を通して、自己有用感を高める。
 - 互いのよさを認め合い、協働して困難を乗り越えることで、たくましさ育てる。
- 人権感覚、自己管理能力
 - 人権感覚を磨き、自分も他人も大切にする気持ちを育てる。
 - 自己決定を重視し、自分の言動に責任をもてる「自己管理能力」を育てる。

5 学校の経営方針

『個のよさを活かす活力ある学校』

- 違いを認め合い、ともに育ち合う学校
- 失敗を糧に成長し、自信と意欲を高める学校
- かかわりを通して、自己有用感を高める学校

※学校は失敗をし、失敗から学び、たくましく成長する場

- 失敗をしても、恥をかいても大丈夫という安心感（心理的安全性）を確保する。
- 生徒同士、生徒と職員の信頼関係を大切にすること。

6 年度の重点目標

- 人権感覚・望ましい社会性（自己有用感・他者と協力して課題解決する力）の育成
- 確かな学力（思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性）の育成

7 年度の努力事項

- 人権感覚・望ましい社会性の育成
 - 生徒がかかわり合って学ぶ学習の工夫
 - 「考え、議論する」道徳の実践
 - 人権教育、同和教育の充実
- 確かな学力（思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）の育成
 - 生徒が主体的に学ぶ授業の実現（新発田市授業スタンダードに基づく授業）
 - 振り返りを生かした授業改善
- 重点目標（知・徳）を支える体力・健康教育
 - メディアコントロールの指導
 - 望ましい生活習慣の確立の指導

8 研修・研究

- 研究主題

「分かった！できた！」を実感し、自ら進んで学ぶ生徒の育成
～生徒が主体的に表現する場面づくりを通して～
- 研究内容
 - 「分かった！できた！」を実感する生徒の育成
 - ア 「分かる喜び」を実感できる授業づくり
 - イ 家庭学習習慣確立に向けた取組
 - 互いに認め合い、高め合う生徒の育成
 - ア 支え合いながら活動し、認め合う場の設定
 - イ 「考え、議論する」道徳の実践
 - ウ 人権教育、同和教育の充実
 - 「主体的に健康づくりに取り組み、生活リズムを整えられる生徒の育成
 - ア メディア使用時間を2時間以内とする取組（生活習慣の改善）
 - イ 「早寝・早起き・朝ご飯」啓発活動



加治川中学校

住 所 新発田市川口330番地
T E L 0254-33-2214
F A X 0254-33-3354
U R L <https://kajikawa-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和55年4月1日

(2) 教職員



校長 堀田 正秀



教頭 藤原 明

教諭	8	養護教諭	1	事務職員	1
助教諭	0	講師	4	補助教員	1
介助員	0	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	2	2	8
男	21	22	15	2	60
女	22	17	20	4	63
計	43	39	35	6	123

2 地域の概要

- (1) 新発田市街と胎内市街の中間に位置し、JR羽越線と国道7号が加治川地域の中央部を南北に縦断し、日本海東北自動車道も整備されている。
- (2) 純農村地域ではあるが、兼業農家の増加、新興住宅地の人口増により変化が起きている。児童・生徒数の減少傾向はわずかである。
- (3) 生徒のしつけや社会的ルール等、全般的に家庭の教育力が高い。地域をあげて教育に対する期待も大きく、健全育成に協力する姿勢がある。

3 教育目標

豊かな知性を育て
きびしく自己をきたえ
高め合う生徒

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- (1) 確かな学力の向上
 - ・「主体的、対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進するために、「かかわり合い」を大切に、一人も独りにしない「ケアの関係」を大切に授業や「わかる」「できる」を実感できる授業づくり
- (2) 社会性や人間関係力の育成
 - ・望ましい人間関係の構築に向け、相手の気持ちを受入れるとともに、自己を大事にした「互いの良さを認め合う心」の意識の醸成
- (3) 将来の生き方を真剣に考えることができる資質・能力の育成
 - ・自己実現のためのキャリア教育や「考え、議論する道徳授業」、いじめ予防、人権教育・同和教育
- (4) たくましく生きるための健康や体力、望ましい生活習慣の形成
 - ・家庭学習の習慣化や質の向上、食と生活の充実に向けた取組

5 学校の経営方針

- 「かかわり合い」を大切に生徒指導と学習指導による、いじめの起きにくい学校づくり
- (1) 授業の充実：全校体制で、「かかわり合い」を取り入れた授業を行い、学び合う授業を展開し、一人一人に学びに向かう力を引き出していく。
また、個々の「わかる」「できる」を大事にした指導と評価を進めていく。
 - (2) 家庭学習の習慣化：中学校区、家庭が連携し「家庭学習の習慣化」に取り組む。
学校評価等で分析し生徒や保護者にフィードバックする。
 - (3) 生徒会活動の充実：「生徒が生徒に働きかける教育効果」を最大限生かす。生徒が「自信の付く事実」を積み上げることで、自己肯定感を育み、次へのエネルギーと生き抜く力を高める。

6 年度の重点目標

目指す生徒像

し 思考し学び合う生徒（「学び合い」）
ば 場と時を大切にする生徒（時間管理能力）
た 大夢を抱く生徒（キャリア教育・道徳教育）
か かかわり合い関係をつくる生徒（人間関係力）
じ 自信の付く事実を積み上げる生徒（3つの喜び）

か かけがえのない自分どう生きるかを問い続ける生徒（道徳教育・キャリア教育）
わ 分からなさを大事にし、分かるまで考え追究する生徒（個の追究姿勢）

※「3つの喜び」①自分の持ち味を生かして人の役に立つ喜び ②自分（たち）で考え決め、成功させる喜び ③仲間と協力してやり遂げる喜び

7 年度の努力事項

- (1) 確かな学力の育成
 - ・「自ら学び、考えを深め合う生徒の育成」を目指した協働的な学びの充実
- (2) 豊かな心を育む教育活動の推進
 - ・年間35時間の「考え議論する道徳授業」の充実
 - ・生徒が生徒に働きかける生徒会活動や自治活動の充実
 - ・道徳を中心に「励ます個人内評価」の取組
- (3) 健やかな心身の育成
 - ・「家庭学習の習慣化」の取組
 - ・食の生活習慣の向上に向けた取組
- (4) しばたの心継承プロジェクトの推進
 - ・生き方授業を通じたキャリア教育の充実
 - ・農家訪問、職業体験、上級学校訪問等の実施

8 研修・研究

- (1) 研究主題

自ら学び、考えを深め合う生徒の育成
～協働的な学びをより充実させるための工夫～
- (2) 研究内容

思考力・判断力・表現力を育成する授業実践

 - ・話し合いや教え合いの場面の効果的設定
 - ・授業のまとめや振り返りの充実
 - ・「自ら考える時間」や「考えを発表する時間」などの確保
 - ・自主性、学習に向かう態度の育成
 - ・生徒にとって「つまづき」のある課題の設定
 - ・終会時にプランニングタイムを設定し、家庭学習の充実
 - ・個別の家庭学習状況の把握と支援

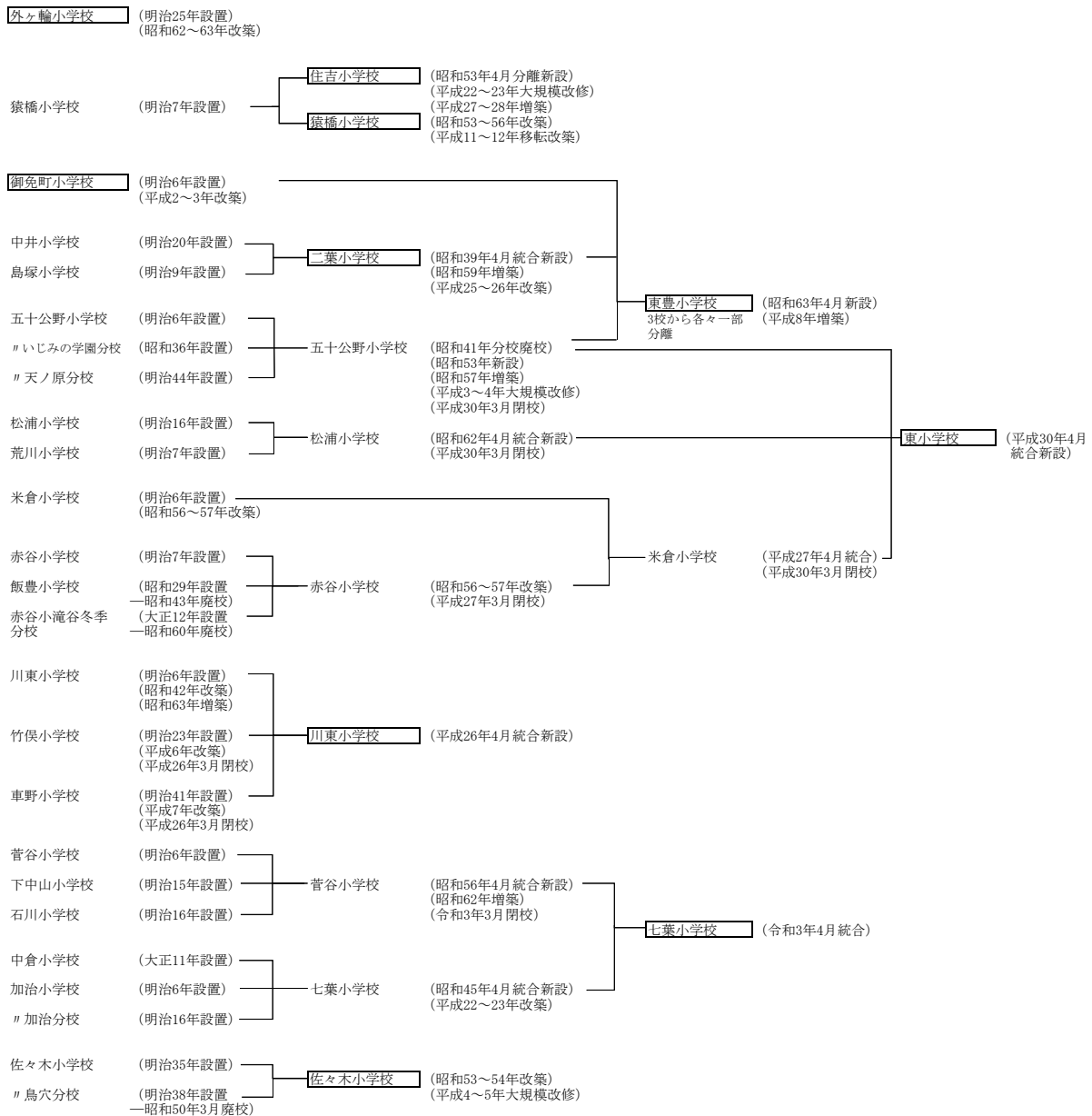
8 市立学校の統廃合、新設、分離の状況

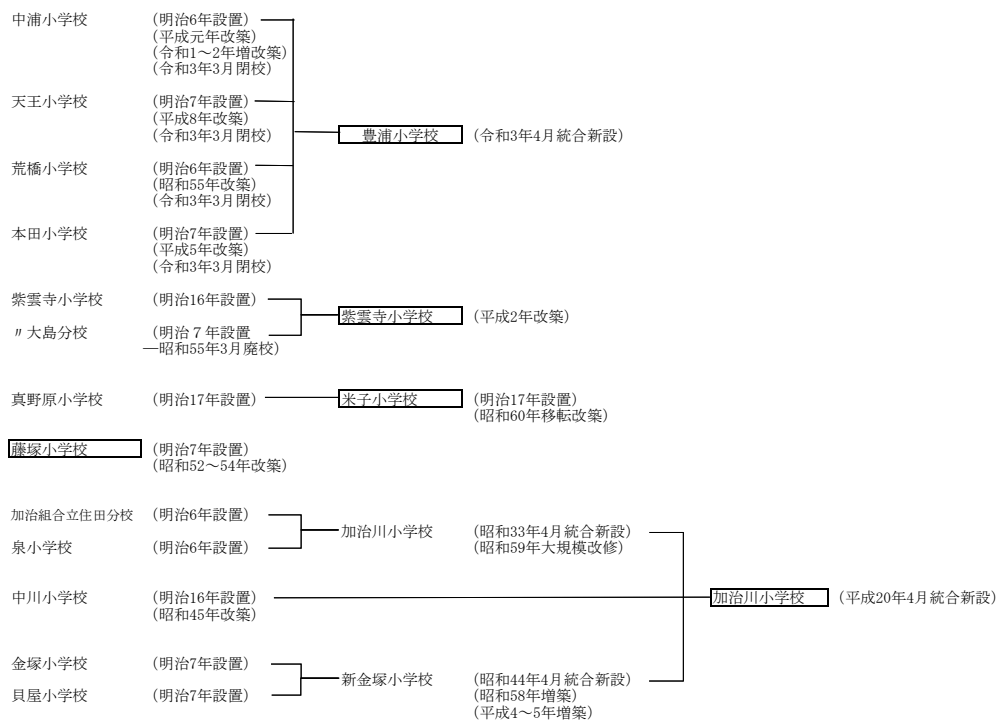
※学校沿革史に基づくもの

【幼稚園】

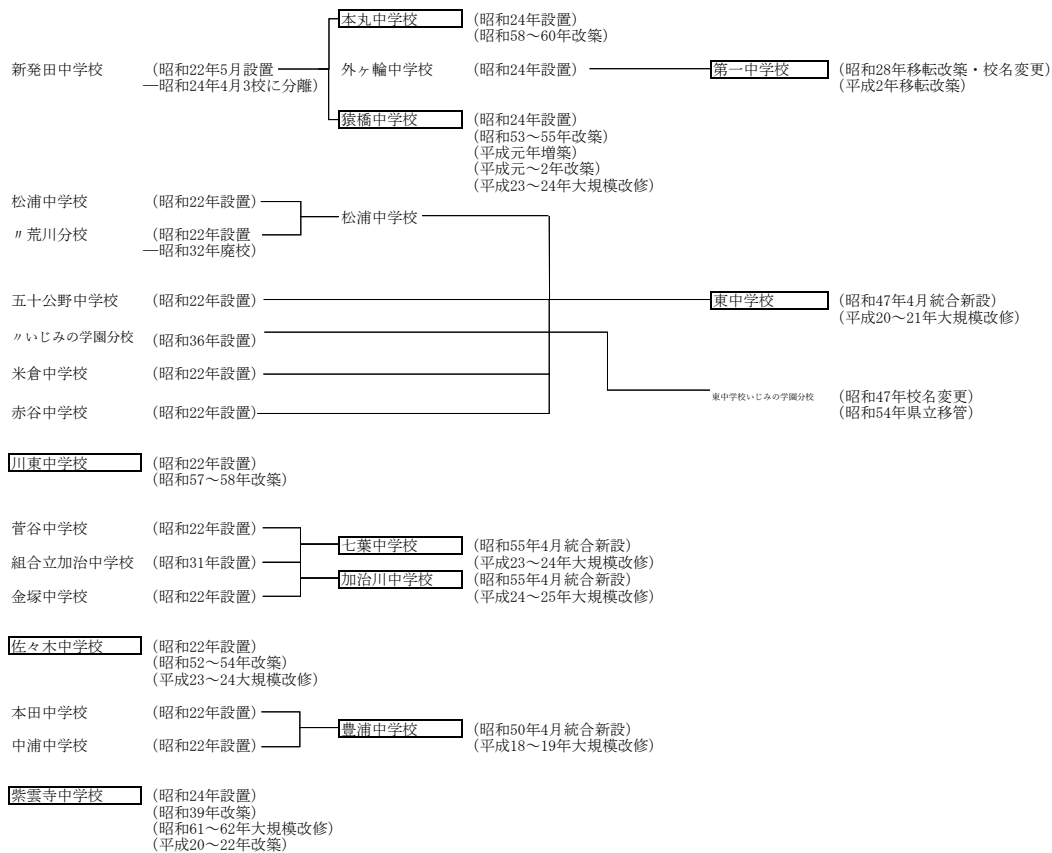
新発田幼稚園	大正8年設置 (昭和44～45年改築) (平成23年3月閉園)
西園幼稚園	(昭和40年設置) (平成17年移転改築) (令和2年3月閉園)
御免町幼稚園	(昭和42年設置) (平成11年移転改築)
加治川幼稚園	(昭和44年4月設置) (令和3年3月閉園)

【小学校】





【中学校】



9 市立教育施設の状況

(令和5年5月1日現在)

	校 舎				屋内体育館				校地面積			プール施設	
	鉄筋 コンクリート	鉄骨 その他	木造	計 (㎡)	鉄筋 コンクリート	鉄骨 その他	木造	計 (㎡)	市有地	借地	計 (㎡)	設置年度	規模 (㎡)
(1) 幼 稚 園													
御免町幼稚園		1,368		1,368					3,000		3,000		
合 計	0	1,368	0	1,368	0	0	0	0	3,000	0	3,000		
(2) 小 学 校													
外ヶ輪小学校	6,129		20	6,149	278	1,404		1,682	28,672		28,672	平成元年度	375
猿橋小学校	6,942	51		6,993	1	1,699		1,700	30,712		30,712	平成12年度	375
御免町小学校	5,575	119	30	5,724	222	1,542		1,764	26,551		26,551	平成3年度	375
二葉小学校	5,281		54	5,335	22	1,142		1,164	25,092		25,092	平成27年度	325
東小学校	5,784			5,784	59	723		782	18,115		18,115	平成30年度	325
川東小学校	3,487			3,487		964		964	16,945		16,945	平成26年度	325
七葉小学校	4,660	8		4,668	150	648		798	16,172		16,172	平成16年度	325
佐々木小学校	3,269	5	35	3,309		704		704	18,262		18,262	昭和44年度	325
住吉小学校	5,626	39		5,665	147	857		1,004	23,014		23,014	昭和52～53年度	325
東豊小学校	5,395		20	5,415	35	1,428		1,463	26,988		26,988	昭和63年度	325
豊浦小学校	3,735		19	3,754	21	825		846	22,947		22,947	平成9年度	335
紫雲寺小学校	4,532		33	4,565	112	1,124		1,236	24,260		24,260	昭和50年度	500
米子小学校	2,559	32	60	2,651	23	995		1,018	24,043		24,043	平成4年度	400
藤塚小学校	2,370			2,370		884		884	21,935		21,935	昭和54年度	400
加治川小学校	4,885		136	5,021	230	1,040		1,270	33,769		33,769	平成20年度	325
合 計	70,229	254	407	70,890	1,300	15,979	0	17,279	357,477	0	357,477		5,360
(3) 中 学 校													
本丸中学校	7,485		23	7,508		1,543		1,543	37,925		37,925		
第一中学校	5,489		45	5,534	263	1,332		1,595	35,245		35,245		
猿橋中学校	6,042		10	6,052	28	2,198		2,226	33,675		33,675		
東中学校	4,756	103		4,859		1,539	26	1,565	38,108		38,108		
川東中学校	2,926	41	20	2,987		1,191		1,191	22,032		22,032		
七葉中学校	3,464	14	28	3,506	11	1,448		1,459	31,762		31,762		
佐々木中学校	2,808		100	2,908		810	10	820	20,591		20,591		
豊浦中学校	4,904	98	72	5,074	41	2,016		2,057	33,096		33,096		
紫雲寺中学校	3,915		66	3,981	2,007			2,007	49,336		49,336		
加治川中学校	3,947	59	20	4,026		1,687		1,687	35,196		35,196		
合 計	45,736	315	384	46,435	2,350	13,764	36	16,150	336,966	0	336,966		0
小・中学校合計	115,965	569	791	117,325	3,650	29,743	36	33,429	694,443	0	694,443		5,360

10 年度別義務教育施設等の整備状況

(単位：千円)

建築年度	小 学 校		中 学 校	
	事 業 名	事 業 費	事 業 名	事 業 費
平成29年度	五十公野小学校仮設校舎建設工事（Ⅳ期分）	16,205	加治川中学校給水管ライニング工事	12,809
	東小学校校舎建設工事（Ⅱ期）	1,225,400	加治川中学校バックネット改築工事	5,335
	東小学校外構、雨水排水工事	95,154	その他中学校施設の工事	12,188
	二葉小学校グラウンド改修工事（Ⅰ期）	46,516		
	住吉小体育館屋根雪対策工事	3,780		
	その他小学校施設の工事	28,148		
	計	1,415,203	計	30,332
平成30年度	東小学校建設事業（仮設校舎解体工事、プール及びグラウンド整備）	304,666	東中学校武道場改築事業	165,501
	住吉小学校グラウンド整備工事	198,012	その他中学校施設の工事	38,933
	二葉小学校グラウンド整備工事（Ⅱ期）	65,988		
	豊浦中学校区統合小学校整備事業	46,336		
	その他小学校施設の工事	32,683		
	計	647,685	計	204,434
令和元年度	東小学校建設事業（グラウンドⅡ期工事）	61,468	中学校エアコン整備事業	218,651
	小学校エアコン整備事業	366,513	その他中学校施設の工事	60,540
	その他小学校施設の工事	31,495		
	計	459,476	計	279,191
令和2年度	豊浦小学校増改築工事	400,207	コロナ感染症対策工事（網戸設置、蛇口レバーハンドル化）	15,957
	コロナ感染症対策工事（網戸設置、蛇口レバーハンドル化）	22,247	中学校エアコン整備工事	23,370
	小学校エアコン整備工事	33,430	中学校トイレ洋式化工事	22,220
	小学校トイレ洋式化工事	40,068	第一中学校防球ネット改修工事	3,421
	その他小学校施設の工事	21,902	その他中学校施設の工事	8,429
	計	517,854	計	73,397
令和3年度	藤塚小学校下水道接続工事	16,280	加治川中学校ランチルームエアコン取替工事	2,431
	猿橋小学校体育館防水工事	3,311	豊浦中学校テニスコート整備工事	2,475
	小学校遊具設置工事	4,912	七葉中学校多目的トイレ設置工事	3,168
	小学校特別教室エアコン整備工事	261,556	中学校特別教室エアコン整備工事	273,441
	小学校トイレ洋式化工事	130,524	中学校トイレ洋式化工事	87,121
	その他小学校施設の工事	19,165	その他中学校施設の工事	6,344
	計	435,748	計	374,980
令和4年度	体育館照明器具落下防止対策工事	129,120	猿橋中学校グラウンド整備工事	178,046
	豊浦小学校グラウンド整備工事	69,564	体育館照明器具落下防止対策工事	99,757
	吊下式バスケットボール撤去・落下防止工事	55,218	吊下式バスケットゴール撤去・落下防止工事	34,650
	紫雲寺小学校エレベーター改修工事	26,400	本丸中学校公共下水道接続工事	12,837
	二葉小学校・加治川小学校トイレ洋式化工事	2,162	加治川中学校トイレ洋式化工事	2,057
	その他小学校施設の工事	30,832	その他中学校施設の工事	35,797
	計	313,296	計	363,144

1 1 学校給食の状況

(1) 調理場施設（令和5年4月1日現在）

調理場名	開設年月	面積 最大調理食数	給食対象校
七葉共同調理場	平成24年4月	952㎡ 900食／日	七葉小、加治川小、 七葉中、加治川中
川東共同調理場	平成11年4月	450㎡ 700食／日	川東小、川東中、 新潟県立新発田竹俣特別支援学校
五十公野共同調理場	平成28年8月	1,326㎡ 1,000食／日	東小、東中、豊浦中、 新潟県立新発田竹俣特別支援学校いじみの校
北共同調理場	平成10年4月	1,304㎡ 2,500食／日	外ヶ輪小、二葉小、東豊小、豊浦小、 本丸中、第一中
紫雲寺共同調理場	平成23年8月	1,005㎡ 800食／日	紫雲寺小、米子小、藤塚小、 紫雲寺中
西共同調理場	平成18年4月	1,864㎡ 2,800食／日	猿橋小、御免町小、佐々木小、住吉小、 猿橋中、佐々木中、御免町幼稚園

(2) 調理業務等の民間委託状況（令和5年4月1日現在）

調理場名	業務内容	受託業者
七葉共同調理場	配送	(株)大通、(有)小柳
川東共同調理場	配送	(株)大通
五十公野共同調理場	調理	葉隠勇進(株)
	配送	(有)小柳、(株)大通
北共同調理場	調理	葉隠勇進(株)
	配送	(株)大通、新発田運輸(株)
紫雲寺共同調理場	調理及び配送	特定非営利活動法人ネットワークこころ
西共同調理場	調理	(株)メフォス
	配送	(株)大通

(3) 各調理場の食数と給食業務従事職員の配置状況（令和5年4月1日現在）（単位：人）

調理場名	食数	調理手			事務 パート	運搬 パート	代替 パート	栄養教諭等 ※2
		正規	臨時	パート				
七葉共同調理場	810	8		7		3	6	1
川東共同調理場	410	4		4		1	2	1
五十公野共同調理場	880	※1				2		1
北共同調理場	2,580	※1			1	6		2
紫雲寺共同調理場	550	※1				4		1
西共同調理場	2,720	※1			1	4		2
合計	7,950	12	0	11	2	20	8	8

※1 五十公野、北、紫雲寺、西共同調理場は調理業務を民間事業者に委託

※2 栄養教諭は県職員

(4) 学校給食費の状況

区分	学校数	一食単価	年間給食平均回数				年間給食費 (一人当たり平均)
			米飯 給食	パン 給食	麺 給食	計	
小学校	15校	305円	154	18	18	190	57,950円
中学校	10校	366円	154	18	18	190	69,540円
計	25校	—	—	—	—	—	

(5) 学校給食における地場産農産物使用割合(令和4年度4月～12月実績)(単位: %)

		市内産	県内産	国内産	外国産	合計
品 目ベース		40.8	17.0	38.2	4.0	100.0
	穀類	75.8	4.8	—	19.4	100.0
	野菜類	35.9	15.2	48.5	0.4	100.0
	芋類	31.6	4.3	64.1	—	100.0
	きのこ類	11.2	88.3	0.5	—	100.0
	果物類	100.0	—	—	—	100.0
	豆腐類	78.8	—	—	21.2	100.0
	肉類	12.5	50.5	37.0	—	100.0
	その他	100.0	—	—	—	100.0
使用量ベース		50.5	10.7	33.3	5.5	100.0
金 額ベース		43.0	17.9	30.8	8.3	100.0

1 2 園児・児童・生徒・学級数等一覧

(幼稚園)

(令和5年5月1日現在)

区分 園名	3 歳 児				4 歳 児				5 歳 児				合 計			
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数
御免町幼稚園	3	2	5	1	3	2	5	1	3	6	9	1	9	10	19	3

(小 学 校)

(令和5年5月1日現在)

区分 学校名	1 年				2 年				3 年				4 年				5 年				6 年				合 計			
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数
外ヶ輪小学校	2	1	3		2	1	3		5	2	7		3	2	5		5	2	7		2		2		19	8	27	4
	27	23	50	2	27	26	53	2	18	18	36	2	32	24	56	2	24	22	46	2	33	36	69	2	161	149	310	12
猿橋小学校	7	3	10		1	1	2		13	1	14		10	1	11		12	4	16		4	4	8		47	14	61	10
	41	49	90	3	36	45	81	3	41	55	96	3	45	50	95	3	38	53	91	3	59	42	101	3	260	294	554	18
御免町小学校	7	2	9		3	3	6		4	6	10		2	3	5		5	3	8		1	5	6		22	22	44	8
	36	34	70	3	37	44	81	3	33	34	67	3	31	41	72	3	35	40	75	3	28	32	60	2	200	225	425	17
二葉小学校	4	1	5		4	2	6		1	5	6		3	3	6		4	2	6		3	2	5		19	15	34	5
	26	22	48	2	25	28	53	2	23	19	42	2	29	24	53	2	20	23	43	2	21	26	47	2	144	142	286	12
東小学校	3	1	4		5		5		6	2	8		6	2	8		2	1	3		7	2	9		29	8	37	7
	19	23	42	2	23	23	46	2	20	29	49	2	30	31	61	2	29	29	58	2	25	37	62	2	146	172	318	12
川東小学校					1	1	2		1	1	2							1	1						2	3	5	2
	10	11	21	1	10	9	19	1	15	14	29	1	13	12	25	1	12	10	22	1	21	16	37	2	81	72	153	7
七葉小学校	2		2		3	1	4		7		7		2	1	3		4		4		7	1	8		25	3	28	5
	18	12	30	1	23	18	41	2	18	23	41	2	19	18	37	2	13	16	29	1	21	15	36	2	112	102	214	10
佐々木小学校	2		2		2		2		1		1			2	2						2		2		7	2	9	2
	10	5	15	1	14	7	21	1	15	10	25	1	8	5	13	1	9	12	21	1	13	9	22	1	69	48	117	6
住吉小学校	5	1	6		3	1	4		7	2	9		9	2	11		3	4	7		3	1	4		30	11	41	8
	45	31	76	3	45	42	87	3	40	41	81	3	38	54	92	3	50	63	113	4	42	36	78	3	260	267	527	19
東豊小学校	3	1	4		4	2	6		3	2	5		4	1	5		2	2	4		6	4	10		22	12	34	5
	40	40	80	3	44	53	97	4	43	49	92	3	33	50	83	3	47	44	91	3	42	38	80	3	249	274	523	19
豊浦小学校	3	2	5		8	1	9		3	2	5		2		2		3		3		1		1		20	5	25	4
	15	21	36	2	20	23	43	2	26	21	47	2	26	23	49	2	27	26	53	2	26	31	57	2	140	145	285	12
紫雲寺小学校	3		3		2		2		1		1		4	1	5		2		2		4		4		16	1	17	3
	8	12	20	1	8	11	19	1	10	13	23	1	12	10	22	1	11	15	26	1	10	12	22	1	59	73	132	6
米子小学校					1		1						1		1			1	1		1		1		3	1	4	2
	8	6	14	1	3	4	7	1	6	4	10	1	6	5	11	1	4	6	10	1	6	4	10	1	33	29	62	6
藤塚小学校									1	1	2		1		1		2		2		1		1		5	1	6	2
	7	7	14	1	5	5	10	1	8	8	16	1	12	9	21	1	7	2	9	1	11	13	24	1	50	44	94	6
加治川小学校	8		8		3	2	5		4	2	6		4	1	5		8	2	10		2		2		29	7	36	5
	12	18	30	1	12	11	23	1	15	16	31	1	13	13	26	1	18	17	35	2	22	27	49	2	92	102	194	8
合 計	49	12	61		42	15	57		57	26	83		51	19	70		52	22	74		44	19	63		295	113	408	72
	322	314	636	27	332	349	681	29	331	354	685	28	347	369	716	28	344	378	722	29	380	374	754	29	2,056	2,138	4,194	170

※ 2段書きの上段の数値は特別支援学級在籍生徒数であり、下段の数値は通常学級生徒・児童数である。

(中 学 校)

(令和5年5月1日現在)

区分 学校名	1 年				2 年				3 年				合 計			
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数
本 丸 中 学 校	9	1	10		3		3		4	4	8		16	5	21	4
	73	87	160	5	89	73	162	5	81	78	159	5	243	238	481	15
第 一 中 学 校	4		4		1	2	3		6	1	7		11	3	14	2
	71	63	134	4	39	60	99	3	48	59	107	4	158	182	340	11
猿 橋 中 学 校	17	6	23		10	2	12		11	3	14		38	11	49	9
	87	91	178	6	87	99	186	6	97	83	180	6	271	273	544	18
東 中 学 校	5	1	6		4	2	6		3		3		12	3	15	3
	38	33	71	3	35	30	65	2	36	27	63	2	109	90	199	7
川 東 中 学 校	1	1	2		1	1	2						2	2	4	1
	7	13	20	1	10	9	19	1	22	20	42	2	39	42	81	4
七 葉 中 学 校	4		4		2		2						6		6	1
	19	21	40	2	13	22	35	2	22	19	41	2	54	62	116	6
佐々木中学校		2	2						1		1		1	2	3	1
	3	10	13	1	12	5	17	1	4	14	18	1	19	29	48	3
豊 浦 中 学 校	2	1	3						2		2		4	1	5	2
	22	28	50	2	19	27	46	2	26	16	42	2	67	71	138	6
紫雲寺中学校	3		3						4		4		7		7	2
	31	23	54	2	22	19	41	2	30	25	55	2	83	67	150	6
加 治 川 中 学 校	1	1	2		1	1	2			2	2		2	4	6	2
	21	22	43	2	22	17	39	2	15	20	35	2	58	59	117	6
合 計	46	13	59		22	8	30		31	10	41		99	31	130	27
	372	391	763	28	348	361	709	26	381	361	742	28	1,101	1,113	2,214	82

※ 2段書きの上段の数値は特別支援学級在籍生徒数であり、下段の数値は通常学級生徒・児童数である。

1 3 教員・児童・生徒数の推移

(単位：人、学級)

区 分		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
小学校	教員数	338	359	354	357	356	362	368	342	347	340
	児童数	4,864	4,798	4,725	4,828	4,830	4,797	4,817	4,790	4,764	4,602
	学級数	245	242	241	248	248	252	258	246	249	242
中学校	教員数	207	221	213	211	209	212	214	213	206	214
	生徒数	2,668	2,623	2,479	2,375	2,328	2,355	2,360	2,358	2,279	2,344
	学級数	105	107	105	103	105	104	108	108	104	109

※教員数は、学校基本調査に基づき当該年度の5月1日における校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭、講師、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭の人数とし、産休、育休、休職、派遣・長期研修、組合専従者は含まない。

1 4 特別支援学級設置状況の推移

(単位：人、学級)

区分		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度	
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級
小学校	知的	71	16	71	17	70	15	90	19	105	23	116	26	130	27	153	26	174	31	167	28
	難聴													1	1	1	1	1	1	2	1
	肢体	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	3	2	7	5	7	5	7	5
	病弱									3	1	3	1	2	1	2	1	1	1		
	弱視	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1	2	1
	情緒	145	28	151	30	154	31	167	33	173	35	200	37	215	39	220	36	218	36	230	37
	小計	219	47	224	49	226	48	259	54	282	60	322	66	352	71	384	70	402	75	408	72
中学校	知的	38	9	32	9	40	10	39	11	54	13	56	11	58	12	53	11	40	9	48	11
	難聴													1	1	1	1	1	1		
	肢体	1	1							1	1	1	1	1	1	1	1				
	病弱																			2	1
	弱視									1	1	1	1	1	1						
	情緒	62	11	64	13	60	13	60	13	65	13	64	13	63	14	73	14	64	14	80	15
	小計	101	21	96	22	100	23	99	24	121	28	122	26	124	29	128	27	105	24	130	27
合計		320	68	320	71	326	71	358	78	403	88	444	92	476	100	512	97	507	99	538	99

15 いじめ・不登校の推移

いじめの発生件数（認知件数）の推移

年度	新発田市小学校	1校あたりの件数	新潟県小学校	1校あたりの件数	新発田市中学校	1校あたりの件数	新潟県中学校	1校あたりの件数
平成25年度	40件	1.66件	576件	1.1件	57件	5.7件	713件	3.1件
平成26年度	41件	1.86件	721件	1.5件	60件	6.0件	656件	2.8件
平成27年度	54件	2.57件	1,685件	3.5件	68件	6.8件	1,138件	4.8件
平成28年度	33件	1.57件	7,897件	16.8件	39件	3.9件	1,746件	7.9件
平成29年度	47件	2.24件	14,882件	32.4件	27件	2.7件	2,339件	10.3件
平成30年度	88件	4.63件	15,399件	33.1件	44件	4.4件	2,343件	9.9件
令和元年度	304件	16.00件	16,859件	37.7件	110件	11.0件	2,688件	12.1件
令和2年度	392件	20.63件	14,611件	33.0件	98件	9.8件	1,968件	8.6件
令和3年度	361件	24.07件	17,997件	40.8件	163件	16.3件	2,393件	10.4件
令和4年度	397件	26.47件			176件	17.6件		

* 1校あたりの件数＝発生件数（認知件数）÷学校数 令和4年5月1日現在 新潟県の小学校数441校 中学校数230校

* 平成18年度から文部科学省の「いじめの定義」が変わり、「発生件数」から「認知件数」に変更になった。そのため、本人の訴えがあったのものはすべて件数に含めている。

* 平成24年度は文部科学省のいじめの緊急調査があり、いじめについて積極的に認知していこうということから大幅増になっている。

* 平成26年度は文部科学省のいじめの再調査があり、件数は再調査後の修正した数値である。

* 平成27年度は、平成26年の「いじめ防止対策推進法」制定の趣旨を踏まえた文部科学省通知により、より厳しく認知したため増加している。

* 令和4年度の県は未発表

不登校児童生徒数の推移

年度	新発田市小学校	発生率	新潟県小学校	発生率	新発田市中学校	発生率	新潟県中学校	発生率
平成25年度	7名	0.14%	403名	0.34%	65名	2.35%	1,676名	2.64%
平成26年度	13名	0.26%	435名	0.38%	65名	2.43%	1,673名	2.68%
平成27年度	11名	0.22%	456名	0.40%	68名	2.59%	1,614名	2.67%
平成28年度	18名	0.35%	473名	0.43%	78名	3.15%	1,696名	2.88%
平成29年度	15名	0.31%	560名	0.51%	74名	3.12%	1,759名	3.04%
平成30年度	22名	0.45%	701名	0.64%	81名	3.48%	1,935名	3.38%
令和元年度	23名	0.47%	777名	0.72%	82名	3.48%	2,003名	3.55%
令和2年度	39名	0.18%	969名	0.93%	80名	3.21%	2,143名	3.99%
令和3年度	51名	1.08%	1,195名	1.15%	108名	4.22%	2,659名	4.78%
令和4年度	59名	1.24%			140名	6.14%		

* 発生率（欠席30日以上）＝不登校児童生徒数÷在籍児童生徒数×100

* 令和4年度の県の件数は未発表

1 6 社会教育関係施設一覧

施 設 名	所 在 地	電 話
住吉教育集会所	住吉町2-3-30	26-5984
紫雲寺漁村民俗資料館	藤塚浜3585-110	22-9534 (文化行政課文化行政係)
加治川展示室	下小中山1107	26-2163 (文化行政課埋蔵文化財係)
市立中央図書館	諏訪町1-2-12 (新発田駅前複合施設イクネスしばた内)	22-2418
市立歴史図書館	中央町4-11-27	24-2100
新発田地区公民館 (生涯学習センター)	中央町5-8-47	22-8516
五十公野分館 (五十公野コミュニティセンター)	五十公野4930-1	26-8139
松浦分館 (松浦農村環境改善センター)	法正橋676	26-3392
米倉分館 (米倉農村環境改善センター)	米倉1419	28-5204
赤谷分館	上赤谷2689	28-2341
川東分館 (川東コミュニティセンター)	下羽津1908	25-2025
菅谷分館 (菅谷コミュニティセンター)	菅谷3350	29-2002
加治分館 (七葉コミュニティセンター)	三日市862	24-0778
佐々木分館 (佐々木コミュニティセンター)	則清956-1	27-6627
青少年宿泊施設 (あかたにの家)	上赤谷2173	28-2116
豊浦地区公民館	乙次26-2	22-2081
紫雲寺地区公民館	稲荷岡2371	41-2291
加治川地区公民館	住田501	33-2433
中川分館	押廻1447	22-0657
生涯学習センター (新発田地区公民館)	中央町5-8-47	26-7191
市民文化会館	中央町4-11-7	26-1576
青少年健全育成センター 児童センター	緑町2-6-36	26-0897

1 7 指定文化財一覧

令和5年6月1日現在

区分	番号	種別	名 称	員 数	指定年月日	所 在 地	所有者(管理者)	備 考
国	うち重要文化財	1	建 新発田城表門・旧二の丸隅櫓 附 表門板札、隅櫓棟札	2棟	昭和32年6月18日	大手町6	文部科学省 (新発田市)	表門享保17年 (1732) 隅櫓寛文8年 (1668)
		2	建 旧新発田藩足軽長屋	1棟	昭和44年12月18日	諏訪町3	(一財) 北方文化博物館	天保13年 (1842)
		3	考 新潟県村尻遺跡出土品	土偶形容器 1点 土器14点 骨垂飾2点 附石片1点	平成25年6月19日	新潟県立歴史 博物館 (長岡市関原町1)	新発田市 (新潟県立歴史博物館)	弥生前期～中期
		4	史 奥山荘城館遺跡 金山城跡	4遺跡	平成6年3月30日	金山	個人、国、新潟県、 新発田市	鎌倉期～室町期
		5	名 旧新発田藩下屋敷 (清水谷御殿) 庭園 および五十公野御茶屋庭園		平成15年8月27日	大栄町7 五十公野	(一財) 北方文化博物館、 新発田市・豊田神社	下屋敷寛文6年 (1666) 庭園文化11年 (1814)
		6	天 椽平サクラ樹林	1,000本以上	昭和9年1月22日	貝屋	国 (農林水産省)	
		7	天 ヤマネ		昭和50年6月26日			
		8	天 ヒシクイ		昭和46年6月28日			
		9	天 マガン		昭和46年6月28日			
		10	特天 カモンシカ		昭和30年2月15日	飯豊山地		
県	1	建 市島家住宅	12棟1構	昭和37年3月29日	天王	新発田市	江戸末期～明治期	
	2	彫 木造薬師如来立像	1軀	昭和33年3月5日	西名柄	龍蔵寺	鎌倉前期	
	3	彫 木造地藏菩薩立像 附 地藏尊縁起1巻	1軀	平成28年3月25日	諏訪町2	宝光寺	鎌倉期	
	4	古 市島家文書	16,528点	昭和47年3月28日	新潟県立文書館 (新潟市中央区女池南)	新発田市	近世	
	5	古 正保越後国絵図 (元禄年間写) 附 古絵図 3 鋪	1鋪	平成8年3月29日	中央町4	市立歴史図書館	江戸中期	
	6	古 新発田藩資料	5,848点	令和3年3月26日	中央町4	新発田市	江戸期	
	7	考 大沢経塚出土品	一括	昭和56年3月27日	小舟町2	大沢区ほか5区 (市教育委員会)	平安後期	
	8	考 鉦鼓	1口	昭和57年3月26日	福島	個人	鎌倉後期 (正和元年)	
	9	考 山草荷遺跡出土品	45点	令和3年3月26日	小舟町2	新発田市	弥生中期	
	10	歴 旧新発田町上水道敷設関係資料	一括48点	平成15年3月28日	下内竹	新発田市	近現代 (明治末期 ～昭和中期)	
	11	風慣 ショウキ祭り (浦の正貴祭り)		平成17年3月25日	浦	力行講社講中	明治後期	
	12	天 貝屋のお葉附イチョウ樹	2本	昭和31年3月23日	貝屋	個人		
市	1	建 宝光寺山門 附 棟札、山門絵図	1棟	昭和50年8月1日	諏訪町2	宝光寺	弘化2年 (1845)	
	2	建 旧新発田藩石黒家住宅	1棟	平成11年8月4日	大栄町7	(一財) 北方文化博物館	江戸後期	
	3	建 紫雲閣 (旧白勢家観音堂)	1棟	平成23年12月7日	中央町1	個人	明治35年 (1902)	
	4	建 宝光寺経蔵	1棟	平成27年4月3日	諏訪町2	宝光寺	江戸期	
	5	建 菅谷寺本堂及び山門 附 本堂棟札、山門棟札、山門版木	本堂1棟 山門1棟 本堂棟札2枚 山門棟札2枚 山門版木1枚	平成27年4月3日	菅谷	菅谷寺	江戸期	
	6	建 間藤家住宅 主屋及び土蔵並びに門小 屋 附 主屋棟札及び土蔵棟札	主屋1棟 土蔵1棟 門小屋1棟 主屋棟札1枚 土蔵棟札1枚	平成28年4月5日	古田	個人	江戸末期、明治期	
	7	絵 新発田藩歴代藩主肖像画	13幅	昭和49年3月15日	諏訪町2、 中央町2	宝光寺、 託明寺	江戸期	
	8	絵 陣立図屏風	1双	昭和52年4月9日	中央町4	市立歴史図書館	江戸期	

区分	番号	種別	名 称	員 数	指定年月日	所 在 地	所有者(管理者)	備 考
市	9	彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	昭和52年4月9日	諏訪町2	宝光寺	鎌倉期
	10	彫	木造十一面観音坐像	1軀	昭和57年7月8日	下中	若宮八幡宮	鎌倉期
	11	工	銅製孔雀文磬	1面	平成6年1月5日	岡田	法音寺	鎌倉期
	12	工	諏訪神社神輿	2基	平成29年5月2日	諏訪町2	諏訪神社	江戸期・明治期
	13	古	聿修碑	1基	昭和49年11月13日	上赤谷	上赤谷区	宝永7年 (1710)
	14	古	竹前家文書	21点	平成17年5月1日	米子	個人	江戸中期
	15	古	神田家文書	11点	平成17年5月1日	大中島	個人	江戸中期～後期
	16	古	宮川家文書	13点	平成17年5月1日	中央町4	個人	江戸中期～後期
	17	古	伊藤家文書	11点	平成17年5月1日	住田	個人	江戸期
	18	考	板山中野遺跡出土品	5個	昭和49年3月15日	下小中山、 住吉町1	市教育委員会	縄文後期
	19	考	蔵光十二林遺跡出土品	3個	昭和55年3月27日	蔵光	個人	縄文後期
	20	考	法音寺大日堂五輪塔	1基	昭和63年2月24日	岡田	法音寺	鎌倉末期
	21	考	蛭取橋遺跡出土古墳時代木製品	7点	平成22年12月2日	下小中山	市教育委員会	古墳後期
	22	考	宝積寺館跡出土墨書板碑	1点	平成22年12月2日	住吉町1	市教育委員会	室町期～戦国期 (16世紀中頃)
	23	歴	菅谷寺算額	1面	昭和50年3月31日	菅谷	菅谷寺	享和元年 (1801)
	24	歴	白勢検校遺品	5点	昭和51年3月23日	諏訪町3	個人	江戸後期
	25	歴	新発田藩学資料	3,250点	昭和51年3月23日	中央町4	市立歴史図書館	江戸期
				6点	追加昭和52年4月9日	中央町4	市立歴史図書館	
				2点	追加昭和52年4月9日	中央町4	豊田神社	
	26	歴	丹羽伯弘資料	214点	昭和52年4月9日	中央町4	市立歴史図書館	江戸後期
	27	歴	藤戸神社算額	1面	昭和54年2月7日	大栄町7	藤戸神社 (「一財」北方文化博物館)	明治33年 (1900)
	28	歴	上館八幡宮算額	1面	昭和55年3月27日	上館	八幡宮	文政12年 (1829)
	29	歴	丸田正通和算資料	115点	昭和56年3月25日	中央町4	市立歴史図書館	江戸後期
	30	歴	新発田藩版の版木	1,192枚	平成21年3月4日	諏訪町2、 中央町4	宝光寺、 市立歴史図書館	江戸期
	31	歴	奉先堂扁額	1面	平成22年12月2日	中央町4	豊田神社	江戸期
	32	歴	新発田藩主溝口家花押印、印章 及び丹羽長重印章	30顆	平成22年12月2日	中央町4、 五十公野	豊田神社	江戸期
	33	歴	赤穂四十七士木像及び長徳寺義士堂 附「義士堂」扁額、天井書画、堀部 安兵衛銅像、「萬山不重」額	47軀 1棟	平成26年1月8日	大栄町2	武庸会、長徳寺	赤穂四十七士木像 明治以前 長徳寺義士堂 昭和4年
	34	歴	五十公野館跡出土 観音立像	1体	平成31年3月5日	小舟町2	新発田市	中世
市	35	有民	しばた台輪 附 額面纏、纏、幣束	台輪6基 額面纏など10点 纏1点	昭和47年6月1日 追加平成3年4月3日 追加平成22年3月3日	諏訪町1、御幸 町1、大栄町2、 大栄町7、諏訪 町1	上町町内会、下町町内 会、四之町町内会、三 之町町内会、両町町内 会、泉組台輪保存会	江戸期
	36	有民	職人町額面纏	1点	平成3年4月3日	御幸町1	職人町町内会	江戸期

区分	番号	種別	名 称	員 数	指定年月日	所 在 地	所有者(管理者)	備 考
	37	無民	職人町獅子舞		平成12年8月17日	御幸町1	職人町獅子保存会	享保17年（1732）
	38	無民	稲荷岡神楽		平成17年5月1日	稲荷岡地区	稲荷岡神楽保存会	
	39	無民	五ヶ字神楽		平成17年5月1日	五ヶ字地区	五ヶ字神楽連	
	40	無民	下小中山獅子舞		平成17年5月1日	下小中山	下小中山獅子組	
	41	史	旧会津街道一里塚	1基	昭和48年1月19日	上赤谷	市教育委員会	江戸期
	42	史	新発田城跡	1構	平成14年1月7日	大手町6	財務省、 新発田市	江戸期
	43	史	新発田藩主溝口家墓所		平成21年3月4日	諏訪町2	個人 (宝光寺)	江戸期
	44	史	加治城跡	1構	平成28年4月5日	黒岩・東宮内	新発田市他 9 名	中世
	45	史	溝口勝政墓	1基	平成22年12月2日	中央町2	個人 (託明寺)	安土桃山期
	46	天	滝沢のミズバショウ群落		平成15年7月7日	滝沢	滝沢地区	
	47	天	旧会津街道松並木	アカマツ13本	平成26年1月8日	大槻	市教育委員会	江戸期

(種別)

【特天】特別天然記念物・【建】建造物・【絵】絵画・【彫】彫刻・【工】工芸品・【古】古文書・【考】考古資料・【歴】歴史資料
【有民】有形民俗文化財・【無民】無形民俗文化財・【風慣】風俗慣習・【史】史跡・【名】名勝・【天】天然記念物

1 8 国登録文化財一覧

種別	番号	名 称	登録年月日	所 在 地	所有者(管理者)	備 考
有	1	石崎家住宅（石泉荘）離れ座敷	平成19年10月2日	諏訪町3	個人	明治38年
有	2	石崎家住宅（石泉荘）茶室	平成19年10月2日	諏訪町3	個人	明治28年
名	3	旧石崎氏庭園（石泉荘庭園）	平成23年9月21日	諏訪町3	個人	明治期
有	4	吉原写真館	平成29年10月27日	大手町2	個人	昭和11年 昭和47年増築
有	5	平久呉服店店舗兼主屋	平成29年10月27日	御幸町1	個人	昭和10年頃 昭和57年改修
有	6	長徳寺本堂	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	嘉永3年（1850） 昭和59年改修
有	7	長徳寺庫裏	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	明治中期
有	8	長徳寺行在所	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	大正10年移築
有	9	長徳寺鐘楼	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	昭和前期
有	10	長徳寺山門及び塀	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	天保12年（1841）
有	11	三光寺本堂	平成29年10月27日	諏訪町2	三光寺	大正5年 平成11年改修
有	12	顕法寺本堂	平成29年10月27日	大栄町2	顕法寺	明治43年 平成15年改修
有	13	すきやき八木店舗	平成30年11月2日	中央町3	個人	昭和10年頃/昭和15年増 築、 昭和49年・平成15年改修
有	14	肥田野家住宅主屋	平成30年11月2日	米倉	個人	大正10年/昭和前期・ 平成2年・同18年改修
有	15	旧村山家別邸（苔香荘苔松庵）	令和元年12月5日	中央町 1	個人	明治前期 昭和42年改修
有	16	旧武者家別邸（苔香荘武者亭）	令和元年12月5日	中央町 1	個人	明治中期/大正14年増築 平成21年移築
有	17	長願寺本堂	令和元年12月5日	下興野	長願寺	寛永3年 昭和42年改修
有	18	長谷川家住宅双子蔵	令和3年2月26日	大栄町7	個人	明治中期

(種別)

【有】登録有形文化財（建造物）・【名】登録記念物（名勝地）

1 9 社会教育施設利用状況

(1) 青少年宿泊施設「あかたにの家」

年度	利用団体数 (単位：件)			利用者数 (単位：人)		
		市内	市外		宿泊	日帰り
H30	95	90	5	2,813	1,153	1,660
R1	93	85	8	3,219	1,630	1,589
R2	29	27	2	700	93	607
R3	44	40	4	1,633	156	1,477
R4	52	49	3	1,593	112	1,481

(2) 学校開放（特別教室）

(単位：人)

学 校 名	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数
外ヶ輪小学校	96	1,924	91	2,189	76	1,294	65	897	85	1,251
猿橋小学校	0	0	0	0	2	110	1	25	42	1,118
御免町小学校	104	2,004	82	1,305	0	0	0	0	0	0
紫雲寺中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	200	3,928	173	3,494	78	1,404	66	922	127	2,369

2 0 文化財公開状況

(1) 新発田城（国指定重要文化財建造物・市指定史跡）

(単位：人)

年度	日数	市 内	市 外	計	備 考
H30	259	6,000	41,992	47,992	4/1～11/30、3/17～31毎日公開
R1	255	6,130	47,649	53,779	4/1～11/30、3/21～31毎日公開
R2	229	4,808	27,329	32,137	4/1～4/17、5/11～11/30、3/24～31毎日公開
R3	251	5,246	31,848	37,094	4/1～11/30、3/25～31毎日公開（9/3～9/16は、建物内の公開を休止）
R4	252	6,246	40,028	46,274	4/1～11/30、3/24～31毎日公開

(2) 五十公野御茶屋庭園（国指定名勝）

(単位：人)

年度	日 数	市 内	市 外	計	備 考
H30	212	1,283	1,092	2,375	4/1から11/30まで月曜日を除く毎日公開 茶会等利用団体3件
R1	213	1,395	1,556	2,951	4/1から11/30まで月曜日を除く毎日公開 茶会等利用団体2件
R2	188	1,025	1,064	2,089	4/1から4/17まで、5/12から11/30まで月曜日を除く毎日公開
R3	209	709	382	1,091	4/1から9/2まで、9/17から11/30まで月曜日を除く毎日公開 茶会等利用団体1件
R4	209	1,082	275	1,357	4/1から11/30まで月曜日を除く毎日公開 茶会等利用団体5件

2 1 令和4年度図書館運営実績

1 蔵書数

(1) 図書館資料（中央図書館・分館・分室・配本所）

項目 分類			受入数		除籍数	蔵書数	構成比
			受入	（うち寄贈）			
図書受入・ 除籍及び 蔵書数	0	総 記	558	281	56	19,452	6.21%
	1	哲 学	281	28	18	9,043	2.88%
	2	歴 史	802	138	231	25,572	8.16%
	3	社会科学	1,136	117	119	33,763	10.77%
	4	自然科学	954	165	25	22,137	7.06%
	5	技 術	770	28	21	20,798	6.63%
	6	産 業	339	16	9	8,963	2.86%
	7	芸 術	1,738	336	21	56,364	17.98%
	8	言 語	127	8	3	4,234	1.35%
	9	文 学	3,161	342	48	113,186	36.10%
	計		9,866	1,459	551	313,512	100%

(2) 視聴覚資料（中央図書館・分館）

① CDほか

項目 分類		受入数		除籍数	保有数
		受入数	（うち寄贈）		
レコード		0	0	0	0
C D		67	10	3	5,691
L D		0	0	0	0
D V D		59	0	7	1,070
ビ デ オ		1	1	1	820
カ セ ッ ト		0	0	0	631
計		127	11	11	8,212

② マイクロフィルム

項目 \ 分類	受入数	保有巻数	内訳
新潟日報	24	1,077	自 S53. 4. 1 ~ 至 R 5. 3.31
新発田新聞		72	自 S 9. 2. 1 ~ 至 S15. 9.25
新下越		1	自 S29. 3.19 ~ 至 S29.12.10
週間タイムス		1	自 S25.12. 6 ~ 至 S27.10.29
北新時報		1	自 S27.11.10 ~ 至 S27.12.18
計	24	1,152	

(3) 逐次刊行物及びその他資料

項目		購入	寄贈	計
新聞	日刊誌	8	3	11
	週刊誌	2	3	5
	不定期	0	3	3
雑誌		196	11	207
加除		11	0	11

(4) 商用データベース

項目	利用可能端末数
官報情報検索サービス	1
日経テレコン21	1
新潟日報記事データベースサービス	1

2 中央図書館利用状況 (開館日数300日)

(1) 利用人員数

	一般	中・高生	児童	計	一日平均
個人	80,764	2,093	10,120	92,977	309.9
団体	—	—	—	739	2.5

(2) 図書貸出冊数

	一般図書	児童図書	雑誌	計	一日平均
個人	172,795	116,826	21,403	311,024	1,036.7
団体	440	4,191	88	4,719	15.7

(3) 視聴覚資料貸出数

	L P	C D	D V D	ビデオ	カセット	計	一日平均
点数	0	9,379	5,979	169	0	15,527	51.8

(4) 新規登録人員数

	一般	中・高生	児童	計	一日平均
個人	788	46	227	1,061	3.5
団体	—	—	—	6	0.0
年度末登録者数(個人)	24,242	2,943	2,592	29,777	—
年度末登録者数(団体)	—	—	—	156	—

(5) 資料予約数

	一般図書	児童図書	雑誌	視聴覚資料	計	一日平均
個人	10,781	2,170	786	268	14,005	46.7
団体	60	56	2	—	118	0.4

3 分館等利用状況

	松浦分室		五十公野分室		川東分室		佐々木分室		豊浦分館		紫雲寺分館		加治川分館		計	
	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数
児童	533	533	134	271	0	0	0	0	54	231	150	712	105	735	976	2,482
一般	6	13	360	1,011	139	464	10	29	776	2,050	976	2,784	1,483	5,689	3,750	12,040
											(1)	(21)	(13)	(63)	(14)	(84)
合計	539	546	494	1,282	139	464	10	29	830	2,281	1,126	3,496	1,588	6,424	4,726	14,522
											(1)	(21)	(13)	(63)	(14)	(84)

()は内数、団体利用の数

2 2 令和4年度歴史図書館運営実績

1 蔵書数

(1) 図書館資料

項目 分類			受入数		除籍数	蔵書数	構成比
			受入	(うち寄贈)			
図書受入・除籍及び蔵書数	0	総 記	555	453	0	5,188	15.58%
	1	哲 学	38	34	0	1,508	4.53%
	2	歴 史	591	406	0	14,297	42.93%
	3	社会科学	119	63	0	2,187	6.57%
	4	自然科学	9	6	0	466	1.40%
	5	技 術	17	7	0	348	1.05%
	6	産 業	24	18	0	412	1.24%
	7	芸 術	119	78	0	2,746	8.25%
	8	言 語	3	2	0	559	1.68%
	9	文 学	42	34	0	4,631	13.91%
	F	小 説	4	3	0	929	2.79%
	そ の 他		0	0	0	30	0.09%
	計		1,521	1,104	0	33,301	100%

(2) 視聴覚資料

項目 分類		受入数		除籍数	保有数
		受入数	(うち寄贈)		
レコード		0	0	0	3,138
C D		4	1	0	99
L D		0	0	0	423
DVD		4	4	0	21
その他		0	0	0	64
計		8	5	0	3,745

(3) 逐次刊行物及びその他資料

項目	購入	寄贈	計
雑誌（単位：誌）	16	0	16

(4) 商用データベース

項目	利用可能端末数
インターネット	4
古文書検索	1
にいがたMALUI連携・地域データベース	1
国立国会図書館デジタルコレクション	1
新潟日報記事データベース	1

(5) デジタルアーカイブ

項目	計
ガイドンス映像（短編「蒲原平野の開拓」「新発田城とその城下町」ほか）	5本
人物アーカイブ（堀部安兵衛、大倉喜八郎、坪川洵平、露谷虹児ほか）	61人
郷土資料目録16分類（郷土第1・第2、丹羽文庫ほか）	3,945点
漢籍データベース 四部分類（経部、史部、子部、集部）	1,234件
新発田藩制資料（新発田藩資料、江戸上屋敷文書、世臣譜）	5,667点
村方・町方文書（高澤家、二宮家、岩渕家、石井家）	2,040点
溝口伊織家文書	4,524点

2 歴史図書館利用状況（開館日数296日、うち閲覧室開業日数198日）

(1) 入館人数

一般	15,683人	一日平均	53.0人
----	---------	------	-------

(2) 図書資料貸出冊数

	冊数	一日平均
個人	1,609	8.1
団体	18	0.1

(3) 視聴覚資料貸出数

	レコードほか	一日平均
点数	8	0.0

(4) レファレンス件数

	件数	一日平均
個人	15	0.1

(5) 古文書等閲覧点数

	点数	延べ人数
個人	270	40

(6) 新規登録人員数

	一般	中・高生	児童	計
個人	20	0	0	20

2 3 公民館施設等利用状況

※令和2年度に「中央公民館」を「市民文化会館」に施設統合
令和3年度中に「加治川地区公民館」移転

1 公民館等利用状況

(単位：回、人)

施設	H30		R 1		R 2		R 3		R 4	
	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人
旧中央公民館	※H30～R1の利用状況については「24市民文化会館事業実績」を参照				—	—	—	—	—	—
豊浦地区公民館	2,402	47,562	2,007	44,921	2,128	42,966	2,271	64,125	2,153	64,452
紫雲寺地区公民館	921	11,655	999	10,261	837	8,182	909	11,179	739	12,085
加治川地区公民館	609	8,578	519	7,622	587	5,010	359	4,000	652	10,623
生涯学習センター (新発田地区公民館)	2,060	95,089	2,285	79,864	1,939	36,519	1,994	47,784	2,833	62,774

※令和2年度末で「加治川地区公民館金塚分館」を廃止
令和3年度中に「紫雲寺地区公民館西部分館・大島分館」を廃止

2 分館利用状況

(単位：回、人)

施設	H30		R 1		R 2		R 3		R 4	
	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人
新発田地区公民館 分館合計	6,185	77,612	6,221	74,821	4,837	45,850	4,900	62,233	4,681	58,304
五十公野分館	2,229	17,971	2,277	16,349	1,832	12,072	2,010	16,952	1,869	17,350
松浦分館	245	6,249	315	6,123	156	2,576	152	1,620	174	3,015
米倉分館	152	2,658	147	2,905	109	1,904	114	1,671	112	1,970
赤谷分館	246	2,488	190	2,036	149	1,229	117	879	170	1,394
菅谷分館	960	14,638	927	14,811	786	8,566	450	5,160	266	4,466
加治分館	1,084	14,097	1,159	15,876	921	10,590	1,060	21,514	988	15,528
佐々木分館	559	11,320	508	8,080	342	3,550	398	5,664	313	3,611
川東分館	710	8,191	698	8,641	542	5,363	599	8,773	789	10,970
紫雲寺地区公民館 分館合計	124	1,364	106	1,337	135	1,124	88	673	0	0
紫雲寺地区公民館 西部分館	22	331	18	491	13	123	10	81	—	—
紫雲寺地区公民館 大島分館	102	1,033	88	846	122	1,001	78	592	—	—
加治川地区公民館 分館合計	820	8,571	696	7,128	438	4,113	211	2,464	187	2,454
加治川地区公民館 中川分館	388	5,505	341	4,637	193	2,363	211	2,464	187	2,454
加治川地区公民館 金塚分館	432	3,066	355	2,491	245	1,750	—	—	—	—
全館計	11,061	155,342	10,548	146,090	10,901	143,764	10,732	192,458	11,245	210,692

2 4 地区公民館受託管理施設利用状況（体育施設）

豊浦地区公民館受託施設

（単位：人）

■真木山中央公園野球場

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	363	779	47%
5	693	978	71%
6	690	817	84%
7	668	1,121	60%
8	472	1,113	42%
9	730	337	217%
10	576	799	72%
11	251	320	78%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	4,443	6,264	71%

■真木山中央公園ゲートボール場

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	0	0	-
5	16	8	200%
6	56	16	350%
7	51	13	392%
8	48	32	150%
9	41	16	256%
10	107	17	629%
11	12	18	67%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	331	120	276%

■真木山中央公園多目的練習場

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	544	660	82%
5	599	753	80%
6	623	682	91%
7	616	731	84%
8	601	645	93%
9	598	475	126%
10	669	660	101%
11	724	805	90%
12	739	1,074	69%
1	923	886	104%
2	1,011	781	129%
3	951	945	101%
計	8,598	9,097	95%

■豊浦総合運動施設多目的グラウンド

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	480	1,103	44%
5	549	1,194	46%
6	3,368	3,273	103%
7	851	1,110	77%
8	575	1,032	56%
9	524	583	90%
10	677	1,129	60%
11	95	120	79%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	7,119	9,544	75%

■豊浦体育センター

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	476	846	56%
5	499	830	60%
6	897	1,042	86%
7	961	704	137%
8	807	736	110%
9	1,069	394	271%
10	1,022	1,457	70%
11	884	1,116	79%
12	1,240	1,234	100%
1	1,018	845	120%
2	993	330	301%
3	949	903	105%
計	10,815	10,437	104%

■豊浦総合運動施設テニスコート

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	463	711	65%
5	616	836	74%
6	687	834	82%
7	632	740	85%
8	500	495	101%
9	539	399	135%
10	579	645	90%
11	324	228	142%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	4,340	4,888	89%

■豊浦総合運動施設キャンプ場

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	71	45	158%
5	86	118	73%
6	140	67	209%
7	153	130	118%
8	68	28	243%
9	41	111	37%
10	81	78	104%
11	37	23	161%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	677	600	113%

紫雲寺地区公民館受託施設

■五ヶ字運動広場

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	447	628	71%
5	510	607	84%
6	602	579	104%
7	380	521	73%
8	331	474	70%
9	389	248	157%
10	436	469	93%
11	262	174	151%
12	8	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	238	130	183%
計	3,603	3,830	94%

■大島体育館

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	195	250	78%
5	219	286	77%
6	145	196	74%
7	161	286	56%
8	229	238	96%
9	204	118	173%
10	159	157	101%
11	453	160	283%
12	246	0	-
1	322	0	-
2	336	0	-
3	302	0	-
計	2,971	1,691	176%

加治川地区公民館受託施設

■加治川地区体育館

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	864	947	91%
5	1,394	1,089	128%
6	1,137	1,457	78%
7	785	951	83%
8	1,019	1,028	99%
9	1,612	550	293%
10	1,486	1,229	121%
11	2,167	1,320	164%
12	1,664	1,306	127%
1	1,046	963	109%
2	1,126	656	172%
3	1,712	1,096	156%
計	16,012	12,592	127%

■加治川地区屋外運動場

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	175	159	110%
5	183	308	59%
6	257	326	79%
7	95	223	43%
8	52	296	18%
9	206	187	110%
10	214	299	72%
11	62	112	55%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	147	123	120%
計	1,391	2,033	68%

■大天城公園野球場

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	248	180	138%
5	450	527	85%
6	414	348	119%
7	354	133	266%
8	258	351	74%
9	151	143	106%
10	222	252	88%
11	168	191	88%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	2,265	2,125	94%

■大天城公園テニスコート

月	R 4 年度	R 3 年度	前年比
4	77	50	154%
5	88	104	85%
6	92	105	88%
7	94	95	99%
8	51	149	34%
9	102	81	126%
10	53	98	54%
11	33	20	165%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	590	702	84%

2 5 市民文化会館事業実績

(1) 自主事業入場者数

(単位：人)

公 演 名	H30	H31	R2	R3	R4
文化創造事業	4,415	4,544	912	823	2,678
教育鑑賞事業	10,200	10,997	904	2,559	8,869
(うち小・中学校教育鑑賞事業)	(7,565)	(7,493)	中止	中止	6,659
全国「花嫁人形」合唱コンクール	1,006	1,016	中止	中止	301
	15,621	16,557	1,816	3,382	11,848

(2) 大ホール、一階ホール、各部屋の使用状況

大ホール	H30	H31	R2	R3	R4
使用日数(日)	149	127	49	93	91
使用件数(件)	380	319	121	217	352
使用可能日数(日)	299	287	254	221	326
使用日率(%)	49.83	44.25	19.29	42.08	27.91
使用件数率(%)	42.83	37.05	15.88	35.02	35.99
入場者数(人)	44,941	39,335	7,431	15,826	31,339

※使用件数率・・・使用件数÷(使用可能日数×3)×100

一階ホール	H30	H31	R2	R3	R4
使用日数(日)	125	107	44	61	141
入場者数(人)	4,569	4,018	750	1,594	3,183

			H30	H31	R2	R3	R4
練習室 1		使用件数 (件)	544	493	256	315	359
		使用者数 (人)	4,994	4,017	1,397	1,896	2,371
練習室 2		使用件数 (件)	564	527	315	398	440
		使用者数 (人)	4,619	4,148	2,118	2,457	2,993
練習室 3		使用件数 (件)	339	301	142	265	345
		使用者数 (人)	5,451	4,209	1,377	2,679	3,567
旧中央公民館施設	講堂	使用件数 (件)	321	224	235	283	416
		使用者数 (人)	8,686	4,221	2,477	3,223	5,520
	会議室	使用件数 (件)	286	302	345	373	428
		使用者数 (人)	5,898	2,713	2,253	3,019	3,049
	講義室	使用件数 (件)	246	193	201	271	381
		使用者数 (人)	5,126	1,846	1,429	1,901	2,568
	工作実習室	使用件数 (件)	340	292	285	442	446
		使用者数 (人)	2,653	2,115	1,608	1,961	2,659
	美術実習室	使用件数 (件)	287	282	233	283	309
		使用者数 (人)	5,276	2,742	1,493	1,892	2,173
	調理実習室	使用件数 (件)	79	46	65	106	98
		使用者数 (人)	659	591	220	620	672
	和室 1 ～ 3	使用件数 (件)	744	645	1,113	1,151	1,279
		使用者数 (人)	9,362	7,216	8,347	9,373	9,746
合 計		使用件数 (件)	3,750	3,305	3,190	3,887	4,501
		使用者数 (人)	52,724	33,818	22,719	29,021	35,318

※使用件数・・・各使用区分(午前・午後・夜間)をそれぞれ1件として算出。全日使用＝3件

※講堂・会議室・講義室・工作実習室・美術実習室・調理実習室・和室1～3は令和2年度から市民文化会館施設

2 6 青少年健全育成センター等施設一覧

施 設 名	所 在 地	電話番号
青少年健全育成センター 児童センター	緑町2-6-36	26-0897
児童運動センターユウネスしばた	住吉町1-7-17	20-7392
住吉児童クラブ	住吉町5-4-25	24-5398
住吉第2児童クラブ	住吉町5-4-25	22-3860
東豊児童クラブ	東新町4-10-34	22-2376
東豊第2児童クラブ	東新町4-10-34	22-5152
こうぬま児童クラブ	緑町2-6-36	24-5783
外ヶ輪児童クラブ	中央町5-8-9	22-3310
五十公野児童クラブ	五十公野4930-1	26-8311
猿橋児童クラブ	中曽根町3-8-29	22-3314
猿橋第2児童クラブ	中曽根町3-8-29	22-5353
御免町児童クラブ	大栄町4-5-6	26-0473
御免町第2児童クラブ	大栄町4-5-33	22-3666
御免町第3児童クラブ	大栄町4-5-17	22-4811
佐々木児童クラブ	則清956-1	27-1939
七葉児童クラブ	黒岩722	29-2241
紫雲寺児童クラブ	稲荷岡2371	41-3114
加治川児童クラブ	川口128-1	39-6016
松浦児童クラブ	法正橋676	23-0313
豊浦児童クラブ	大伝465-2	22-2411
川東児童クラブ	下羽津1938	25-3939

27 青少年健全育成センター等利用状況

(1) 育成センター・児童センター・紫雲寺児童館・加治川児童館利用状況 (単位：人)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
センター	29,531	24,204	21,221	21,657	20,135	20,982	12,996	16,400	19,660
紫雲寺	—	1,696	1,333	1,525	2,875	2,251	1,429	1,116	608
加治川	—	2,902	2,205	1,710	1,640	1,317	556	478	633
合計	29,531	28,802	24,759	24,892	24,650	24,550	14,981	17,994	20,901

※令和4年度の紫雲寺児童館・加治川児童館は4月から12月までです。

(2) 児童クラブ登録児童数 (月平均) (単位：人)

	住吉	住吉第2	東豊	東豊第2	こうぬま	外ヶ輪	五十公野	猿橋	猿橋第2	御免町	2御免町第	3御免町第	佐々木	七葉	紫雲寺	加治川	松浦	豊浦	川東	計
H30	56	72	78	61	57	70	82	92	78	61	32	23	45	53	48	51	20	46	50	1,075
R1	62	83	76	63	66	73	76	95	77	47	30	34	47	51	39	51	16	48	52	1,086
R2	69	93	84	70	68	61	66	75	84	46	36	30	33	37	41	34	10	39	43	1,019
R3	71	92	74	66	81	58	67	91	75	53	36	40	38	42	45	40	5	56	43	1,073
R4	74	97	93	74	82	64	66	83	77	57	46	39	33	49	48	38	10	68	45	1,143

(3) 放課後子ども教室在籍児童数 (月平均) (単位：人)

	二葉	菅谷	外ヶ輪	猿橋	計
H30	31	15	8	8	62
R1	22	20	7	5	54
R2	21	17	6	5	49
R3	23	—	7	12	42
R4	29	—	13	7	49

28 補導活動の状況

(1) 補導活動による行為別・年度別指導数

年度	指導総数 (人)	主な指導状況 (人)							巡回 日数 (日)
		声かけ	ゲーム 場	喫煙	服装 態度	危険箇 所遊び	交通 ルール 無視	その他	
H30	531	500	6	0	0	4	14	7	144
R1	583	546	0	0	0	0	3	34	134
R2	172	172	0	0	0	0	0	0	104
R3	283	275	0	0	0	3	5	0	91
R4	549	529	0	0	0	0	14	6	135

(2) 学校種別・年度別指導数

年度	小学校 (人)	中学校 (人)	高等 学校 (人)	その他	割合 (%)			
					小学校	中学校	高等 学校	その他
H30	368	96	58	9	69.3	18.1	10.9	1.7
R1	243	208	132	0	41.7	35.7	22.6	0.0
R2	144	21	4	3	83.7	12.2	2.3	1.8
R3	197	73	13	0	69.6	25.8	4.6	0.0
R4	485	51	12	1	88.3	9.3	2.2	0.2

裏表紙／新発田市章 五階菱（溝口菱）

初代秀勝関ヶ原の合戦に徳川勢に属し大功を樹てたが、その合戦の前夜秀勝は夢をみた。それは今までの溝口家紋章ミヅナの紋に美しい後光がたなびいたのである。秀勝これを瑞兆なりとしその形に則って紋章を定めた。それが溝口菱であるといわれる。

昭和9年町制当時、溝口家に請うて溝口菱をそのまま町章とし、今日に至る。

新発田市の教育 令和5年度（2023）版

編集・発行

新発田市教育委員会

〒959-2323

新発田市乙次 281 番地 2

TEL 0254-22-9531

FAX 0254-26-3755

令和5年10月発行

